



* 0015076000 *

0015076-000

325-N683k

改正商法

高文社編輯部・編

高文社

1948

ACF

分 册 六 法

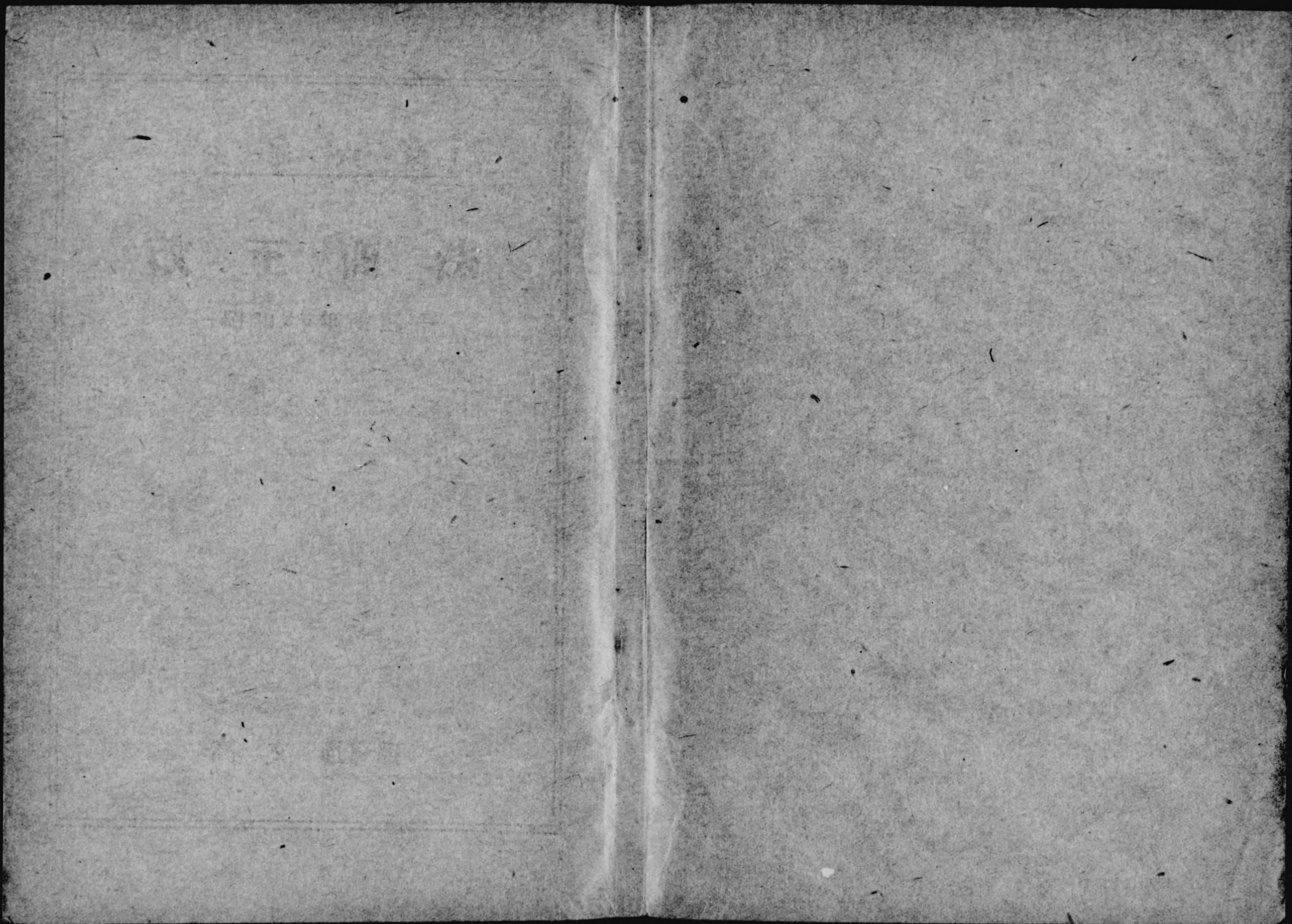
改 正 商 法

— 昭 和 23 年 改 正 —



高 文 社 版

N



分 册 六 法

改 正 商 法

— 昭 和 23 年 改 正 —



高 文 社 版

325
N683k



701947

商法目次

○商法 (明治三十二年法律四八號)

第一編 總則

第一章 法例……………一

第二章 商人……………一

第三章 商號登記……………一

第四章 商號……………二

第五章 商業帳簿……………二

第六章 商業使用人……………三

第七章 代理商……………三

第二編 會社

第一章 總則……………四

第二章 合名會社……………四

第一節 設立……………四

第二節 會社ノ内部ノ關係……………六

第三節 會社ノ外部ノ關係……………七

第四節 社員ノ退社……………七

第五節 解散……………八

第六節 清算……………八

第三章 合資會社……………三〇

第四章 株式會社……………三〇

第一節 設立……………三〇

第二節 株式……………三六

第三節 會社ノ機關……………三六

第一款 株主總會……………三三

第二款 取締役……………三三

第三款 監査役……………三三

第四節 會社ノ計算……………三六

第五節 社債……………三七

第一款 總則……………三七

第二款 社債權者集會……………三七

第六節 定款ノ變更……………三三

第七節 會社ノ整理……………三三

第八節 解散……………三三

第九節 清算……………三三

第一款 總則……………三三

第二款 特別清算……………三三

第三章 株式合資會社……………三三

第四章 外國會社……………三三

第七章 罰則……………三三

第三編 商行為

第一章 總則……………三三

第二章 買賣……………三三

第三章 交互計算……………三三

第四章 匿名組合……………三三

第五章 仲立營業……………三三

第六章 問屋營業……………三三

第七章 運送取扱營業……………三三

第八章 運送營業……………三三

第一款 物品運送……………三三

第二款 旅客運送……………三三

第九章 寄託……………三三

第一節 總則……………三三

第二款 倉庫營業……………三三

第十章 保險……………三三

第一節 損害保險……………三三

第一款 總則……………三三

第二款 火災保險……………三三

第三款 運送保險……………三三

第二款 生命保險……………三三

第四編 海商

第一章 船舶及船舶所有者……………三三

第二章 船員……………三三

第一節 船長……………三三

第二節 海員……………三三

第三章 運送……………三三

第一節 物品運送……………三三

第一款 總則……………三三

第二款 船荷證券……………三三

第四章 海損……………三三

第五章 海難救助……………三三

第六章 保險……………三三

第七章 船舶債權者……………三三

目次

附則 (明治四四—法律) 〇
 附則 (昭和一一—法律) 〇
 附則 (第七二號附則) 〇

○有限會社法 (昭和一一—法律) (律第七四號) 〇

第一章 總則 〇
 第二章 設立 〇
 第三章 社員ノ權利義務 〇
 第四章 會社ノ管理 〇
 第五章 定款ノ變更 〇
 第六章 合併及組織變更 〇
 第七章 解散 〇
 第八章 外國會社 〇
 第九章 罰則 〇
 第十章 雜則 〇
 附則 〇

○手形法 (昭和七—法律) (律第二〇號) 〇

第一編 爲替手形 〇
 第一章 爲替手形ノ振出及方式 〇
 第二章 裏書 〇
 第三章 引受 〇
 第四章 保證 〇
 第五章 満期 〇
 第六章 支拂 〇

第七章 引受拒絶又ハ支拂拒絶ニ因ル請求 〇
 第八章 參加 〇
 第一節 通則 〇
 第二節 參加引受 〇
 第三節 參加支拂 〇
 第九章 複本及ヒ贖本 〇
 第一節 複本 〇
 第二節 贖本 〇
 第十章 變造 〇
 第十一章 時效 〇
 第十二章 通則 〇
 第二編 約束手形 〇
 附則 〇

○小切手法 (昭和八—法律) (律第五七號) 〇

第一章 小切手ノ振出及方式 〇
 第二章 讓渡 〇
 第三章 保證 〇
 第四章 呈示及支拂 〇
 第五章 線引小切手 〇
 第六章 支拂拒絶ニ因ル請求 〇
 第七章 複本 〇
 第八章 變造 〇
 第九章 時效 〇

○商法 (明治三十二年三月九日) (法律第四十八號) 〇

改正 明治四四—法律七三 大正
 七—法律一〇 昭和八—法律七
 昭和一一—法律一三 昭和七—法律五
 昭和一二—法律二二 昭
 二—法律一四八

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル商法修正ノ件
 ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 商法別冊ノ通之ヲ定ム
 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
 ム (明治三十二年勅令第三百三十三號ヲ以
 テ同年六月十六日ヨリ施行ス)

第一章 總則

第一條 商事ニ關シ本法ニ規定ナキモノ
 ニ付テハ商慣習法ヲ適用シ商慣習法ナ
 キトキハ民法ヲ適用ス
 第二條 公法人ノ商行爲ニ付テハ法令ニ
 別段ノ定ナキトキニ限り本法ヲ適用ス
 第三條 當事者ノ一方ノ爲ニ商行爲タル
 行爲ニ付テハ本法ヲ雙方ニ適用ス
 當事者ノ一方ガ數人アル場合ニ於テ其
 ノ一人ノ爲ニ商行爲タル行爲ニ付テハ

本法ヲ其ノ全員ニ適用ス

第二章 商人

第四條 本法ニ於テ商人トハ自己ノ名ヲ
 以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ
 店舗其ノ他之ニ類似スル設備ニ依リテ
 物品ノ販賣ヲ爲スヲ業トスル者又ハ銀
 業若ハ砂鐵業ヲ營ム者ハ商行爲ヲ爲ス
 ヲ業トセザルモ之ヲ商人ト看做ス第五
 十二條第二項ノ會社亦同シ
 第五條 未成年者ガ前條ノ營業ヲ爲スト
 キハ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第六條 會社ノ無限責任社員ト爲ルコト
 ヲ許サレタル未成年者ハ社員タル資格
 ニ基ク行爲ニ關シテハ之ヲ能力者ト看
 做ス
 第七條 後見人カ被後見人ノ爲ニ第四條
 ノ營業ヲ爲ストキハ登記ヲ爲スコトヲ
 要ス
 後見人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ
 以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得
 ズ
 第八條 本法中商業登記、商號及商業帳
 簿ニ關スル規定ハ小商人ニハ之ヲ適用
 セズ
 第三章 商業登記

第九條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ當
 事者ノ請求ニ依リ其ノ營業所ノ所在地
 ヲ管轄スル裁判所ニ備ヘタル商業登記
 簿ニ之ヲ登記ス

第十條 本店ノ所在地ニ於テ登記スベキ
 事項ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ支店
 ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記スルコト
 ヲ要ス

第十一條 登記シタル事項ハ裁判所ニ於
 テ遲滞ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス
 公告ガ登記ト相違スルトキハ公告ナカ
 リシモノト看做ス

第十二條 登記スベキ事項ハ登記及公告
 ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ善意ノ第三者
 ニ對抗スルコトヲ得ズ登記及公告ノ後
 ト雖モ第三者ガ正當ノ事由ニ因リテ之
 ヲ知ラザリシトキ亦同シ

第十三條 支店ノ所在地ニ於テ登記スベ
 キ事項ヲ登記セザリシトキハ前條ノ規
 定ハ其ノ支店ニ於テ爲シタル取引ニ付
 テノミ之ヲ適用ス

第十四條 故意又ハ過失ニ因リ不實ノ事
 項ヲ登記シタル者ハ其ノ事項ノ不實ナ
 ルコトヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スル
 コトヲ得ズ

第十五條 登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項ガ消滅シタルトキハ當事者ハ遲滞ナク變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 商號

第十六條 商人ハ其ノ氏、氏名其ノ他ノ名稱ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得

第十七條 會社ノ商號中ニハ其ノ種類ニ從ヒ合名會社、合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス

第十八條 會社ニ非ズシテ商號中ニ會社タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ 會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同ジ

第十九條 他人ガ登記シタル商號ハ同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲ニ之ヲ登記スルマツ得ズ

第二十條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテ其ノ使用ヲ止ムベキコトヲ請求スルコトヲ得但シ損害賠償ノ請求ヲ妨グズ

同市町村内ニ於テ同一ノ營業ノ爲ニ他人ノ登記シタル商號ヲ使用スル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルモノト推定ス

第二十一條 何人ト雖モ不正ノ目的ヲ以テ他人ノ營業ナリト誤認セシムベキ商號ヲ使用スルコトヲ得ズ

第二十二條 不正ノ競争ノ目的ヲ以テ第二十條第一項ノ商號ヲ使用シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス前條第一項ノ規定ニ違反シタル者亦同ジ

第二十三條 自己ノ氏、氏名又ハ商號ヲ使用シテ營業ヲ爲スコトヲ他人ニ許諾シタル者ハ自己ヲ營業主ナリト誤認シテ取引ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ取引ニ因リテ生ジタル債務ニ付其ノ他人ト連帶シテ辨濟ノ責ニ任ズ

第二十四條 商號ハ營業ト共ニスル場合又ハ營業ヲ廢止スル場合ニ限り之ヲ讓渡スコトヲ得

第二十五條 營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者ガ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ讓渡人ハ同市町村及隣接市町村内ニ於テ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ズ

讓渡人ガ同一ノ營業ヲ爲サザル特約ヲ爲シタルトキハ其ノ特約ハ同府縣及隣接府縣内且三十年ヲ超エザル範圍内ニ於テノミ其ノ效力ヲ有ス

讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十六條 營業ノ讓受人ガ讓渡人ノ商號ヲ續用スル場合ニ於テハ讓渡人ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ニ付テハ讓受人モ亦其ノ辨濟ノ責ニ任ズ

第二十七條 前條第一項ノ場合ニ於テ讓渡人ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

讓渡人ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ニ付讓受人ニ爲シタル辨濟者ガ善意ニシテ且重大ナル過失ナカリシトキニ限り其ノ效力ヲ有ス

第二十八條 營業ノ讓受人ガ讓渡人ノ商號ヲ續用セザル場合ニ於テモ讓渡人ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ヲ引受ケル旨ヲ廣告シタルトキハ債權者ハ其讓受人ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 營業ノ讓受人ガ第二十六條第一項又ハ前條ノ規定ニ依リ讓渡人ノ債務ニ付責ニ任ズル場合ニ於テハ讓渡人ノ責任ハ營業ノ讓渡又ハ前條ノ廣告ノ後二年内ニ請求又ハ請求ノ警告ヲ爲サザル債權者ニ對シテハ二年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第三十條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ正當ノ事由ナクシテ二年間其ノ商號ヲ使用セザルトキハ商號ヲ廢止シタルモノト看做ス

第三十一條 商號ノ廢止又ハ變更アリタル場合ニ於テ其ノ商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲サザルトキハ利害關係人ハ其ノ登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第五章 商業帳簿

第三十二條 商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日日ノ取引其ノ他財産ニ影響ヲ及ボスベキ一切ノ事項ヲ悉然且明瞭ニ記載スルコトヲ要ス但シ家事費用ハ一月毎ニ其ノ總額ヲ記載スルヲ以テ足ル

第三十三條 商人ハ開業ノ時及毎年一回一定ノ時期ニ於テ動産、不動産、債權、債務其ノ他ノ財産ノ總目錄及貸借方ノ對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第三十四條 財産目錄ニハ動産、不動産、債權其ノ他ノ財産ニ價額ヲ附シテ之ヲ記載スルコトヲ要ス其ノ價額ハ財産目錄調製ノ時ニ於ケル價格ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十五條 商人ハ數人ノ支配人ガ共同シテ代理權ヲ行使スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得

第三十六條 商人ハ十年間其ノ商業帳簿及其ノ營業ニ關スル重要書類ヲ保存スルコトヲ要ス

第三十七條 商人ハ支配人ヲ選任シ本店又ハ支店ニ於テ其ノ營業ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十八條 支配人ハ營業主ニ代リテ其ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十九條 商人ハ數人ノ支配人ガ共同シテ代理權ヲ行使スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得

第四十條 前項ノ場合ニ於テ支配人ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ營業主ニ對シテ

其ノ效力ヲ生ズ

第四十條 支配人ノ選任及其ノ代理權ノ消滅ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ營業主之ヲ登記スルコトヲ要ス前條第一項ニ定ムル事項及其ノ變更亦同シ

第四十一條 支配人ハ營業主ノ許諾アルニ非ザレバ營業ヲ爲シ、自己若ハ第三者ノ爲ニ營業主ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員、取締役若ハ他ノ商人ノ使用人ト爲ルコトヲ得ズ

支配人ガ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ取引ヲ爲シタルトキハ營業主ハ之ヲ以テ自己ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定ムル權利ハ營業主ガ其ノ取引ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ超過シタルトキ亦同シ

第四十二條 本店又ハ支店ノ營業ノ主任者タルコトヲ示スベキ名稱ヲ附シタル使用人ハ之ヲ其ノ本店又ハ支店ノ支配人ト同一ノ權限ヲ有スルモノト看做ス但シ裁判上ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ相手方ガ惡意ナリシ場合ニハ之ヲ適用セズ

第四十三條 香頭、手代其ノ他營業ニ關スル或種類又ハ特定ノ事項ヲ委任ヲ受ケタル使用人ハ其ノ事項ニ關シ一切ノ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十八條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 物品ノ販賣ヲ目的トスル店舗ノ使用人ハ其ノ店舗ニ在ル物品ノ販賣ニ關スル權限ヲ有スルモノト看做ス

第四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 本章ノ規定ハ營業主ト商業使用人トノ間ノ雇傭關係ニ付民法ヲ適用スルコトヲ妨ゲズ

第七章 代理商
第四十六條 代理商トハ使用人ニ非ズシテ一定ノ商人ノ爲ニ平常其ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ

第四十七條 代理商ガ取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク本人ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四十八條 代理商ハ本人ノ許諾アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ本人ノ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第五十八條 會社ガ正當ノ事由ナクシテ其ノ成立後一年內ニ開業ヲ爲サズ又ハ一年以上營業ヲ休止シタルトキハ裁判所ハ利害關係人若ハ檢察官ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役又ハ監査役ガ法令又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ會社ノ存立ヲ許スベカラザル事由アルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ解散ノ命令前ト雖モ利害關係人若ハ檢察官ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ管理人ノ選任其ノ他會社財產ノ保全ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第五十九條 利害關係人ガ前條第一項又ハ第二項ノ請求ヲ爲シタルトキハ會社ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第六十條 利害關係人ノ爲シタル第五十八條第一項又ハ第二項ノ請求ガ却下セラレタル場合ニ於テ其ノ者ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ會社ニ對シテ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ

營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ

第四十一條第二項及第三項ノ規定ハ代理商ガ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條 物品ノ販賣又ハ其ノ媒介ノ委託ヲ受ケタル代理商ハ賣買ノ目的物ノ瑕疵又ハ數量ノ不足其ノ他賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受タル權限ヲ有ス

第五十條 當事者ガ契約ノ期間ヲ定メザラシトキハ各當事者ハ二月前ニ豫告ヲ爲シテ其ノ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

當事者ガ契約ノ期間ヲ定メタルトキハ問ハズ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ其ノ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 代理商ハ取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生ジタル債權ガ辨濟期ニ在ルトキハ其ノ辨濟ヲ受タル迄本人ノ爲ニ占有スル物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但シ別段ノ意思表示アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 會社
第一節 總則
第五十二條 本法ニ於テ會社トハ商行爲

第六十一條 本編ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第二章 合名會社
第一節 設立
第六十二條 合名會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第六十三條 合名會社ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス

一 目的
二 商號
三 社員ノ氏名及住所
四 本店及支店ノ所在地
五 社員ノ出資ノ目的及其ノ價格又ハ評價ノ標準

第六十四條 合名會社ノ設立ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 前條第一號乃至第三條ニ掲グル事項
二 本店及支店
三 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
四 社員ノ出資ノ目的、財產ヲ目的トスル出資ニ付テハ其ノ價格及履行ヲ

第五十七條 會社ハ本店ノ所在地ニ於テ

爲シタル部分
 五 社員ニシテ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名
 六 數人ノ社員ガ共同シ又ハ社員ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定
 會社ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後二週間内ニ支店ノ所在地ニ於テ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス
 第六十五條 會社ノ成立後支店ヲ設ケタルトキ本支店ノ所在地ニ於テハ二週間内ニ支店ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ前條第一項ニ掲グル事項ヲ登記シ他ノ支店ノ所在地ニ於テハ同期間内ニ其ノ支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス
 本店又ハ支店ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ支店ヲ設ケタルトキハ其ノ支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル
 第六十六條 會社ガ其ノ本店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ三週間内ニ第六十四條第一項ニ掲グル事項ヲ登記シ其ノ支店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ三週間内ニ移轉ノ登記スルヲ以テ足ル

登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ四週間内ニ第六十四條第一項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス
 同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノ登記ヲ爲スヲ以テ足ル
 第六十七條 第六十四條第一項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第二節 會社ノ内部ノ關係
 第六十八條 會社ノ内部ノ關係ニ付テハ定款又ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ組合ニ關スル民法ノ規定ヲ準用ス
 第六十九條 社員ガ債權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ債務者ガ辨濟ノ辨濟ヲ爲サザリシトキハ社員ハ其ノ辨濟ノ責ニ任ズ此ノ場合ニ於テハ其ノ利息ヲ支拂フ外尙損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス
 第七十條 各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ
 第七十一條 支配人ノ選任及解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ社

員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
 第七十二條 定款ノ變更其ノ他會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラザル行爲ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス
 第七十三條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非ザレバ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ズ
 第七十四條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ
 社員ガ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ取引ヲ爲シタルトキハ他ノ社員ハ過半数ノ決議ニ依リ之ヲ以テ會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得
 前項ニ定ムル權利ハ他ノ社員ノ一人ガ其ノ取引ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同ジ
 第七十五條 社員ハ他ノ社員ノ過半数ノ決議アリタルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲ニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第百八條ノ規定ヲ適用セズ

第三節 會社ノ外部ノ關係

第七十六條 業務ヲ執行スル社員ハ各自會社ヲ代表ス但シ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ業務執行社員中特ニ會社ヲ代表スベキ者ヲ定ムルコトヲ妨グズ
 第七十七條 會社ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ數人ノ社員ガ共同シ又ハ社員ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得
 第三十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第七十八條 會社ヲ代表スベキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
 民法第四十四條第一項及第五十四條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス
 第七十九條 會社ガ社員ニ對シ又ハ社員ガ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テ其ノ訴ニ付會社ヲ代表スベキ社員ナキトキハ他ノ社員ノ過半数ノ決議ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ要ス
 第八十條 會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハザルトキハ各社員連帶シテ其ノ辨濟ノ責ニ任ズ
 會社財産ニ對スル強制執行ガ其ノ效ヲ奏セザルトキ亦前項ニ同ジ

前項ノ規定ハ社員ガ會社ニ辨濟ノ資力アリ且執行ノ容易ナルコトヲ證明シタルトキハ之ヲ適用セズ
 第八十一條 社員ハ會社ニ屬スル抗辯ヲ以テ會社ノ債權者ニ對シ抗スルコトヲ得會社ガ其ノ債權者ニ對シ相殺權、取消權又ハ解除權ヲ有スル場合ニ於テハ社員ハ其ノ者ニ對シ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得
 第八十二條 會社ノ成立後加入シタル社員ハ其ノ加入前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負フ
 第八十三條 社員ニ非ザル者ニ自己ヲ社員ナリト認認セシムベキ行爲アリタルトキハ其ノ者ハ認認ニ基キテ會社ト取引ヲ爲シタル者ニ對シ社員ト同一ノ責任ヲ負フ
 第四節 社員ノ退社
 第八十四條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メザリシトキ又ハ或社員ノ終身間會社ノ存續スベキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但シ六月前ニ其ノ豫告ヲ爲スコトヲ要ス
 會社ノ存立時期ヲ定メタルトキハ問ハズ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ

各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得
 第八十五條 前條及第九十一條第一項ニ定ムル場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス
 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
 二 總社員ノ同意
 三 死亡
 四 破産
 五 禁治産
 六 除名
 第八十六條 社員ニ付左ノ事由アルトキハ會社ハ他ノ社員ノ過半数ノ決議ヲ以テ其ノ社員ノ除名又ハ業務執行權若ハ代表權ノ喪失ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
 一 出資ノ義務ヲ履行セザルコト
 二 第七十四條第一項ノ規定ニ違反シタルコト
 三 業務ヲ執行スルニ當リ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ權利ナクシテ業務ヲ執行ニ干與シタルコト
 四 會社ヲ代表スルニ當リ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ權利ナクシテ會社ヲ代表シタルコト
 五 其ノ他重要ナル義務ヲ盡サザルコト

社員が業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ著シク不適任ナルトキハ會社ハ前項ノ規定ニ從ヒ其ノ社員ノ業務執行權又ハ代表權ノ喪失ノ宣旨ヲ請求スルコトヲ得

社員ノ除名又ハ業務執行權若ハ代表權ノ喪失ノ判決確定シタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條 除名セラレタル社員ト會社トノ間ノ計算ハ除名ノ訴ヲ提起シタル時ニ於ケル會社財産ノ狀況ニ從ヒテ之ヲ爲シ且其ノ時ヨリ法定利息ヲ附スルコトヲ要ス

第八十八條 第八十六條ノ訴ハ本店ノ所在地ノ地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第八十九條 退社員ハ勞務又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ其ノ持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九十條 社員ノ持分ノ差押ハ社員ガ將來利益ノ配當及持分ノ拂戻ヲ請求スル權利ニ對シテモ亦其ノ效力ヲ有ス

第九十一條 社員ノ持分ヲ差押ヘタル債權者ハ營業年度ノ終ニ於テ其ノ社員ヲ退社セシムルコトヲ得但シ會社及其ノ社員ニ對シ六月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヨトヲ要ス

前項但書ノ豫告ハ社員ガ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第九十二條 會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用ヒタルトキハ退社員ハ其ノ氏又ハ氏名ノ使用ヲ止ムベキコトヲ請求スルコトヲ得

第九十三條 退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付責任ヲ負フ

前項ノ責任ハ前項ノ登記後二年內ニ請求又ハ請求ノ豫告ヲ爲サザル會社ノ債權者ニ對シテハ登記後二年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第九十四條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生

二 總社員ノ同意

第九十五條 前條第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得但シ同意ヲ爲サザリシ社員ハ退社シタルモノト看做ス

前條第四號ノ場合ニ於テハ新ニ社員ヲ加入セシメテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

第九十六條 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除ク外本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ解散ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十七條 會社ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後ト雖モ第九十五條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スルコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於テハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ繼續ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十八條 會社ガ合併ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス

解散後ノ會社ハ存立中ノ會社ヲ存續ス

第九十九條 會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル時ハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間內ニ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第一百條 會社ハ前條ノ期間內ニ其ノ債權者ニ對シ合併ニ異議アラバ一定ノ期間內ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

債權者ガ前項ノ期間內ニ異議ヲ述ベザリシトキハ合併ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者ガ異議ヲ述ベタルトキハ會社ハ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供シ又ハ債權者ニ辨濟ヲ受ケシムルコトヲ目的トシテ信託會社ニ相當ノ財産ヲ信託スルコトヲ要ス

第一百一條 會社ガ合併ヲ爲シタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ合併後存續スル會社ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ消滅スル會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ第六十四條ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

債權者ハ營業年度ノ終ニ於テ其ノ社員ヲ退社セシムルコトヲ得但シ會社及其ノ社員ニ對シ六月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヨトヲ要ス

前項但書ノ豫告ハ社員ガ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第九十二條 會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用ヒタルトキハ退社員ハ其ノ氏又ハ氏名ノ使用ヲ止ムベキコトヲ請求スルコトヲ得

第九十三條 退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付責任ヲ負フ

前項ノ責任ハ前項ノ登記後二年內ニ請求又ハ請求ノ豫告ヲ爲サザル會社ノ債權者ニ對シテハ登記後二年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第九十四條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生

二 總社員ノ同意

第九十五條 前條第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得但シ同意ヲ爲サザリシ社員ハ退社シタルモノト看做ス

前條第四號ノ場合ニ於テハ新ニ社員ヲ加入セシメテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

第九十六條 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除ク外本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ解散ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十七條 會社ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後ト雖モ第九十五條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スルコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於テハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ繼續ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九十八條 會社ガ合併ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス

解散後ノ會社ハ存立中ノ會社ヲ存續ス

第九十九條 會社ガ合併ノ決議ヲ爲シタル時ハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間內ニ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第一百條 會社ハ前條ノ期間內ニ其ノ債權者ニ對シ合併ニ異議アラバ一定ノ期間內ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

債權者ガ前項ノ期間內ニ異議ヲ述ベザリシトキハ合併ヲ承認シタルモノト看做ス

務ニ付連帯シテ辨濟ノ責ニ任ズ
合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ
設立シタル會社ガ合併後取得シタル財
産ハ合併ヲ爲シタル會社ノ共有ニ屬ス
前二項ノ場合ニ於テハ各會社ノ負擔部
分又ハ持分ハ其ノ協議ヲ以テ之ヲ定ム
前項ノ場合ニ於テハ裁判所ノ請求ニ依
リ合併ノ時ニ於ケル各會社ノ財産ノ額
其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム
第九十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合
ニ之ヲ準用ス

第六節 清算
第九十九條 會社ハ解散ノ後ト雖モ清算
ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存続スルモ
ノト看做ス

第一百零一條 解散ノ場合ニ於ケル會社財
産ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意
ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ
於テハ解散ノ日ヨリ二週間内ニ財産目
録及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第一百零二條 會社ガ第九十四條第四號
又ハ第六號ノ事由ニ因リテ解散シタル
場合ニハ之ヲ適用セズ

第一百零三條 第一項ノ場合ニ之ヲ準
用ス

第一百零四條 第一項ノ場合ニ於テ社員ノ持分ヲ差押
ヘタル者アルトキハ其ノ者ノ同意ヲ得

第九十九條第一項ニ定ムル登記ヲ爲スコト
ヲ要ス

第一百零一條 第一百零三條第一項ノ場合ニ
於テ從前ノ社員ニシテ有限責任社員ト
爲リタルモノハ本店ノ所在地ニ於テ前
條ノ登記ヲ爲ス前ニ生ジタル會社ノ債
務ニ付テハ無限責任社員ノ責任ヲ免ル
ルコトナシ

第九十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合
ニ之ヲ準用ス

第六節 清算
第九十九條 會社ハ解散ノ後ト雖モ清算
ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存続スルモ
ノト看做ス

第一百零一條 解散ノ場合ニ於ケル會社財
産ノ處分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意
ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ
於テハ解散ノ日ヨリ二週間内ニ財産目
録及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第一百零二條 會社ガ第九十四條第四號
又ハ第六號ノ事由ニ因リテ解散シタル
場合ニハ之ヲ適用セズ

第一百零三條 第一項ノ場合ニ之ヲ準
用ス

第一百零四條 第一項ノ場合ニ於テ社員ノ持分ヲ差押
ヘタル者アルトキハ其ノ者ノ同意ヲ得

ルコトヲ要ス

第一百零八條 會社ガ前條第三項ノ規定ニ
違反シテ其ノ財産ヲ處分シタルトキハ
會社ノ債權者ハ其ノ處分ノ取消ヲ裁判
所ニ請求スルコトヲ得但シ其ノ處分ガ
會社ノ債權者ヲ害セザルモノナルトキ
ハ此ノ限ニ在ラズ

民法第四百二十四條第一項但書、第四
百二十五條及第四百二十六條ノ規定ハ
前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一百零九條 會社ガ第十七條第四項ノ
規定ニ違反シテ其ノ財産ヲ處分シタル
トキハ社員ノ持分ヲ差押ヘタル者ハ會
社ニ對シテ其ノ持分ニ相當スル金額ノ支
拂ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ
ハ前條ノ規定ヲ準用ス

第一百一十條 第十七條第一項ノ規定ニ
依リテ會社財産ノ處分方法ヲ定メザリ
シトキハ合併及破産ノ場合ヲ除ク外
第一百零一條乃至第三百零五條ノ規定
ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第一百一十一條 清算ハ業務執行社員之ヲ
爲ス但シ社員ノ過半数ヲ以テ別ニ清算
人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一百一十二條 會社ガ第九十四條第四號
又ハ第六號ノ事由ニ因リテ解散シタル

トキハ裁判所ハ利害關係人若ハ檢察官
ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ
選任ス

第一百二十三條 業務執行社員ガ清算人ト
爲リタルトキハ解散ノ日ヨリ本店ノ所
在地ニ於テハ三週間、支店ノ所在地ニ
於テハ四週間内ニ左ノ事項ヲ登記スル
コトヲ要ス

一 清算人ノ氏名及住所
二 清算人ニシテ會社ヲ代表セザル者
アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏
名
三 數人ノ清算人ガ共同シテ會社ヲ代
表スベキ定アルトキハ其ノ規定

清算人ノ選任アリタルトキハ其ノ清算
人ハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支
店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ前項ニ
掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十七條ノ規定ハ前二項ノ登記ニ之
ヲ準用ス

第一百二十四條 清算人ノ職務左ノ如シ

一 現務ノ結了
二 債權ノ取立及債務ノ辨濟
三 殘餘財産ノ分配

會社ヲ代表スベキ清算人ハ前項ノ職務
ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行

爲ラ爲ス權限ヲ有ス
民法第八十一條ノ規定ハ合名會社ニ之
ヲ準用ス

第一百二十五條 會社ハ辨濟期ニ至ラザル
債權ト雖モ之ヲ辨濟スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ無利息債權ニ付テ
ハ辨濟期ニ至ル迄ノ法定利息ヲ加算シ
テ其ノ債權額ニ連スベキ金額ヲ辨濟ス
ルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ利息附債權ニシテ其ノ利
率ガ法定利率ニ連セザルモノニ之ヲ準
用ス

第一百二十六條 第一項ノ場合ニ於テハ條件附債權、存
續期間ノ不確定ナル債權其ノ他債權ノ
不確定ナル債權ニ付テハ裁判所ノ選任
シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟
スルコトヲ要ス

第一百二十七條 會社ニ現存スル財産ガ其
ノ債務ヲ完済スルニ不足ナルトキハ清
算人ハ辨濟期ニ拘ラズ社員ヲシテ出資
ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百二十八條 清算人並會社ノ營業ノ全
部又ハ一部ヲ讓渡スルニハ社員ノ過半
數ノ決議アルコトヲ要ス

第一百二十九條 清算人數人アルトキハ清
算ニ關スル行爲ハ其ノ過半数又以テ之

ヲ決ス

第一百二十九條 第七十六條及第七十七條
ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

業務執行社員ガ清算人ト爲リタル場合
ニ於テハ從前ノ定ニ從ヒテ會社ヲ代表
ス

裁判所ガ數人ノ清算人ヲ選任スル場合
ニ於テハ會社ヲ代表スベキ者ヲ定メ又
ハ數人ガ共同シテ會社ヲ代表スベキ旨
ヲ定ムルコトヲ得

第一百三十條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク
會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及貸
借對照表ヲ作り之ヲ社員ニ交付スルコ
トヲ要ス

清算人ハ社員ノ請求ニ依リ毎月清算ノ
狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第一百三十一條 清算人ハ會社ノ債務ヲ辨
濟シタル後ニ非ザレバ會社財産ヲ社員
ニ分配スルコトヲ得ズ但シ爭アル債務
ニ付テハ其ノ辨濟ニ必要ト認ムル財産ヲ留
保シテ殘餘ノ財産ヲ分配スルコトヲ妨
グ

第一百三十二條 社員ガ選任シタル清算人
ハ何時ニテモ之ヲ解任スルコトヲ得此
ノ解任ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害

關係人ノ請求ニ依リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第三百三十三條 清算人ノ任務ガ終了シタルトキハ清算人ハ滯滞ナク計算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第三百三十四條 清算ガ終了シタルトキハ清算人ハ前條ノ承認アリタル後本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ清算終了ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十五條 第七十五條、第七十八條第二項、第二百五十四條第二項及第二百六十六條ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

第三百三十六條 會社ノ設立ノ無効ハ其ノ成立ノ日ヨリ二年内ニ訴テ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

第三百四十七條 合資會社ニハ本章ニ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外合名會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百四十八條 合資會社ノ定款ニハ第六十三條ニ掲グル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第三百四十九條 合資會社ノ設立ノ登記ニ在リテハ第六十四條第一項ニ掲グル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナルコトヲ登記スルコトヲ要ス

第三百五十條 有限責任社員ハ金錢其ノ他ノ財産ノミヲ以テ其ノ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第三百五十一條 各無限責任社員ハ定款ニ別段ノ定メナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第三百五十二條 支配人ノ選任及解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ無限責任社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第三百三十七條 設立ヲ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第三百三十八條 設立ヲ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ解散ノ場合ニ準ジテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依リ清算人ヲ選任ス

第三百三十九條 設立ヲ無効トスル判決ガ確定シタル場合ニ於テ其ノ無効ノ原因ガ或社員ノミニ付存スルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ他ノ社員ノ一致ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ無効ノ原因ノ存スル社員ハ退社ヲ爲シタルモノト看做ス

第三百四十條 會社ノ設立ノ取消ハ訴ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ得

第三百四十一條 社員ガ其ノ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ會社ヲ設立シタルトキハ債權者ハ其ノ社員及會社ニ對スル訴ヲ以テ會社ノ設立ノ取消ヲ請求スルコトヲ得

第三百四十二條 第八十八條、第二百五條第三項第四項、第九十九條、第一百條、第一百零一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十三條 有限責任社員ハ營業年度ノ終ニ於テ營業時間内ニ限リ會社ノ財産目録及貸借對照表ノ閱覽ヲ求メ且會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第三百四十四條 有限責任社員ハ無限責任社員全員ノ承諾アルトキハ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得持分ノ讓渡ニ伴ヒ定款ノ變更ヲ生ズルトキト雖モ亦同ジ

第三百四十五條 有限責任社員ガ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルニハ他ノ社員ノ承諾アルコトヲ要セズ

第三百四十六條 有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得

第三百四十七條 有限責任社員ハ其ノ出資ノ價額ヲ限度トシテ會社ノ債務ヲ辨濟スル責ニ任ズ但シ既ニ會社ニ對シ履行

第三百三十六條第一項及第三百三十七條乃至第三百三十九條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十三條 會社ノ帳簿並ニ其ノ營業及清算ニ關スル重要書類ハ第一百七條ノ場合ニ在リテハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後、其ノ他ノ場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其ノ保存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム

第三百四十四條 社員ガ死亡シタル場合ニ於テ其ノ相續人數人アルトキハ清算ニ關シテ社員ノ權利ヲ行使スベキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

第三百四十五條 第八十條ニ定ムル社員ノ責任ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後五年内ニ請求又ハ請求ノ豫告ヲ爲サザル會社ノ債權者ニ對シテハ登記後五年ヲ經過シタルトキ消滅ス

第三章 合資會社
第三百四十六條 合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス

第三百四十七條 有限責任社員ハ自己ヲ無限責任社員ナリト誤認セシムベキ行爲アリタルトキハ其ノ社員ハ誤認ニ基キテ會社ト取引ヲ爲シタル者ニ對シ無限責任社員ト同一ノ責任ヲ負フ

第三百四十八條 有限責任社員ハ出資ノ減少後ト雖モ本店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付テハ從前ノ責任ヲ免ルルコトナシ

第三百四十九條 有限責任社員ニ自己ヲ無限責任社員ナリト誤認セシムベキ行爲アリタルトキハ其ノ社員ハ誤認ニ基キテ會社ト取引ヲ爲シタル者ニ對シ無限責任社員ト同一ノ責任ヲ負フ

第三百五十條 第八十二條ノ規定ハ有限責任社員ガ無限責任社員ト爲リタル場合第九十三條ノ規定ハ無限責任社員ガ有限責任社員ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百五十一條 有限責任社員ガ死亡シタルトキハ其ノ相續人之ニ代リテ社員ト

爲ル
第二百三條ノ規定ハ死亡シタル有限責任社員ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

有限責任社員ハ禁治産ノ宣告ヲ受タルモノニ因リテ退社セズ

第六十二條 合資會社ハ無限責任社員又ハ有限責任社員ノ全員ガ退社シタルトキハ解散ス但シ殘存スル社員ノ一致ヲ以テ新ニ無限責任社員又ハ有限責任社員ヲ加入セシメテ會社ヲ繼續スルコトヲ妨グズ

有限責任社員ノ全員ガ退社シタル場合ニ於テハ無限責任社員ノ一致ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ合資會社ニ付テハ解散ノ登記合名會社ニ付テハ第六十四條ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條 合資會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ合名會社ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第三項ノ規定ヲ準用ス

第六十四條 清算ハ業務執行社員之ヲ爲ス但シ無限責任社員ノ過半数ヲ以テ

別ニ清算人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四章 株式會社

第一節 設立

第六十五條 株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發起人アルコトヲ要ス

第六十六條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

- 一 目的
 - 二 商號
 - 三 資本ノ總額
 - 四 一株ノ金額
 - 五 本店及支店ノ所在地
 - 六 會社ガ公告ヲ爲ス方法
 - 七 發起人ノ氏名及住所
- 會社ノ公告ハ官報又ハ時事ニ關スル事項ヲ掲載スル日刊新聞紙ニ掲ゲテ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第六十七條 定款ハ公證人ノ認證ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ
- 第六十八條 左ノ事項ハ之ヲ定款ニ記載スルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ
- 一 存立時期又ハ解散ノ事由
 - 二 數種ノ株式ノ發行並ニ其ノ各種ノ

株式ノ内容及數

- 三 株式ノ額面以上ノ發行
 - 四 發起人ガ受クベキ特別ノ利益及之ヲ受クベキ者ノ氏名
 - 五 現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的タル財産、其ノ價格並ニ之ニ對シテ與フル株式ノ種類及數
 - 六 會社ノ成立後ニ讓受クルコトヲ約シタル財産、其ノ價格及讓渡人ノ氏名
 - 七 會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用及發起人ガ受クベキ報酬ノ額
- 現物出資ハ發起人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第六十九條 各發起人ハ書面ニ依リテ株式ノ引受ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ遲滞ナク各株ニ付株金全額ノ拂込ヲ爲シ且取締役及監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

前項ノ選任ハ發起人ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス此ノ場合ニ於テハ第二百四十一條第一項ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコトヲ得ズ

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シテ

ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ其ノ引受價額ヲ記載スルコトヲ要ス

民法第九十三條但書ノ規定ハ株式ノ申込ニハ之ヲ適用セズ

第七十六條 株式ノ申込ヲ爲シタル者ハ發起人ノ割當テタル株式ノ數ニ應ジテ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第七十七條 株式總數ノ引受アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク各株ニ付株金全額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

前項ノ拂込ハ株式申込證ニ記載シタル株金拂込ノ取扱場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 株式ノ引受人ガ第百七十七條ノ規定ニ依リ拂込ヲ爲サルトキハ發起人ハ其ノ權利ヲ失フベキ旨ヲ其ノ株式引受人ニ通知スルコトヲ得但シ其ノ通知ハ期日ノ二週間前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

ル時ハ其ノ額面ヲ超ニル金額ハ株金ノ拂込ト同時ニ之ヲ拂込ムコトヲ要ス

第七十二條 現物出資者ハ第一回拂込ノ期日ニ出資ノ目的タル財産ノ全部ヲ給付スルコトヲ要ス但シ登記、登錄其ノ他權利ノ設定又ハ移轉ヲ以テ第三者ニ對抗スル爲ニ必要ナル行爲ハ會社成立後ニ之ヲ爲スコトヲ妨グズ

第七十三條 取締役ハ其ノ選任後遲滞ナク第百六十八條第一項第四號乃至第七號ニ掲グル事項並ニ前三條ノ規定ニ依リ拂込及現物出資ノ給付アリタルヤ否ヤヲ調査セシムル爲ニ檢査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

裁判所ハ檢査役ノ報告ヲ聽キ第百六十八條第一項第四號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ニ變更ヲ加ヘテ各發起人ニ通告スルコトヲ得

前項ノ變更ニ服セザル發起人ハ其ノ株式ノ引受ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ定款ヲ變更シテ設立ニ關スル手續ヲ續行スルコトヲ妨グズ

通告後二週間内ニ株式ノ引受ヲ取消シタル者ナキトキハ定款ハ通告ニ從ヒ變更セラレタルモノト看做ス

發起人が前項ノ通知ヲ爲シタルモ株式
引受人ガ拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ權
利ヲ失フ此ノ場合ニ於テ發起人ハ其ノ
者ガ引受ケタル株式ニ付更ニ株主ヲ募
集スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ株式引受人ニ對スル損
害賠償ノ請求ヲ妨ゲズ

第百八十條 第百七十七條ノ規定ニ依ル
拂込及現物出資ノ給付アリタルトキハ
發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スル
コトヲ要ス

創立總會ニハ株式引受人ノ半数以上ニ
シテ資本ノ半額以上ヲ引受ケタル者出
席シ其ノ議決權ノ過半数ヲ以テ一切ノ
決議ヲ爲ス

第百三十二條第一項第二項、第二百
三十三條、第二百三十九條第三項第四
項、第二百四十條、第二百四十一條第
一項、第二百四十三條、第二百四十四
條、第二百四十七條乃至第二百五十三
條及第三百四十五條ノ規定ハ創立總會
之ヲ準用ス

第百八十一條 定款ヲ以テ第百六十八條
第一項第四號乃至第七號ニ掲グル事項
ヲ定メタルトキハ發起人ハ之ニ關スル
調査ヲ爲サシムル爲メ検査役ノ選任ヲ裁
定ス

六 株式ノ讓渡ノ制限又ハ株券ノ裏書
ノ禁止ヲ定メタルトキハ其ノ規定
七 開業前ニ利息ヲ配當スベキコトヲ
定メタルトキハ其ノ規定
八 株主ニ配當スベキ利益ヲ以テ株式
ヲ消却スベキコトヲ定メタルトキハ
其ノ規定

九 取締役及監査役ノ氏名及住所
十 取締役ニシテ會社ヲ代表セザル者
アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏
名

十一 數人ノ取締役ガ共同シ又ハ取締
役ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表ス
ベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定
第六十四條第二項及第六十五條乃至第
六十七條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用
ス

第百八十九條 株金ノ拂込ヲ取扱ヒタル
銀行又ハ信託會社ハ發起人又ハ取締役
ノ請求ニ依リ拂込金ノ保管ニ關シ證明
ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ銀行又ハ信託會社ハ其ノ證明シ
タル拂込金額ニ付拂込ナカリシコト又
ハ其ノ返還ニ關スル制限ヲ以テ會社ニ
對抗スルコトヲ得ズ

第百九十條 株式ノ引受ニ因ル權利ノ讓
渡ハ會社ニ對シ其ノ效力ヲ生ゼズ

判所ニ請求スルコトヲ要ス
前項ノ検査役ノ報告書ハ之ヲ創立總會
ニ提出スルコトヲ要ス

第百八十二條 發起人ハ會社ノ創立ニ關
スル事項ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ
要ス

第百八十三條 創立總會ニ於テハ取締役
及監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

第百八十四條 取締役及監査役ハ左ノ事
項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコ
トヲ要ス

一 株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ
二 第百七十七條ノ規定ニ依ル拂込及
現物出資ノ給付アリタルヤ否ヤ

取締役及監査役ハ第百八十一條第二項
ノ報告書ヲ調査シ創立總會ニ其ノ意見
ヲ報告スルコトヲ要ス

取締役及監査役中發起人ヨリ選任セラ
レタル者アルトキハ創立總會ハ特ニ檢
査役ヲ選任シ前二項ノ調査及報告ヲ爲
サシムルコトヲ得

第百八十五條 創立總會ニ於テ第百六十
八條第一項第四號乃至第七號ニ掲グル
事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ變更
スルコトヲ得

第百七十三條第三項及第四項ノ規定ハ

第百九十一條 株式ヲ引受ケタル者ハ會
社ノ成立後ハ錯誤若ハ株式申込證ノ要
件ノ欠缺ヲ理由トシテ其ノ引受ノ無効
ヲ主張シ又ハ詐欺若ハ強迫ヲ理由トシ
テ其ノ引受ヲ取消スコトヲ得ズ創立總
會ニ出席シテ其ノ權利ヲ行使シタルト
キ亦同シ

第百九十二條 引受ナキ株式又ハ第百七
十條、第百七十一條若ハ第百七十七條
ノ規定ニ依ル拂込ノ未済ナル株式アル
トキハ發起人ハ連帶シテ其ノ株式ノ引
受又ハ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申
込ガ取消サレタルトキ亦同シ

第百八十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之
ヲ準用ス

第百九十三條 發起人が會社ノ設立ニ關
シ其ノ任務ヲ怠リタルトキハ其ノ發起
人ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責
ニ任ズ

發起人ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタ
ルトキハ其ノ發起人ハ第三者ニ對シテ
モ亦連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ

第百九十四條 會社ガ成立セザル場合ニ

前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第百八十六條 前條ノ規定ハ發起人ニ對
スル損害賠償ノ請求ヲ妨ゲズ

第百八十七條 創立總會ニ於テハ定款ノ
變更又ハ設立ノ廢止ノ決議ヲ爲スコ
トヲ得

前項ノ決議ハ召集ノ通知ニ其ノ旨ノ記
載ナカリシトキト雖モ之ヲ爲スコトヲ
妨ゲズ

第百八十八條 株式會社ノ設立ノ登記ハ
發起人ガ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキ
ハ第百七十三條ノ手續終了ノ日、發起
人ガ株式ノ總數ヲ引受ケザリシトキハ
創立總會終結ノ日又ハ第百八十五條ノ
手續終了ノ日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲ス
コトヲ要ス

前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記
スルコトヲ要ス

一 第百六十六條第一項第一號乃至第
四號及第六號ニ掲グル事項

二 本店及支店
三 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタ
ルトキハ其ノ時期又ハ事由

四 數種ノ株式ヲ發行シタルトキハ其
ノ各種ノ株式ノ内ノ數

五 (削除)

於テハ發起人ハ會社ノ設立ニ關シテ爲
シタル行爲ニ付連帶シテ其ノ責ニ任ズ
前項ノ場合ニ於テ會社ノ設立ニ關シテ
支出シタル費用ハ發起人ノ負擔トス

第百九十五條 取締役又ハ監査役ガ第百
八十四條第一項及第二項ニ定ムル任務
ヲ怠リタルニ因リ會社又ハ第三者ニ對
シテ損害賠償ノ責ニ任ズベキ場合ニ於
テ發起人モ亦其ノ責ニ任ズベキトキハ
其ノ取締役、監査役及發起人ハ之ヲ連
帶債務者トス

第百九十六條 發起人、取締役又ハ監査
役ガ會社ノ設立ニ關シ會社ニ對シテ損
害賠償ノ責ニ任ズベキ場合ニ於テハ其
ノ責任ハ會社成立ノ日ヨリ三年ヲ經過
シタル後ニ於テ第三百四十三條ニ定ム
ル決議ニ依ルニ非ザレバ之ヲ免除スル
コトヲ得ズ

第百九十七條 株主總會ニ於テ發起人ニ
對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタル
トキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ會
日ノ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一
以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ガ訴ノ提
起ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ
決議又ハ請求ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提
起スルコトヲ要ス

第百九十四條 會社ガ成立セザル場合ニ

第百九十四條 會社ガ成立セザル場合ニ

第二百六十七條第二項、第二百六十八條第二項乃至第五項及第二百七十七條第一項但書第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十八條 發起人ニ非ズシテ株式申込證、目論見書、株式募集ノ廣告其ノ他株式募集ニ關スル文書ニ自己ノ氏名及會社ノ設立ヲ贊助スル旨ノ記載ヲ爲スコトヲ承諾シタル者ハ自己ヲ發起人ナリト認認シテ株式ノ申込ヲ爲シタル者ニ對シ發起人ト同一ノ責任ヲ負フ

第二節 株式

第九十九條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス

第一百條 株主ノ責任ハ其ノ引受ケ又ハ譲受ケタル株式ノ金額、額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於テハ引受價額ヲ限度トス

株主ハ株金ノ拂込ニ付相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ
第二十一條 假設人ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケタル者ハ株式引受人タル責任ヲ負フ他人ノ承諾ヲ得ズシテ其ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケタル者亦同ジ

他人ト通ジテ其ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケタル者ハ其ノ他人ト連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第二百二條 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス

株式ノ金額ハ二十圓ヲ下ルコトヲ得ズ
第二百三條 株式ガ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行使スベキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

株主ノ權利ヲ行使スベキ者ナキトキハ共有者ニ對スル會社ノ通知又ハ催告ハ其ノ一人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ル共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第二百四條 株式ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但シ定款ヲ以テ其ノ讓渡ノ制限ヲ定ムルコトヲ妨グズ

株式ノ發行前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ會社ニ對シ其ノ效力ヲ生ゼズ
第二百五條 記名株式ノ讓渡ハ株券ノ裏書ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定メアルトキハ此ノ限ニ在ラズ

手形法第十二條、第十三條及第十四條第二項ノ規定ハ株券ノ裏書ニ之ヲ準用ス

第二百六條 株券ノ裏書ニ依ル記名株式ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ株主名簿ニ記載スルニ非ズレバ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ

前項ノ場合ヲ除クノ外記名株式ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ株券ニ記載スルニ非ズレバ之ヲ以テ會社其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

株金ノ滯納アル株式ニ付テハ會社ハ前二項ノ名義書換ヲ拒ムコトヲ得

第二百七條 記名株式ヲ以テ質權ノ目的ト爲スニハ株券ヲ交付スルコトヲ要ス

質權者ハ繼續シテ株券ヲ占有スルニ非ズレバ其ノ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第二百八條 株式ノ消却、併合又ハ轉換アリタルトキハ從前ノ株式ヲ目的トスル質權ハ消却、併合又ハ轉換ニ因リテ株主ガ受クベキ金錢又ハ株式ノ上ニ存在ス

第二百九條 記名株式ヲ以テ質權ノ目的トシタル場合ニ於テ會社ガ質權設定者ノ請求ニ依リ質權者ノ氏名及住所ヲ株

主名簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ株券ニ記載シタルトキハ質權者ハ會社ヨリ利益若ハ利息ノ配當、殘餘財産ノ分配又ハ前條ノ金錢ノ支拂ヲ受ケ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得

民法第三百六十七條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ質權者ハ會社ニ對シ前條ノ株主ノ受クベキ株券ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 會社ハ左ノ場合ヲ除クノ外自己ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ズ

一 株式ノ消却ノ爲ニスルトキ
二 合併又ハ他ノ會社ノ營業全部ノ讓受ニ因ルトキ
三 會社ノ權利ノ實行ニ當リ其ノ目的ヲ達スル爲必要ナルトキ

第二十一條 前條第一號ノ場合ニ於テハ會社ハ遲滞ナク株式失効ノ手續ヲ爲シ第二號及第三號ノ場合ニ於テハ相當ノ時期ニ株式又ハ質權ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條 株式ハ資本減少ノ規定ニ

從フニ非ズレバ之ヲ消却スルコトヲ得ズ但シ定款ノ規定ニ基キ株主ニ配當スベキ利益ヲ以テスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三百七十七條ノ規定ハ株式ヲ消却スル場合ニ之ヲ準用ス

第二百十三條乃至第二百二十一條 (削除)

第二百十三條 株金ノ拂込ハ其ノ期日ノ二週間前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス

株主ガ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ハ更ニ期日ヲ定メ其ノ期日迄ニ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ニ於テ株式ヲ處分スベキ旨ヲ其ノ株主及株主名簿ニ記載アル質權者ニ通知スルコトヲ得但シ其ノ通知ハ期日ノ二週間前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ其ノ株主ノ氏名及住所、株券ノ番號並ニ通知事項ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百十四條 會社ガ前條第一項及第二項ニ定ムル手續ヲ踐ミタルモ株主ガ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ハ株式ヲ競賣スルコトヲ要ス但シ裁判所ノ許可ヲ得

テ他ノ方法ニ依リ之ヲ賣却スルコトヲ妨グズ

會社ハ株式ノ處分ニ依リテ得タル金額ヨリ滯納金額及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ額ヲ控除シタル金額ヲ從前ノ株主ニ拂戻スコトヲ要ス

株式ノ處分ニ依リテ得タル金額ガ滯納金額ニ滿タザル場合ニ於テハ會社ハ從前ノ株主ニ對シ不足額ノ辨濟ヲ請求シ若シ從前ノ株主ガ二週間内ニ之ヲ辨濟セザルトキハ讓渡人ニ對シテ其ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第二百十五條 會社ハ前條第一項ノ處分ニ著手スル日ノ二週間前ニ株式ノ讓渡人ニシテ第二百十九條ノ規定ニ依リテ責任ヲ負フ者ニ對シ其ノ處分ヲ爲スベキ旨ヲ通知ヲ發スルコトヲ要ス

讓渡人ガ株式ノ處分ニ先チ滯納金額及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ額以上ノ金額ヲ提供シテ株式ノ買受ヲ申出デタルトキハ會社ハ其ノ讓渡人ニ對シ申出價額ヲ以テ株式ヲ讓渡スコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

定ニ依リ株式ノ競賣ヲ爲シタルモ其ノ結果ヲ得ザルトキハ會社ハ資本減少ノ規定ニ從ヒテ其ノ株式ヲ消却スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百十四條第三項ノ規定ヲ準用ス

第二百十七條 前三條ノ規定ハ會社ガ損害賠償及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨グズ

第二百十八條 株主ガ第二百十三條第二項ノ期日迄ニ株金ノ拂込ヲ爲サザルトキハ會社ハ其ノ株主及株主名簿ニ記載アル債權者ニ對シ二週間内ニ株券ヲ會社ニ提出スベキ旨ヲ通知スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ株券ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ遲滞ナク失効シタル株券ノ番號並ニ其ノ株主ノ氏名及住所ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百十九條 第二百十四條第三項ニ定ムル讓渡人ノ責任ハ株式ノ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年以内ニ會社ガ第二百十三條第一項ノ規定ニ依リ拂込ノ催告ヲ發シタル株金ニ關スルモノニ限ル

ル株式ニ付會社ノ成立後五年内ニ拂込ノ催告ヲ發シタル株金ニ關シテハ發起人ハ前項ノ規定ニ拘ラズ第二百十四條第三項ニ定ムル讓渡人ノ責任ヲ負フ

第二百二十條 株式ノ讓渡人ガ第二百十四條第三項ノ不足額ヲ辨濟シタルトキハ株券又ハ株主名簿ニ記載アル後者全員ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

發起人ガ前條第二項ノ規定ニ依リテ不足額ヲ辨濟シタルトキハ其ノ後者中前條第一項ノ規定ニ依リテ責任ヲ負フ者及其ノ後者全員ニ對シテノミ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

償還ヲ爲シタル讓渡人ハ更ニ自己ノ後者全員ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百二十一條 株金ノ拂込期日後ニ株式ヲ讓渡シタル者ハ會社ニ對シ株主ト連帶シテ其ノ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第二百二十二條 會社ガ數種ノ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ利益若ハ利息ノ配當又ハ殘餘財産ノ分配ニ付株式ノ種類ニ從ヒ格別ノ定メ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ定款ニ定メナキト株主名簿ニ記載アル株主ノ爲シタル裏書ガ真正ナラザル場合ニ於テ會社ニ就キ調査ヲ爲サバ其ノ眞偽ヲ判別スルコトヲ得ベカリシモノナルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第二百三十條 株券ハ公示催告ノ手續ニ依リテ之ヲ無効ト爲スコトヲ得

株券ヲ喪失シタル者ハ除權判決ヲ得ルニ非ザレバ其ノ再發行ヲ請求スルコトヲ得ズ

第三節 會社ノ機關

第一款 株主總會

第二百三十一條 總會ハ本法ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外取締役之ヲ招集ス

第二百三十二條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

要ス
一 會社ノ商號
二 會社成立ノ年月日
三 資本ノ總額
四 一株ノ金額
五 數種ノ株式アルトキハ其ノ株式ノ內容
六 株式ノ讓渡ノ制限又ハ株券ノ裏書ノ禁止ヲ定メタルトキハ其ノ規定
第二百二十六條 株券ハ會社ノ成立後ニ非ザレバ之ヲ發行スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シテ發行シタル株券ハ無効トス但シ株券ヲ發行シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨グズ

第二百三十三條 總會ハ定款ニ定メアル場合ニ限り之ヲ發行スルコトヲ得

株主ハ何時ニテモ其ノ無記名式ノ株券ヲ記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

第二百三十四條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百三十五條 臨時總會ハ必要アル場合ニ隨時之ヲ招集ス

第二百二十八條 無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ株券ヲ會社ニ供託スルニ非ザレバ株主ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ズ

第二百三十七條 資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的タル事項及招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十八條 取締役又ハ監査役ガ總會ヲ招集スルニハ各其ノ過半数ノ決議アルコトヲ要ス

第二百二十九條 小切手法第二十一條ノ規定ハ株券ニ之ヲ準用ス

第二百三十九條 總會ノ決議ニ付テハ前項ノ規定ハ議決權ナキ株主ニ付テ

キト雖モ資本ノ増加若ハ減少又ハ會社ノ合併ノ決議ニ於テ新株ノ引受、株式ノ併合若ハ消却又ハ合併ニ因ル株式ノ割當ニ關シ株式ノ種類ニ從ヒ格別ノ定メ爲スコトヲ得

第二百三十條 株式ノ讓渡人ガ第二百十四條第三項ノ不足額ヲ辨濟シタルトキハ株券又ハ株主名簿ニ記載アル後者全員ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百三十一條 總會ハ本法ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外取締役之ヲ招集ス

第二百三十二條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百三十三條 總會ハ定款ニ定メアル場合ニ限り之ヲ發行スルコトヲ得

第二百三十四條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百三十五條 臨時總會ハ必要アル場合ニ隨時之ヲ招集ス

第二百三十七條 資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的タル事項及招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十八條 取締役又ハ監査役ガ總會ヲ招集スルニハ各其ノ過半数ノ決議アルコトヲ要ス

第二百三十九條 總會ノ決議ニ付テハ前項ノ規定ハ議決權ナキ株主ニ付テ

請求ヲ爲シタル株主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ其ノ招集ヲ爲スコトヲ得
 前二項ノ規定ニ依リテ招集シタル總會ニ於テハ招集ノ費用ハ請求ヲ爲シタル株主ノ負擔トスル旨ヲ定ムルコトヲ得
第二百三十八條 總會ハ取締役ノ提出シタル書類及監査役ノ報告書ヲ調査セシムル爲テニ検査役ヲ選任スルコトヲ得
第二百三十九條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス
 無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ株券ヲ會社ニ供託スルコトヲ要ス
 株主ハ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行使スルコトヲ得但シ代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ會社ニ差出ダスコトヲ要ス
 總會ノ決議ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ議決權ヲ行使スルコトヲ得ズ
第二百四十條 前條第四項ノ規定ニ依リテ行使スルコトヲ得ザル議決權ノ數ハ同條第一項ノ議決權ノ數ニ之ヲ算入セズ
第二百四十一條 各株主ハ一株ニ付一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ヲ以テ十一株

以上ヲ有スル株主ノ議決權ヲ制限シ又ハ株式ノ讓受ヲ株主名簿ニ記載シタル後六月ヲ超エザル株主ニ議決權ナキモノトスルコトヲ得
 會社ハ其ノ有スル自己ノ株式ニ付テハ議決權ヲ有セズ
第二百四十二條 會社ガ數種ノ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ定款ヲ以テ其ノ或種類ノ株式ニ付株主ニ議決權ナキモノトスルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ定款ヲ以テ其ノ種類ノ株式ヲ有スル株主ニ
 第九十七條第一項、第二百三十七條第一項第二項、第二百四十五條第二項、第二百六十八條第一項、第二百七十九條第一項、第二百九十四條第一項、第四百二十六條第二項及第四百三十條第二項ノ權利ナキモノトスルコトヲ妨グズ
 前項ノ株式ハ株金總額ハ資本ノ四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ
第二百四十三條 總會ニ於テハ延期又ハ續行ノ決議ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百三十二條ノ規定ヲ適用セズ
第二百四十四條 總會ノ議事ニ付テハ議事録ヲ作ルコトヲ要ス

議事録ニハ議事ノ經過ノ要領及其ノ結果ヲ記載シ議長並ニ出席シタル取締役及監査役之ニ署名スルコトヲ要ス
第二百四十五條 會社ガ左ノ行爲ヲ爲スニハ第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス
 一 營業ノ全部又ハ一部ノ讓渡
 二 營業全部ノ貸貸、其ノ經營ノ委任他人ト營業上ノ損益全部ヲ共通ニスル契約其ノ他之ニ準ズル契約ノ締結變更又ハ解約
 三 他ノ會社ノ營業全部ノ讓受
 四 第二百六十六條又ハ第二百八十條ノ規定ニ依ル取締役又ハ監査役ノ責任ノ免除
 第二百六十八條又ハ第二百七十九條ノ規定ハ前項第四號ノ決議アリタル場合ニ之ヲ準用ス
第二百四十六條 前條第一項ノ規定ハ會社ガ其ノ成立後二年內ニ其ノ成立前ヨリ存在スル財産ニシテ營業ノ爲ニ繼續シテ使用スベキモノヲ資本ノ二十分ノ一以上ニ當ル對價ヲ以テ取得スル契約ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第二百四十七條 總會招集ノ手續又ハ其ノ決議ノ方法ガ法令若ハ定款ニ違反シ

又ハ著シク不公正ナルトキハ株主、取締役又ハ監査役ハ訴ヲ以テ決議ノ取消ヲ請求スルコトヲ得決議ガ第三百四十三條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ亦同シ
 第八十八條、第二百五條第三項第四項及第九十九條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス
第二百四十八條 決議取消ノ訴ハ決議ノ日ヨリ一月內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス
 口頭辯論ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ開始スルコトヲ得ズ
第二百四十九條 株主ガ決議取消ノ訴ヲ提起シタルトキハ會社ノ請求ニ依リ當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但シ其ノ株主ガ取締役又ハ監査役ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第二百五十條 決議シタル事項ノ登記アリタル場合ニ於テ決議取消ノ判決ガ確定シタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
第二百五十一條 決議取消ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ決議ノ内容、會社ノ現況其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ其ノ取消ヲ不適當ト認ムルトキハ裁判所ハ

請求ヲ棄却スルコトヲ得
第二百五十二條 第八十八條、第二百五條第三項第四項、第九十九條、第二百四十九條及第二百五十條ノ規定ハ總會ノ決議ノ内容ガ法令又ハ定款ニ違反スルコトヲ理由トシテ決議ノ無效ノ確認ヲ請求スル訴ニ之ニ準用ス
第二百五十三條 株主ガ第二百三十九條第四項ノ規定ニ依リ議決權ヲ行使スルコトヲ得ザリシ場合ニ於テ決議ガ著シク不當ニシテ其ノ株主ガ議決權ヲ行使シタルトキハ之ヲ阻止スルコトヲ得ベカリシモノナルニ於テハ其ノ株主ハ訴ヲ以テ決議ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得
 第八十八條、第二百五條第三項第四項、第九十九條及第二百四十八條乃至第二百五十條ノ規定ハ前項ノ訴ニ之ヲ準用ス
第二款 取締役
第二百五十四條 取締役ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス
 會社ト取締役トノ間ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ
第二百五十五條 取締役ハ三人以上タルコトヲ要ス
第二百五十六條 取締役ノ任期ハ三年ヲ

超ユルコトヲ得ズ但シ定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ決算期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ル迄其ノ任期ヲ伸長スルコトヲ妨グズ
第二百五十七條 取締役ハ何時ニモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得但シ任期ノ定メアル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其ノ任期ノ滿了前ニ之ヲ解任シタルトキハ其ノ取締役ハ會社ニ對シ解任ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得
第二百五十八條 法律又ハ定款ニ定メタル取締役ノ員數ヲ缺クニ至リタル場合ニ於テハ任期ノ滿了又ハ辭任ニ因リテ退任シタル取締役ハ新ニ選任セラレタル取締役ノ就職スル迄仍舊取締役ノ權利義務ヲ有ス
 前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ監査役其ノ他利害關係人ノ請求ニ依リ一時取締役ノ職務ヲ行フベキ者ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
第二百五十九條 定款ヲ以テ取締役ノ有スベキ株式ノ數ヲ定メタル場合ニ於テ別段ノ定メナキトキハ取締役ハ其ノ員

取締役が法令又ハ定款ニ違反スル行為ヲ爲シタルトキハ株主總會ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ其ノ取締役ハ第三者ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ

第二百六十條 會社ノ業務執行ハ定款ニ別段ノ定メナキトキハ取締役ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス支配人ノ選任及解任亦同シ

第二百六十一條 取締役ハ各自會社ヲ代表ス

前項ノ規定ハ定款若ハ株主總會ノ決議ヲ以テ會社ヲ代表スベキ取締役ヲ定メ數人ノ取締役ガ共同シ若ハ取締役ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メ又ハ定款ノ規定ニ基キ取締役ノ互選ヲ以テ會社ヲ代表スベキ取締役ヲ定ムルコトヲ妨グズ

第三十九條第二項及第七十八條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス

第二百六十二條 社長、副社長、専務取締役、常務取締役其ノ他會社ヲ代表スル權限ヲ有スルモノト認ムベキ名稱ヲ附シタル取締役ノ爲シタル行為ニ付テハ會社ハ其ノ者ガ代表權ヲ有セザル場合ト雖モ善意ノ第三者ニ對シテ其ノ責ニ任ズ

第二百六十三條 取締役ハ定款及總會ノ議事録ヲ本店及支店ニ、株主名簿及社

債原簿ヲ本店ニ備置スルコトヲ要ス株主及會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閱覽ヲ求ムルコト得

第二百六十四條 取締役ハ株主總會ノ認許アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ

取締役ガ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ取引ヲ爲シタルトキハ株主總會ハ之ヲ以テ會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定ムル權利ハ監査役ノ一人ガ其ノ取引ヲ知リタル時ヨリ二月間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第二百六十五條 取締役ハ監査役ノ承認ヲ得タルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲ニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第百八條ノ規定ヲ適用セズ

第二百六十六條 取締役ガ其ノ任務ヲ怠リタルトキハ其ノ取締役ハ會社ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ

取締役ガ法令又ハ定款ニ違反スル行為ヲ爲シタルトキハ株主總會ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ其ノ取締役ハ第三者ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ズ

第二百六十七條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキハ會社ハ決議ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ訴ニ付テハ株主總會ノ決議ニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第二百六十八條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ否決シタル場合ニ於テ會日ノ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ガ訴ヲ提起シ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ請求ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第一項ノ訴ニ付テハ訴提起ノ請求ヲ爲シタル株主ノ議決權ノ過半数ノ同意アルニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ
第一項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ監査役ノ請求ニ依リ相當ノ擔保ヲ供スルコ

ヲ要ス

會社ガ敗訴シタルトキハ請求ヲ爲シタル株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ズ

第二百六十九條 取締役ガ受クベキ報酬ハ定款ニ其ノ額ヲ定メザリシトキハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第二百七十條 取締役ノ選任決議ノ無効又ハ取消ノ訴ヲ提起アリタル場合ニ於テハ本案ノ管轄裁判所ハ當事者ノ申立ニ依リ假處分ヲ以テ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止シ又ハ之ヲ代行スル者ヲ選任スルコトヲ得本案ノ繫屬前ト雖モ急迫ナル事情アルトキ亦同シ

裁判所ハ當事者ノ申立ニ依リ前項ノ假處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得前二項ノ處分アリタルトキハ本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二百七十一條 前條ノ職務代行者ハ假處分命令ニ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外會社ノ常務ニ屬セザル行為ヲ爲スコトヲ得ズ但シ特ニ本案ノ管轄裁判所ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ職務代行者前項ノ規定ニ違反シタルトキト雖モ會社ハ善意ノ第三者ニ對シテ

其ノ責ニ任ズ

第二百七十二條 急迫ナル事情アルトキハ第二項三十七條ノ規定ニ依リテ取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求シタル者ハ其ノ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止又ハ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ヲ招集シタル取締役又ハ監査役亦同シ

第二百七十條第二項第三項及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三款 監査役
第二百七十三條 監査役ノ任期ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百七十四條 監査役ハ何時ニテモ取締役ニ對シテ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第二百七十五條 監査役ハ取締役ガ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主總會ニ其ノ意見ヲ報告スルコトヲ要ス
第二百七十六條 監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼ヌルコトヲ得ズ但シ取締役中ニ役員アルトキハ取締役及監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職

務ヲ行フベキ者ヲ定ムルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ其ノ定メ爲シタル日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監査役ハ第二項八十三條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ル迄ハ監査役ノ職務ヲ行フコトヲ得ズ

第二百七十七條 會社ガ取締役ニ對シ又ハ取締役ガ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其ノ訴ニ付テハ監査役會社ヲ代表ス但シ株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得

第二百六十八條第一項ノ規定ニ依リ株主ガ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ請求シタルトキハ特ニ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第二百七十八條 監査役ガ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ズベキ場合ニ於テ取締役モ亦其ノ責ニ任ズベキトキハ其ノ監査役及取締役ハ之ヲ連帶債務者トス
第二百七十九條 株主總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ

會日ノ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ガ訴ノ提起ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第二百六十七條 第二項、第二百六十八條第二項乃至第五項及第二百七十七條第一項但書第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百八十條 第二百五十四條、第二百五十六條但書、第二百五十七條、第二百五十八條、第二百六十六條、第二百六十九條、第二百七十條及第二百七十二條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス

第四節 會社ノ計算
第二百八十一條 取締役ハ定時總會ノ會日ヨリ二週間前ニ左ノ書類ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

- 一 財産目錄
- 二 貸借對照表
- 三 營業報告書
- 四 損益計算書
- 五 準備金及利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案

第二百八十二條 取締役ハ定時總會ノ會日ノ一週間前ヨリ前條ニ掲グル書類及

監査役ノ報告書ヲ本店ニ備置クコトヲ要ス

株主及會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閲覧ヲ求メ又ハ會社ノ定メタル費用ヲ支拂ヒテ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第二百八十三條 取締役ハ第二百八十一條ニ掲グル書類ヲ定時總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

取締役ハ前項ノ承認ヲ得タル後遲滞ナク貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百八十四條 定時總會ニ於テ前條第一項ノ承認ヲ爲シタル後二年内ニ別段ノ決議ナキトキハ會社ハ取締役又ハ監査役ニ對シテ其ノ責任ヲ解除シタルモ正ノ行爲アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二百八十五條 財産目錄ニ記載スル營業用ノ固定財産ニ付テハ其ノ取得價額又ハ製作價額ヲ超ユル價額、取引所ノ相場アル有價證券ニ付テハ其ノ決算期前一月ノ平均價格ヲ超ユル價額ヲ附スルコトヲ得ズ

第二百八十六條 第一百八十八條第一項第

七號ノ規定ニ依リ支出シタル金額及設立登記ノ爲ニ支出シタル稅額ハ之ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ會社成立ノ後、若シ開業前ニ利息ヲ配當スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ配當ヲ止メタル後五年内ニ毎決算期ニ於テ均等額以上ノ償却ヲ爲スコトヲ要ス

第二百八十七條 社債權者ニ償還スベキ金額ノ總額ガ社債ノ募集ニ依リテ得タル實額ヲ超ユルトキハ其ノ差額ハ之ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債償還ノ期限内ニ毎決算期ニ於テ均等額以上ノ償却ヲ爲スコトヲ要ス

第二百八十八條 會社ハ其ノ資本ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ毎決算期ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ準備金トシテ積立ツルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其ノ額面ヲ超ユル金額ヨリ發行ノ爲ニ必要ナル費用ヲ控除シタル金額ハ前項ノ額ニ達スル迄之ヲ準備金テ組入ルルコトヲ要ス

第二百八十九條 前條ノ準備金ハ資本ノ缺損ノ填補ニ充ツル場合ヲ除クノ外之

ヲ使用スルコトヲ得ズ

第二百九十條 會社ハ損失ヲ填補シ且第二百八十八條第一項ノ準備金ヲ控除シタル後ニ非ザレバ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第二百九十一條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ開業ヲ爲スコト能ハザルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ開業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキ旨ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ定款ノ規定ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依リテ配當シタル金額ハ之ヲ貸借對照表ノ資産ノ部ニ計上スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ年六分ヲ超ユル利益ヲ配當スル毎ニ其ノ超過額ト同額以上ノ金額ヲ償却スルコトヲ要ス

第二百九十二條 前條第一項ノ規定ニ依リテ利息ヲ配當スル會社ガ其ノ資本ヲ

増加スル場合ニ於テハ新株ニ對シテモ亦利息ヲ配當スルコトヲ要ス但シ定款ニ別段ノ定メアルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ配當ヲ爲ス場合ニ於テハ配當期間ヲ伸長スルコトヲ得

前條ノ規定ハ第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百九十三條 利益又ハ利息ノ配當ハ各株主ノ有スル株式ノ數ニ應ジテ之ヲ爲ス但シ第二百二十二條第一項ノ規定ノ適用ヲ妨グズ

第二百九十四條 會社ノ業務ノ執行ニ關シ不正ノ行爲又ハ法令若ハ定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑フベキ事由アルトキハ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ裁判所ニ検査役ノ選任ヲ請求スルコトヲ得

検査役ハ其ノ調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ監査役ヲシテ株主總會ヲ召集セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百八十一條第二項及第二百八十四條

第二項ノ規定ヲ準用ス

第二百九十五條 身元保證金ノ返還ヲ目的トスル債權其ノ他會社ト使用人トノ間ノ雇傭關係ニ其キ生シタル債權ヲ有スル者ハ會社ノ總財産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

前項ノ先取特權ノ順位ハ民法第三百六條第一號ニ掲グル先取特權ニ次グ

第五節 社債

第一節 總則

第二百九十六條 社債ハ第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルニ非ザレバ之ヲ募集スルコトヲ得ズ

第二百九十七條 社債ノ總額ハ資本ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル純財産額ガ資本ノ總額ニ滿タザルトキハ社債ノ總額ハ其ノ財産額ヲ超ユルコトヲ得ズ

社債償還ノ爲ニスル社債ノ募集ニ付テハ其ノ舊社債ノ額ハ社債ノ總額中ニ之ヲ算入セズ此ノ場合ニ於テハ拂込ノ期日、若シ數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ第一回拂込ノ期日ヨリ六月内ニ舊社債ヲ償還スルコトヲ要ス

第二百九十八條 會社ハ前ニ募集シタル

社債總額ノ拂込ヲ爲サシメタル後ニ非
ザレバ更ニ社債ヲ募集スルコトヲ得ズ
第二百九十九條 各社債ノ金額ハ二十圓
ヲ下ルコトヲ得ズ

同一種類ノ社債ニ在リテハ各社債ノ金
額ハ均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除
シ得ベキモノナルコトヲ要ス
第三百條 社債權者ニ償還スベキ金額ガ
券面額ヲ超ニベキコトヲ定メタルトキ
ハ其ノ超過額ハ各社債ニ付同率ナルコ
トヲ要ス

第三百一條 社債ノ募集ニ應ゼントスル
者ハ社債申込證ニ通ニ其ノ引受クベキ
社債ノ數及住所ヲ記載シ之ニ署名スル
コトヲ要ス
社債申込證ハ取締役之ヲ作り之ニ左ノ
事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 會社ノ商號
- 二 社債ノ總額
- 三 各社債ノ金額
- 四 社債ノ利率
- 五 社債償還ノ方法及期限
- 六 利息支拂ノ方法及期限
- 七 數回ニ分テテ社債ノ拂込ヲ爲サシ
ムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期
- 八 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額

九 債券ヲ記名式又ハ無記名式ニ限リ
タルトキハ其ノ旨
十 會社ノ資本ノ總額
十一 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ
現存スル純財産額
十二 舊社債ノ償還ノ爲第二百九十七
條第一項及第二項ノ制限ヲ超エテ社
債ヲ募集スルトキハ其ノ旨

十三 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其
ノ償還ヲ了ヘザル總額
十四 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社
アルトキハ其ノ商號
十五 社債ノ應募額ガ總額ニ達セザル
場合ニ於テ前號ノ會社ガ其ノ殘額ヲ
引受クベキコトヲ約シタルトキハ其
ノ旨

社債發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ
於テハ社債應募者ハ社債申込證ニ應募
價額ヲ記載スルコトヲ要ス
第三百二條 前條ノ規定ハ契約ニ依リ社
債ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用
セズ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ
自ラ社債ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ
其ノ一部ニ付亦同ジ

第三百三條 社債ノ募集ガ完了シタルト
スル行爲ハ共同シテ之ヲ爲スコトヲ要
ス
第三百十一條 社債募集ノ委託ヲ受ケタ
ル會社ニ以上アルトキハ社債權者ニ對
シ連帶シテ償還額ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ
負フ
第三百十二條 社債募集ノ委託ヲ受ケタ
ル會社ハ社債ヲ發行シタル會社及社債
權者集會ノ同意ヲ得テ辭任スルコトヲ
得已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於
テ裁判所ノ許可ヲ得タルトキ亦同ジ

キハ取締役ハ連帶ナク各社債ニ付其ノ
全額又ハ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコ
トヲ要ス
第三百四條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル
會社ハ自己ノ名ヲ以テ會社ノ爲ニ第三
百一條第二項及前條ニ定ムル行爲ヲ爲
スコトヲ得

第三百五條 會社ハ第三百三條ノ拂込ア
リタル日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二
週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内
ニ社債ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記
スルコトヲ要ス

一 第三百一條第二項第二號乃至第六
號及第十四號ニ掲グル事項
二 各社債ニ付拂込ミタル金額
第六十七條ノ規定ハ第一項ノ登記ニ之
ヲ準用ス
外國ニ於テ社債ヲ募集シタル場合ニ於
テ登記スベキ事項ガ外國ニ於テ生ジタ
ルトキハ登記ノ期間ハ其ノ通知ノ到達
シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第三百六條 債券ハ社債全額ノ拂込アリ
タル後ニ非ザレバ之ヲ發行スルコトヲ
得ズ
債券ニハ第三百一條第二項第一號乃至
合ニ於テ欠缺セル利札アルトキハ之ニ
相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ
既ニ支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ
此ノ限ニ在ラズ
前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ト
引換ニ控除金額ノ支拂ヲ請求スルコト
ヲ得

第六號、第九號及第十四號ニ掲グル事
項並ニ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名ス
ルコトヲ要ス
第三百七條 記名社債ノ移轉ハ取得者ノ
氏名及住所ヲ社債原簿ニ記載シ且其ノ
氏名ヲ債券ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ
以テ會社其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコ
トヲ得ズ

第三百八條 社債權者ハ何時ニテモ其ノ
記名式ノ債券ヲ無記名式ト爲シ又ハ其
ノ無記名式ノ債券ヲ記名式ト爲スコト
ヲ請求スルコトヲ得但シ債券ヲ記名式
又ハ無記名式ニ限ル旨ノ定アルトキハ
此ノ限ニ在ラズ

第三百九條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル
會社ハ社債權者ノ爲ニ社債ノ償還ヲ受
クルニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判
外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
前項ノ會社ガ社債ノ償還ヲ受ケタルト
キハ連帶ナク其ノ旨ヲ公告シ且知レタ
ル社債權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコ
トヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ社債權者ハ債券ト引
換ニ償還額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得
第三百十條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル
會社ニ以上アルトキハ其ノ權限ニ屬

第三百十五條 無記名社債ヲ償還スル場
合ニ於テ欠缺セル利札アルトキハ之ニ
相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ
既ニ支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ
此ノ限ニ在ラズ
前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ト
引換ニ控除金額ノ支拂ヲ請求スルコト
ヲ得

第三百十六條 社債ノ償還請求權ハ十年
ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅
ス
第三百九條第三項ノ請求權亦前項ニ同
ジ

利息及前條第二項ノ請求權ハ五年ヲ經
過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
第三百十七條 社債原簿ニハ左ノ事項ヲ
記載スルコトヲ要ス

- 一 社債權者ノ氏名及住所
- 二 債券ノ番號
- 三 第三百一條第二項第二號乃至第七
號及第十四號ニ掲グル事項
- 四 各社債ニ付拂込ミタル金額及拂込
ノ年月日
- 五 債券發行ノ年月日
- 六 各社債ノ取得ノ年月日
- 七 無記名式ノ債券ヲ發行シタルトキ
ハ其ノ數、番號及發行ノ年月日

第三百十四條 前二條ノ場合ニ於テ社債
募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキニ至リ
タルトキハ社債ヲ發行シタル會社及社
債權者集會ノ一致ヲ以テ其ノ事務ノ承
繼者ヲ定ムルコトヲ得

已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ利害
關係人ハ事務承繼者ノ選任ヲ裁判所ニ
請求スルコトヲ得

第三百十五條 無記名社債ヲ償還スル場
合ニ於テ欠缺セル利札アルトキハ之ニ
相當スル金額ヲ償還額ヨリ控除ス但シ
既ニ支拂期ノ到來シタル利札ニ付テハ
此ノ限ニ在ラズ
前項ノ利札ノ所持人ハ何時ニテモ之ト
引換ニ控除金額ノ支拂ヲ請求スルコト
ヲ得

第三百十八條 第二百二十四條第一項及第二項ノ規定ハ社債應募者又ハ社債権者ニ對スル通知及催告ニ之ヲ準用ス
第二百三條ノ規定ハ社債ガ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス

第二款 社債権者集會

第三百十九條 社債権者集會ハ本法ニ規定アル場合ヲ除クノ外裁判所ノ許可ヲ得テ社債権者ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有スル事項ニ付決議ヲ爲スコトヲ得
第三百二十條 社債権者集會ハ社債ヲ發行シタル會社又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社之ヲ招集ス
 社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債権者ハ會議ノ目的タル事項及招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ前項ノ會社ニ提出シテ社債権者集會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得
第二百三十七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ供託スルニ非ザレバ前二項ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ズ

第三百二十一條 各社債権者ハ社債ノ最低額毎ニ一個ノ議決權ヲ有ス
 無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ會日ヨリ

一週間前ニ債券ヲ供託スルニ非ザレバ其ノ議決權ヲ行使スルコトヲ得ズ
第三百二十二條 社債ヲ發行シタル會社又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ其ノ代表者ヲ社債権者集會ニ出席セシメ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述ブルコトヲ得
 社債権者集會ノ招集ハ前項ノ會社ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス
第二百三十二條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第三百二十三條 社債権者集會又ハ其ノ招集者ハ必要アリト認ムルトキハ社債ヲ發行シタル會社ニ對シ其ノ代表者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得
第三百二十四條 第三百四十三條第一項乃至第三項及第三百四十四條第二項第三項ノ規定ハ社債権者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス
第三百二十二條乃至第三百四十四條及前條ノ同意又ハ請求ハ前項ノ規定ニ拘ラズ出席シタル社債権者ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ決スルコトヲ得

第三百二十五條 社債権者集會ノ招集者ハ決議ノ日ヨリ一週間内ニ決議ノ認可ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス
第三百三十五條 前條ノ規定ニ依リ會社ガ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ前條第一項ノ決議ヲ執行スル者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公告シ且知レタル社債権者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス
第三百三十六條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、代表者又ハ執行者ニ對シテ與フベキ報酬及其ノ事務處理ノ爲ニ要スル費用ハ社債ヲ發行シタル會社トノ契約ニ其ノ定アル場合ヲ除クノ外裁判所ノ許可ヲ得テ會社ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得
第三百三十七條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、代表者又ハ執行者ハ償還ヲ受ケタル金額ヨリ社債権者ニ先チテ前項ノ報酬及費用ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得
第三百三十七條 社債権者集會ニ關スル費用ハ社債ヲ發行シタル會社ノ負擔トス

第三百二十六條 裁判所ハ左ノ場合ニ於テハ社債権者集會ノ決議ヲ認可スルコトヲ得ズ
 一 社債権者集會招集ノ手續又ハ其ノ決議ノ方法ガ法令又ハ社債募集ノ目論見書ノ記載ニ違反スルトキ
 二 決議ガ不當ノ方法ニ依リテ成立スルニ至リタルトキ
 三 決議ガ著シク不公平ナルトキ
 四 決議ガ社債権者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決議ノ内容其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ決議ヲ認可スルコトヲ妨ゲズ
第三百二十七條 社債権者集會ノ決議ハ裁判所ノ認可ニ依リテ其ノ效力ヲ生ズ
 社債権者集會ノ決議ハ總社債権者ニ對シ其ノ效力ヲ有ス
第三百二十八條 社債権者集會ノ決議ニ對シ認可又ハ不認可ノ決定アリタルトキハ社債ヲ發行シタル會社ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百二十九條 社債権者集會ハ社債總額ノ五分ノ一以上ヲ有スル社債権者ノ中ヨリ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スベキ事項ノ決定ヲ之ニ委託スルコトヲ得
第二百三十七條第三項ノ規定ハ第三百二十條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リテ社債権者集會ヲ招集シタル場合ニ之ヲ準用ス
第三百二十五條ノ請求ニ關スル費用ハ會社ノ負擔トス但シ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ全部又ハ一部ニ付別ニ負擔者ヲ定ムルコトヲ得
第三百三十八條 數種ノ社債ヲ發行シタル場合ニ於テハ社債権者集會ハ各種類ノ社債ニ付之ヲ招集スルコトヲ要ス
第三百三十九條 第二百三十二條、第二百三十九條第三項第四項、第二百四十四條、第二百四十一條第二項、第二百四十三條及第二百四十四條ノ規定ハ社債権者集會ニ之ヲ準用ス
 社債権者集會ノ議事録ハ社債ヲ發行シタル會社其ノ本店ニ之ヲ備置クコトヲ要ス
 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社及社債権者ハ營業時間内何時ニテモ前項ノ議事録ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得
第三百四十條 會社ガ或社債権者ニ對シテ爲シタル辨濟、和解其ノ他ノ行爲ガ著シク不公平ナルトキハ社債募集ノ委託

任スルコトヲ得

代表者數人アルトキハ前項ノ決定ハ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス

第三百三十條 社債権者集會ノ決議ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、若シ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキトキハ前條ノ代表者之ヲ執行ス但シ社債権者集會ノ決議ヲ以テ別ニ執行者ヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第三百三十一條 第三百十條ノ規定ハ代表者又ハ執行者數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十二條 第三百九條、第三百十條及第三百十六條第二項ノ規定ハ代表者又ハ執行者ガ社債ノ償還ニ關スル決議ヲ執行スル場合ニ之ヲ準用ス
第三百三十三條 社債権者集會ハ何時ニテモ代表者若ハ執行者ヲ解任シ又ハ委任シタル事項ヲ變更スルコトヲ得

第三百三十四條 會社ガ社債ノ利息ノ支拂ヲ怠リタルトキ又ハ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スベキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ怠リタルトキハ社債権者集會ノ決議ニ依リ會社ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ辨濟ヲ爲スベキ旨及其ノ期間内ニ之ヲ爲サザルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利

益ヲ失フベキ旨ヲ通知スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ
 前項ノ通知ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
 會社ガ第一項ノ期間内ニ辨濟ヲ爲サザルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ

第三百三十五條 前條ノ規定ニ依リ會社ガ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ前條第一項ノ決議ヲ執行スル者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公告シ且知レタル社債権者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス
第三百三十六條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、代表者又ハ執行者ニ對シテ與フベキ報酬及其ノ事務處理ノ爲ニ要スル費用ハ社債ヲ發行シタル會社トノ契約ニ其ノ定アル場合ヲ除クノ外裁判所ノ許可ヲ得テ會社ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三百三十七條 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、代表者又ハ執行者ハ償還ヲ受ケタル金額ヨリ社債権者ニ先チテ前項ノ報酬及費用ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得
第三百三十七條 社債権者集會ニ關スル費用ハ社債ヲ發行シタル會社ノ負擔トス

第三百三十八條 數種ノ社債ヲ發行シタル場合ニ於テハ社債権者集會ハ各種類ノ社債ニ付之ヲ招集スルコトヲ要ス
第三百三十九條 第二百三十二條、第二百三十九條第三項第四項、第二百四十四條、第二百四十一條第二項、第二百四十三條及第二百四十四條ノ規定ハ社債権者集會ニ之ヲ準用ス
 社債権者集會ノ議事録ハ社債ヲ發行シタル會社其ノ本店ニ之ヲ備置クコトヲ要ス
 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社及社債権者ハ營業時間内何時ニテモ前項ノ議事録ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得
第三百四十條 會社ガ或社債権者ニ對シテ爲シタル辨濟、和解其ノ他ノ行爲ガ著シク不公平ナルトキハ社債募集ノ委託

第三百四十條 會社ガ或社債権者ニ對シテ爲シタル辨濟、和解其ノ他ノ行爲ガ著シク不公平ナルトキハ社債募集ノ委託

託ヲ受ケタル會社ハ訴ヲ以テ其ノ行爲ノ取消ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ訴ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ取消ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ六月、行爲ノ時ヨリ一年內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス
 第八十八條並ニ民法第四百二十四條第一項但書及第四百二十五條ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス
 第三百四十一條 社債權者集會ノ決議アルトキハ代表者又ハ執行者モ亦前條第一項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得但シ行爲ノ時ヨリ一年內ニ限ル
 第六節 定款ノ變更
 第三百四十二條 定款ノ變更ヲ爲スニハ株主總會ノ決議アルコトヲ要ス
 定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第二百三十二條ニ定ムル通知及公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス
 第三百四十三條 前條第一項ノ決議ハ株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス
 前項ニ定ムル員數ノ株主ガ出席セザルトキハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲スコトヲ得此ノ場

合ニ於テハ各株主ニ對シテ其ノ假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其ノ趣旨ヲ公告シ更ニ一月內ニ第二回ノ株主總會ヲ召集スルコトヲ要ス
 第二回ノ株主總會ニ於テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス
 前二項ノ規定ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セズ
 第三百四十四條 前條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ議決權ナキ株主ハ之ヲ總株主ノ員數ニ、其ノ有スル株式ノ金額ハ之ヲ資本ノ額ニ算入セズ
 第二百三十九條第二項ノ規定ニ依リテ株券ヲ供託セザル者ハ之ヲ總株主ノ員數ニ算入セズ
 第二百四十條ノ規定ハ前條第一項乃至第三項ノ議決權ニ之ヲ準用ス
 第三百四十五條 會社ガ數種ノ株式ヲ發行シタル場合ニ於テ定款ノ變更ガ或種類ノ株主ニ損害ヲ及ボスベキトキハ株主總會ノ決議ノ外其ノ種類ノ株主ノ總會ノ決議アルコトヲ要ス
 或種類ノ株主ノ總會ノ決議ハ其ノ種類ノ株主ノ半數以上ニシテ株金總額ノ半

額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ爲ス
 株主總會ニ關スル規定ハ議決權ナキ種類ノ株式ニ關スルモノヲ除クノ外第一項ノ總會ニ之ヲ準用ス
 第三百四十六條 前條ノ規定ハ第二百二十二條第二項ノ決議ヲ爲ス場合及會社ノ合併ニ因リテ或種類ノ株主ニ損害ヲ及ボスベキ場合ニ之ヲ準用ス
 第三百四十七條 第二百二十二條第二項及前二條ノ規定ハ同種類ノ株式中ニ拂込額ヲ異ニスル二種以上ノモノアル場合ニ之ヲ準用ス 前除
 第三百四十八條 左ノ事項ハ定款ニ定ナキトキト雖モ資本増加ノ決議ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得
 一、新株ノ額面以上ノ發行
 二、現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的タル財産、其ノ價格並ニ之ニ對シテ與フル株式ノ種類及數
 三、資本ノ増加後ニ應受クルコトヲ約シタル財産、其ノ價格及讓渡人ノ氏名
 四、新株ノ引受權ヲ與フベキ者及其ノ權利ノ内容
 第三百四十九條 會社ガ特定ノ者ニ對シ

將來其ノ資本ヲ増加スル場合ニ於テ新株ノ引受權ヲ與フベキコトヲ約スルニハ第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス
 第三百五十條 株式申込證ハ取締役之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 會社ノ商號
 二 増加スベキ資本ノ額
 三 資本増加ノ決議ノ年月日
 四 (削除)
 五 第七十五條第二項第五號第六號及第三百四十八條第一號乃至第三號ニ掲グル事項
 六 數種ノ株式アルトキ又ハ異種類ノ株式ヲ發行スルトキハ新ニ發行スル株式ノ内容及數
 七 一定ノ時期迄ニ第三百五十一條ノ總會ガ終結セザルトキハ株式ノ申込ヲ取消スコトヲ得ベキコト
 第三百五十一條 資本増加ノ場合ニ於テ各新株ニ付第七十七條ノ規定ニ依ル拂込及現物出資ノ給付アリタルトキハ取締役ハ遲滞ナク株主總會ヲ召集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス

新株ノ引受人ハ前項ノ總會ニ於テ株主ト同一ノ權利ヲ有ス
 第三百五十二條 新株ノ引受人ハ株金ノ拂込期日ヨリ利益又ハ利息ノ配當ニ付株主ト同一ノ權利ヲ有ス
 第三百五十三條 會社ノ成立後二年內ニ其ノ資本ヲ増加スル決議ヲ爲シ又ハ資本ヲ倍額以上ニ増加スル場合ニ於テ第三百四十八條第二號又ハ第三號ニ掲グル事項ヲ定メタルトキハ取締役ハ之ニ關スル調査ヲ爲サシムル爲メ検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス
 第三百八十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三百五十四條 監査役ハ左ノ事項ヲ調査シ之ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス
 一 新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ
 二 第七十七條ノ規定ニ依ル拂込及現物出資ノ給付アリタルヤ否ヤ
 三 監査役ハ前條第一項ノ検査役ノ報告書ヲ調査シ株主總會ニ其ノ意見ヲ報告スルコトヲ要ス
 株主總會ハ第一項ノ調査及報告ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第三百五十五條 第三百五十三條第一項ノ場合ニ於テハ第三百五十一條ノ株主總會ノ決議ハ第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
 第三百八十五條及第三百八十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三百五十六條 引受ナキ株式又ハ第七十七條ノ規定ニ依ル拂込ノ未済ナル株式アルトキハ取締役ハ連帶シテ其ノ株式ノ引受又ハ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込ガ取消サレタルトキ亦同ジ
 第三百九十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三百五十七條 會社ハ第三百五十一條ノ株主總會終結ノ日又ハ第三百五十五條第二項ノ手續終了ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間內ニ資本増加ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス
 一 増加シタル資本ノ額
 二 資本増加ノ決議ノ年月日
 三 (削除)
 四 數種ノ株式アルトキ又ハ異種類ノ株式ヲ發行スルトキハ新ニ發行スル

株式ノ内容及數
第六十七條ノ規定ハ第一項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三百五十八條 資本ノ増加ハ本店ノ所在地ニ於テ前條第一項ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

資本増加ノ年月日ハ之ヲ新株券ニ記載スルコトヲ要ス

第三百五十九條 資本増加ノ場合ニ於テハ定款ヲ以テ株主ガ其ノ引受ケタル新株ヲ他ノ種類ノ株式ニ轉換スルコトヲ請求シ得ベキ旨ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ轉換ヲ請求シ得ベキ期間及轉換ニ因リテ受クベキ株式ノ内容ヲ定ムルコトヲ要ス

第三百六十條 前條ノ場合ニ於テハ株式申込證、株券及株主名簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 株式ヲ他ノ種類ノ株式ニ轉換スルコトヲ得ベキコト
二 轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ内容
三 轉換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ベキ期間

資本増加ノ登記ニ在リテハ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第三百六十九條 轉換ニ因リテ生ジタル資本ノ増加及社債ノ減少ハ每營業年度ノ終ヨリ一月内ニ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十四條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三百七十條 第一百七十五條第一項第三項第四項、第七十六條乃至第七十九條、第九十條、第九十一條ノ規定ハ資本増加ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十條第二項ノ規定ハ取締役及監査役ニ之ヲ準用ス

第二百二十六條ノ規定ハ新株ノ發行ニ之ヲ準用ス

第三百七十一條 資本増加ノ無効ハ第三百五十七條又ハ第三百六十九條ノ規定ニ依リ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル日ヨリ六月内ニ訴ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ訴ハ株主、取締役又ハ監査役ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第三百七十二條 第八十八條、第九十五條第二項乃至第四項、第九十七條、第九十九條、第三百三十七條及第二百四十九條ノ規定ハ前條ノ訴ニ之ヲ準用ス

第三百六十一條 轉換ヲ請求スル者ハ請求書ニ通ニ株券ヲ添附シテ之ヲ會社ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ請求書ニハ轉換セントスル株式ノ數及請求ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

第三百六十二條 轉換ハ其ノ請求ヲ爲シタル時ノ屬スル營業年度ノ終ニ於テ其ノ效力ヲ生ズ

第三百六十三條 轉換ニ因リテ生ジタル各種類ノ株式ノ數ノ増減ハ每營業年度ノ終ヨリ一月内ニ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第六十四條第二項ノ規定ハ前項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第三百六十四條 社債募集ノ場合ニ於テハ社債權者ガ社債ヲ株式ニ轉換スルコトヲ請求シ得ベキ旨且轉換ノ限度ニ於テ資本ヲ増加スベキ旨ヲ決議スルコトヲ得

前項ノ決議ニ於テハ轉換ノ條件、轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ内容及轉換ヲ請求シ得ベキ期間ヲ定ムルコトヲ要ス

第三百六十五條 轉換ニ因リテ發行スベキ株式ハ全額拂込済ノモノトス 削除

轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ金額ハ轉換スベキ社債ノ發行價額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二百八十八條第二項ノ規定ハ社債ノ轉換ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百六十六條 轉換社債ニ付テハ社債申込證、債券及社債原簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 社債ヲ株式ニ轉換スルコトヲ得ベキコト
二 轉換ノ條件
三 轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ内容
四 轉換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ベキ期間

社債ノ登記ニ在リテハ前項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第三百六十七條 轉換ヲ請求スル者ハ請求書ニ通ニ債券ヲ添附シテ之ヲ會社ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ請求書ニハ轉換セントスル社債ヲ表示シ請求ノ年月日ヲ記載シテ之ニ署名スルコトヲ要ス

第三百六十八條 第二百八十八條第一項及第三百六十二條ノ規定ハ社債ノ轉換ノ場合ニ之ヲ準用ス

以テ取得スル契約ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三百七十六條 資本減少ノ場合一於テハ其ノ決議ニ於テ減少ノ方法ヲ定ムルコトヲ要ス

第九十九條及第百條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

社債權者ガ異議ヲ述ブルニハ社債權者集會ノ決議ニ依ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依リ社債權者ノ爲ニ異議ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第三百七十七條 株式ノ併合ヲ爲サントスルトキハ會社ハ其ノ旨及一定ノ期間内ニ株券ヲ會社ニ提出スベキ旨ヲ公告シ且株主及株主名簿ニ記載アル質權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ

株式ノ併合ハ前項ノ期間満了ノ時、若シ第百條ノ手續ガ未ダ終了セザルトキハ其ノ終了ノ時ニ於テ其ノ效力ヲ生ズ

第三百七十八條 株式ノ併合アリタル場合ニ於テ舊株券ヲ提出スルコト能ハザル者アルトキハ會社ハ其ノ者ノ請求ニ依リ利害關係人ニ對シ異議アラバ一定

ノ期間内ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ公告シ其ノ期間經過後ニ於テ新株券ヲ交付スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ

前項ノ公告ノ費用ハ之ヲ請求者ノ負擔トス

第三百七十九條 併合ニ適セザル數ノ株式アルトキハ其ノ併合ニ適セザル部分ニ付新ニ發行シタル株式ヲ發賣シ且株式數ニ應ジテ其ノ代金ヲ從前ノ株主ニ交付スルコトヲ要ス但シ發賣ニ代ヘ裁判所ハ許可ヲ得テ他ノ方法ニ依リ之ヲ賣却スルコトヲ妨グズ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ無記名式ノ株券ニシテ第三百七十七條第一項ノ規定ニ依ル提出ナカリシモノニ之ヲ準用ス

第三百八十條 資本減少ノ無効ハ本店ノ所在地ニ於テ資本減少ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ六月内ニ訴テ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ訴ハ株主、取締役、監査役、清算人、破産管財人又ハ資本ノ減少ヲ承認セザル債權者ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第八十八條、**第二百五條**第二項乃至**第四**

項、**第六六條**、**第六七條**、**第六九條**、**第七十條**及**第七四條**ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第七節 會社ノ整理

第三百八十一條 會社ノ現況其ノ他ノ事情ニ依リ支拂不能又ハ債務超過ニ陥ルノ虞アリト認ムルトキハ裁判所ハ取締役、監査役、三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル債權者ノ申立ニ依リ會社ニ對シ整理ノ開始ヲ命ズルコトヲ得會社ニ支拂不能又ハ債務超過ノ疑アリト認ムルトキ亦同ジ

會社ノ業務ヲ監督スル官廳ハ會社ニ前項ニ掲グル事由アリト認ムルトキハ裁判所ニ其ノ旨ヲ通告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ整理ノ開始ヲ命ズルコトヲ得

整理開始ノ申立ガ權利ノ濫用其ノ他不當ノ目的ニ出ヅルモノト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得

第三百八十二條 裁判所整理ノ開始ヲ命ズルコトキハ直ニ會社ノ本店及支店ノ所在地ノ登記所ニ整理開始ノ登記ヲ囑託スルコトヲ得

第三百八十三條 整理開始ノ申立又ハ通告アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ破産手續及和議手續ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

整理開始ノ命令アリタルトキハ破産若ハ和議ノ申立又ハ會社財產ニ對スル強制執行、假差押若ハ假處分ヲ爲スコトヲ得ズ破産手續、和議手續並ニ既ニ爲シタル強制執行、假差押及假處分ハ之ヲ中止ス

整理開始ノ命令ガ確定シタルトキハ前二項ノ規定ニ依リテ中止シタル手續ハ整理ノ關係ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第三百八十四條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ債權者ノ一般ノ利益ニ適應シ且發賣申立人ニ不當ノ損害ヲ及ボスノ虞ナキモノト認ムルトキハ裁判所ハ相當ノ期間ヲ定メ競賣法ニ依ル競賣手續ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

第三百八十五條 整理開始ノ命令アリタルトキハ會社ノ債權者ノ債權ニ付テハ整理開始ノ取消ノ登記又ハ整理終結ノ登記ノ日ヨリ二月内ハ時効完成セズ

第三百八十六條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 會社ノ業務ノ制限其ノ他會社財產ノ保全處分

二 株主ノ名義書換ノ禁止

三 會社ノ業務及財產ニ對スル検査ノ命令

四 整理又ハ和議ニ關スル立案及實行ノ命令

五 取締役又ハ監査役ノ解任

六 發起人、取締役又ハ監査役ノ責任ノ免除ノ禁止

七 發起人、取締役又ハ監査役ノ責任ノ免除ノ取消但シ整理ノ開始ヨリ一年前ニ爲シタル免除ニ付テハ不正ノ目的ニ出デタルモノニ限ル

八 發起人、取締役又ハ監査役ノ責任ニ基ク損害賠償請求權ノ査定

九 前號ノ損害賠償請求權ニ付發起人、取締役又ハ監査役ノ財產ニ對シテ爲ス保全處分

十 會社ノ業務及財產ニ關スル監督ノ命令

十一 會社ノ業務及財產ニ關スル管理ノ命令

整理開始ノ申立又ハ通告アリタルトキハ裁判所ハ其ノ開始前ト雖モ**第三百八十一條**第一項ニ掲グル者ノ申立ニ依リ

又ハ職權ヲ以テ前項第一號乃至第三號第九號又ハ第十號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百八十七條 裁判所前條第一項第五號、第十號又ハ第十一號ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ會社ノ本店及支店ノ所在地ノ登記所ニ其ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス前條第一項第一號ノ業務ノ制限ノ處分ヲ爲シタルトキ亦同ジ

前條第一項第一號又ハ第九號ノ處分ニシテ登記又ハ登錄ヲ爲スベキ財產ニ關スルモノニ付テハ裁判所ハ直ニ其ノ登記又ハ登錄ヲ囑託スルコトヲ要ス

第三百八十八條 **第三百八十六條**第一項第三號ノ検査ハ會社ノ業務及財產ノ狀況其ノ他會社ノ整理ニ必要ナル事項ニ付裁判所ノ選任シタル検査役之ヲ爲ス検査役ハ會社ノ業務ガ不良ト爲リタル事情及發起人、取締役又ハ監査役ニ不正又ハ懈怠ナカリシヤ否ヤヲモ調査スルコトヲ要ス

第三百八十九條 検査役ハ調査ノ結果殊ニ左ノ事項ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス

一 整理ノ見込アルヤ否ヤ

二 發起人、取締役又ハ監査役ニ**第百**

九十二條、**第九十三條**、**第二百六十六條**、**第二百八十條**又ハ**第三百五十六條**ノ規定ニ依リテ責ニ任ズベキ事實アルヤ否ヤ

三 會社ノ業務及財產ニ付監督又ハ管理ヲ爲ス必要アルヤ否ヤ

四 會社財產ノ保全處分ヲ爲ス必要アルヤ否ヤ

五 會社ノ損害賠償請求權ニ付發起人、取締役又ハ監査役ノ財產ニ對シ保全處分ヲ爲ス必要アルヤ否ヤ

第三百九十條 検査役ハ發起人、取締役、監査役及支配人其ノ他ノ使用人ニ對シ會社ノ業務及財產ノ狀況ニ付報告ヲ求メ會社ノ帳簿、書類、金錢其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

検査役ハ其ノ調査ヲ爲スニ當リ裁判所ノ許可ヲ得テ執行吏又ハ當該警察官及警察吏員ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第三百九十一條 **第三百八十六條**第一項第四號ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ整理委員ヲ選任スルコトヲ得

整理委員ハ整理又ハ和議ニ關スル立案ノ任ニ當リ且取締役ガ其ノ實行ヲ爲スニ付之ト協力ス

前條第一項ノ規定ハ整理委員ニ之ヲ準用ス

第三百九十二條 整理ノ實行上又ハ和議ノ爲メ株金ノ拂込ヲ爲サシムル必要アリト認ムルトキハ取締役ハ各株主ニ對シ其ノ有スル株式ノ數及未拂込株金額ヲ通知シ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベキ旨ヲ催告スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ズ

株主ガ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ベザリシトキハ通知シタル事項ヲ承認シタルモノト看做ス

株主ガ異議ヲ述ベタルトキハ取締役ハ其ノ確定ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス(本條削除)

第三百九十三條 取締役ハ前條ノ承認又ハ確定アリタル事項ニ基キ株主表ヲ作ルコトヲ要ス

取締役株金ノ拂込ヲ爲サシメントスルトキハ其ノ拂込金額ニ付裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

會社ハ株主ニ對シ前項ノ認可ノ記載アル株主表ノ抄本ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得(本條削除)

第三百九十四條 第三百八十六條第一項第八號ノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ一月内ニ異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

査定ヲ認可シ又ハ之ヲ變更シタル判決ハ強制執行ニ關シテハ給付ヲ命ズル判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第八十八條及第五百五條第二項第三項ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第三百九十五條 前條第一項ノ期間内ニ訴ヲ提起ナキトキハ査定ハ給付ヲ命ズル確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス訴ガ却下セラレタルトキ亦同ジ

第三百九十六條 査定ノ申立ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス職權ニ依ル査定手續ノ開始亦同ジ

第三百九十七條 第三百八十六條第一項第十號ノ監督ハ裁判所ノ選任シタル監督員ニ之ヲ準用ス

第三百九十八條 第三百八十六條第一項第十一號ノ管理ハ裁判所ノ選任シタル會社ノ代表、業務ノ執行並ニ財産ノ管理及處分ヲ爲ス權利ハ管理人ニ專屬ス

知ヲ受ケタル日ヨリ一月内ニ異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

査定ヲ認可シ又ハ之ヲ變更シタル判決ハ強制執行ニ關シテハ給付ヲ命ズル判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第八十八條及第五百五條第二項第三項ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス

第三百九十五條 前條第一項ノ期間内ニ訴ヲ提起ナキトキハ査定ハ給付ヲ命ズル確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス訴ガ却下セラレタルトキ亦同ジ

第三百九十六條 査定ノ申立ハ時効ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス職權ニ依ル査定手續ノ開始亦同ジ

第三百九十七條 第三百八十六條第一項第十號ノ監督ハ裁判所ノ選任シタル監督員ニ之ヲ準用ス

第三百九十八條 第三百八十六條第一項第十一號ノ管理ハ裁判所ノ選任シタル會社ノ代表、業務ノ執行並ニ財産ノ管理及處分ヲ爲ス權利ハ管理人ニ專屬ス

第二百四十七條、第三百七十一條、第三百八十條、第四百十五條及第四百二十八條ノ規定ニ依ル取締役ノ權利亦同ジ

第三百九十條ノ規定ハ管理人ニ之ヲ準用ス

第三百九十九條 整理ガ終了シ又ハ整理ノ必要ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ第三百八十一條第一項ニ掲グル者、検査役、整理委員、監督員又ハ管理人ノ申立ニ依リ整理終結ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第四百條 第三百八十二條及第三百八十七條ノ規定ハ整理終結ノ決定又ハ整理開始ノ命令ヲ取消ス決定ガ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百一條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ債權者ノ一般ノ利益ノ爲メ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ和議ノ申立ヲ爲スコトヲ認可スルコトヲ得

裁判所前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ和議法ニ從ヒ和議手續ヲ爲スコトヲ要ス

第四百二條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ整理ノ見込ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ破産法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス

第四百三條 破産法第四百條ノ規定ハ整理ノ場合ニ之ヲ準用ス

破産法第六十三條乃至第六十六條ノ規定ハ検査役、整理委員、監督員及管理人ニ之ヲ準用ス

第八節 解散

第四百四條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 第九十四條第一號、第三號、第五號及第六號ニ掲グル事由

二 株主總會ノ決議

三 營業全部ノ讓渡

第四百五條 解散ノ決議ハ第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四百六條 會社ガ存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生又ハ株主總會ノ決議ニ因リテ解散シタル場合ニ於テハ第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依リテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

第四百七條 會社ガ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外取締役ハ遲滞ナク株主ニ對シテ其ノ旨ノ通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第四百八條 會社ガ合併ヲ爲スニハ合併

契約書ヲ作り株主總會ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

合併契約書ノ要領ハ第二百三十二條ニ定ムル通知及公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第一項ノ決議ハ第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四百九條 合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ合併後存續スル場合ニ於テハ合併契約書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 存續スル會社ノ増加スベキ資本ノ額

二 存續スル會社ノ發行スベキ新株ノ種類及數並ニ合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株主ニ對スル新株ノ割當ニ關スル事項

三 合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株主ニ支拂フ爲スベキ金額ヲ定メタルトキハ其ノ規定

四 各會社ニ於テ前號第一項ノ決議ヲ爲スベキ株主總會ノ期日

五 合併ヲ爲スベキ時期ヲ定メタルトキハ其ノ規定

第四百十條 合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ合併契約書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 合併ニ因リテ設立スル會社ノ目的、商號、資本ノ總額、一株ノ金額及本店ノ所在地

二 合併ニ因リテ設立スル會社ノ發行スベキ株式ノ種類及數並ニ各會社ノ株主ニ對スル株式ノ割當ニ關スル事項

三 各會社ノ株主ニ支拂フ爲スベキ金額ヲ定メタルトキハ其ノ規定

四 前條第四號及第五號ニ掲グル事項

第四百十一條 合併前存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ガ株式會社ナル場合ニ於テ合併ヲ爲ス會社ノ一方又ハ雙方ガ合名會社又ハ合資會社ナルトキハ總社員ノ同意ヲ得テ合併契約書ヲ作ルコトヲ要ス

前二條ノ規定ハ前項ノ合併契約書ニ之ヲ準用ス

第四百十二條 合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ合併後存續スル場合ニ於テハ其ノ取締役ハ第三百條ノ手續ヲ終了後、合併ニ因ル株式ノ併合アリタルトキハ其ノ效力ヲ生ジタル後、併合ニ適セザル株式アリタルトキハ合併後存續スル會社ニ於テ第三百七十九條ノ處分ヲ爲シタル後遲滞ナク株主總會ヲ召集シテ之ニ合併

ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス
第三百五十一條第二項ノ規定ハ前項ノ
株主總會ニ關シテ準用ス

第四百十三條 合併ニ因リテ會社ヲ設立
スル場合ニ於テハ設立委員ハ第百條ノ
手續ノ終了後、合併ニ因ル株式ノ併合
アリタルトキハ其ノ效力ヲ生ジタル後
併合ニ適セザル株式アリタルトキハ第
三百七十九條ノ處分ヲ爲シタル後遲滯
ナク創立總會ヲ召集スルコトヲ要ス

創立總會ニ於テハ定款變更ノ決議ヲモ
爲スコトヲ得但シ合併契約ノ趣旨ニ反
スルコトヲ得ズ
第百八十條第二項第三項、第百八十二
條、第百八十三條及第百八十七條第二
項ノ規定ハ第一項ノ創立總會ニ之ヲ準
用ス

第四百十四條 會社ガ合併ヲ爲シタルト
キハ第四百十二條ノ株主總會又ハ前條
ノ創立總會ノ終結ノ日ヨリ本店ノ所在
地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於
テハ三週間内ニ合併後存續スル會社ニ
付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ消滅
スル會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ
因リテ設立シタル會社ニ付テハ第百八
十八條ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ
設立シタル會社ガ合併ニ因リテ社債ヲ
承繼シタルトキハ前項ノ登記ト同時ニ
社債ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
第四百十五條 合併ノ無効ヲ訴ハ各會社
ノ株主、取締役、監査役、清算人、破
産管財人又ハ合併ヲ承認セザル債權者
ニ限リテ之ヲ提起スルコトヲ得
第四百十六條 第九十六條、第九十七條
第九十八條第二項、第九十九條、第百
條、第百二條、第百三條、第百四條第
一項第三項及第百五條乃至第百十一條
ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス
第三百七十六條第三項ノ規定ハ合併ノ
場合ニ之ヲ準用ス
第三百七十七條乃至第三百七十九條ノ
規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式併合ノ場
合ニ之ヲ準用ス
第二百八條 及第二百九條第三項
ノ規定ハ株式ヲ併合セザル場合ニ於テ
合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株式ヲ目
的トスル債權ニ之ヲ準用ス

第九節 清算

第一款 總則

第四百十七條 會社ガ解散シタルトキハ
合併及破産ノ場合ヲ除ク外取締役其
ハ之ヲ前項ノ殘餘財産ヨリ控除ス

第四百二十五條 殘餘財産ハ各株主ノ有
スル株式ノ數ノ割合ニ應ジテ之ヲ株主
ニ分配スルコトヲ要ス但シ第二百二十
二條第一項ノ規定ノ適用ヲ妨グズ

第四百二十六條 清算人ハ裁判所ノ選任
シタルモノヲ除ク外何時ニテモ株主
總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ
得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査
役又ハ三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ
一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ノ請求
ニ依リ清算人ヲ解任スルコトヲ得
第四百二十七條 清算事務ガ終リタルト
キハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作
リ之ヲ株主總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ
求ムルコトヲ要ス

前項ノ承認アリタルトキハ會社ハ清算
人ニ對シテ其ノ責任ヲ解除シタルモノ
ト看做ス但シ清算人ニ不正ノ行爲アリ
タルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第四百二十八條 會社ノ設立ノ無効ハ其
ノ成立ノ日ヨリ二年内ニ訴ヲ以テノミ
之ヲ主張スルコトヲ得
前項ノ訴ハ株主、取締役又ハ監査役ニ

ノ清算人ト爲ル但シ定款ニ別段ノ定ア
ルトキ又ハ株主總會ニ於テ他人ヲ選任
シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキ
トキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依
リ清算人ヲ選任ス
第四百十八條 清算人ハ其ノ就職ノ日ヨ
リ二週間内ニ左ノ事項ヲ裁判所ニ届出
ズルコトヲ要ス
一 解散ノ事由及其ノ年月日
二 清算人ノ氏名及住所
第四百十九條 清算人ハ就職ノ後遲滯ナ
ク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及
貸借對照表ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出
シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス
清算人ハ前項ノ承認ヲ得タル後遲滯ナ
ク財産目錄及貸借對照表ヲ裁判所ニ提
出スルコトヲ要ス
第四百二十一條 清算人ハ其ノ就職ノ日
ヨリ二月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以
テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ債
權ヲ申出ツベキ旨ヲ催告スルコトヲ要

限リテ提起スルコトヲ得

第三百三十六條第三項、第三百三十七條及
第三百三十八條ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之
ヲ準用ス

第四百二十九條 會社ノ帳簿並ニ其ノ營
業及清算ニ關スル重要書類ハ本店ノ所
在地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲シタル
後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其ノ
保存者ハ清算人其ノ他ノ利害關係人ノ
請求ニ依リ裁判所ノ選任ス

第四百三十條 第百十六條、第百二十二
條乃至第百二十五條、第百二十八條、
第百二十九條第二項第三項、第百三十
一條及第百三十四條ノ規定ハ株式會社
ニ之ヲ準用ス

第二百三十一條、第二百三十六條乃至
第二百三十八條、第二百四十四條第二
項、第二百四十五條第一項第四號第二
項、第二百四十七條、第二百四十九條、
第二百五十四條第二項、第二百五十八
條、第二百六十一條、第二百六十三條、
第二百六十五條乃至第二百七十二條、
第二百七十四條乃至第二百七十九條及
第二百八十二條乃至第二百八十四條ノ
規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

ス但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得
ズ

前項ノ公告ニハ債權者ガ期間内ニ申出
テ爲サザルトキハ清算ヨリ除斥セラル
ベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第四百二十二條 清算人ハ知レタル債權
者ニハ各別ニ其ノ債權ノ申出ヲ催告ス
ルコトヲ要ス
知レタル債權者ハ之ヲ清算ヨリ除斥ス
ルコトヲ得ズ

第四百二十三條 清算人ハ第四百二十一
條第一項ノ債權申出ノ期間内ハ債權者
ニ對シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得但シ會
社ハ之ガ爲ニ遲延ニ因ル損害賠償ノ責
任ヲ免ルルコトナシ

清算人ハ前項ノ規定ニ拘ラズ裁判所ノ
許可ヲ得テ少額ノ債權及擔保アル債權
其ノ他之ヲ辨濟スルモ他ノ債權者ヲ害
スルノ虞ナキ債權ニ付辨濟ヲ爲スコト
ヲ得

第四百二十四條 清算ヨリ除斥セラレタ
ル債權者ハ未ダ分配セザル殘餘財産ニ
對シテノミ辨濟ヲ請求スルコトヲ得
一部ノ株主ニ對シ既ニ分配ヲ爲シタル
場合ニ於テハ他ノ株主ニ對シ之ト同一
ノ割合ヲ以テ分配ヲ爲スニ要スル財産

第二款 特別清算
第四百三十一條 清算ノ遂行ニ著シキ支障ヲ來スベキ事情アリト認ムルトキハ裁判所ハ債權者、清算人、監査役若ハ株主ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ會社ニ對シ特別清算ノ開始ヲ命ズルコトヲ得會社ニ債務超過ノ疑アリト認ムルトキ亦同ジ

會社ニ債務超過ノ疑アルトキハ清算人ハ前項ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス
第三百八十一條第二項及第三項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四百三十二條 特別清算開始ノ申立又ハ通告アリタルトキハ裁判所ハ其ノ開始前ト雖モ前條第一項ニ掲グル者ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ第四百五十四條第一項第一號、第二號又ハ第六號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第四百三十三條 第三百八十二條乃至第三百八十五條ノ規定ハ特別清算ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四百三十四條 特別清算ノ場合ニ於テハ清算人ハ會社、株主及債權者ニ對シ公平且誠實ニ清算事務ヲ處理スル義務ヲ負フ
第四百三十五條 重要ナル事由アルトキ

ハ裁判所ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得清算人ガ缺ケタルトキ又ハ其ノ増員ノ必要アルトキハ裁判所之ヲ選任ス
第四百三十六條 裁判所ハ何時ニテモ清算事務及財産ノ狀況ノ報告ヲ命ジ其ノ他清算ノ監督上必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得
第四百三十七條 清算ノ監督上必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ第四百五十四條第一項第一號、第二號又ハ第六號ノ處分ヲ爲スコトヲ得
第四百三十八條 會社ノ債務ハ其ノ債權額ノ割合ニ應ジテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス
第四百二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四百三十九條 清算ノ實行上必要アリト認ムルトキハ清算人ハ債權者集會ヲ召集スルコトヲ得
申出ラ爲シタル債權者其ノ他會社ニ知レタル債權者ノ總債權ノ十分ノ一以上ニ當ル債權ヲ有スル者ハ會議ノ目的タル事項及召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ清算人ニ提出シテ債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得
第二百三十七條第二項ノ規定ハ前項ノ

債權者集會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テ急迫ナル事情アルトキハ清算人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ前項ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ得
清算人前二項ノ規定ニ違反シタルトキト雖モ會社ハ善意ノ第三者ニ對シテ其ノ責ニ任ズ
第四百四十五條ノ規定ハ特別清算ノ場合ニハ之ヲ適用セズ
第四百四十六條 清算人ハ競賣ニ依リテ財産ヲ換價スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ適用セズ
第四百四十七條 清算人ハ監査委員ノ意見ヲ聽キ債權者集會ニ對シテ協定ノ申出ヲ爲スコトヲ得
第四百四十八條 協定ノ條件ハ各債權者ノ間ニ平等ナルコトヲ要ス但シ少額ノ債權ニ付別段ノ定ヲ爲シ其ノ他債權者間ニ差等ヲ設クルモ衡平ヲ害セザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ハ前項ノ條件ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ要ス
第四百四十九條 協定案ノ作成ニ當リ必要アリト認ムルトキハ清算人ハ第四百三十九條第四項ノ債權者ノ參加ヲ求ム

場合ニ之ヲ準用ス
破産ノ場合ニ於テ別除權ヲ行使スルコトヲ得ベキ債權者ガ其ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコトヲ得ベキ債權額ハ第二項ノ債權額ニ之ヲ算入セズ
第四百四十條 前條第四項ノ債權者ハ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコトヲ得ベキ債權額ニ付テハ債權者集會ニ於テ議決權ヲ行使スルコトヲ得ズ
債權者集會ノ召集ハ前項ノ債權者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス
債權者集會又ハ其ノ召集者ハ第一項ノ債權者ノ出席ヲ求メテ其ノ意見ヲ徵スルコトヲ得
第四百四十一條 債權者集會ニ於テ議決權ヲ行使セシムベキヤ否ヤ及如何ナル金額ニ付之ヲ行使セシムベキヤハ各債權者ニ付清算人之ヲ定ム
前項ノ定ニ付異議アルトキハ裁判所之ヲ定ム
第四百四十二條 第二百三十二條第一項第二項、第二百三十九條第三項、第二百四十三條、第二百四十四條、第三百二十一條第二項及破産法第七十九條ノ規定ハ債權者集會ニ之ヲ準用ス
第二百三十二條第一項及第二項ノ規定

ハ第四百四十條第二項ノ通知ニ之ヲ準用ス
第四百四十三條 清算人ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ノ調査書、財産目錄並ニ貸借對照表ヲ債權者集會ニ提出シ且清算ノ實行ノ方針及見込ニ關シ意見ヲ述ブルコトヲ要ス
第四百四十四條 債權者集會ハ監査委員ヲ選任スルコトヲ得
監査委員ハ何時ニテモ債權者集會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得
前二項ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス
第二百五十五條、第三百九十條第一項及第四百三條第二項ノ規定ハ監査委員ニ之ヲ準用ス
第四百四十五條 清算人左ノ行爲ヲ爲スニハ監査委員ノ同意、若シ監査委員ナキトキハ債權者集會ノ決議アルコトヲ要ス但シ三千圓以上ノ債權ヲ有スルモノニ關セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ
一 會社財産ノ處分
二 借財
三 訴ノ提起
四 和解及仲裁契約
五 權利ノ拋棄

債權者集會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テ急迫ナル事情アルトキハ清算人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ前項ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ得
清算人前二項ノ規定ニ違反シタルトキト雖モ會社ハ善意ノ第三者ニ對シテ其ノ責ニ任ズ
第四百四十五條ノ規定ハ特別清算ノ場合ニハ之ヲ適用セズ
第四百四十六條 清算人ハ競賣ニ依リテ財産ヲ換價スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ適用セズ
第四百四十七條 清算人ハ監査委員ノ意見ヲ聽キ債權者集會ニ對シテ協定ノ申出ヲ爲スコトヲ得
第四百四十八條 協定ノ條件ハ各債權者ノ間ニ平等ナルコトヲ要ス但シ少額ノ債權ニ付別段ノ定ヲ爲シ其ノ他債權者間ニ差等ヲ設クルモ衡平ヲ害セザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ハ前項ノ條件ヲ定ムルニ付之ヲ斟酌スルコトヲ要ス
第四百四十九條 協定案ノ作成ニ當リ必要アリト認ムルトキハ清算人ハ第四百三十九條第四項ノ債權者ノ參加ヲ求ム

ルコトヲ得
第四百五十條 協定ヲ可決スルニハ議決權ヲ行使スルコトヲ得ベキ出席債權者ノ過半数ニシテ議決權ヲ行使スルコトヲ得ベキ債權者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル債權ヲ有スルモノノ同意アルコトヲ要ス
前項ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス
破産法第三百二十一條及第三百二十六條ノ規定ハ協定ニ之ヲ準用ス
第四百五十一條 協定ノ實行上必要アルトキハ協定ノ條件ヲ變更スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前四條ノ規定ヲ準用ス
第四百五十二條 會社財産ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ清算人、監査役、監査委員、三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主若ハ申出ラ爲シタル債權者其ノ他會社ニ知レタル債權者ノ總債權ノ十分ノ一以上ニ當ル債權ヲ有スル者ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ業務及財産ノ検査ヲ命ズルコトヲ得
第三百八十八條、第三百九十條及第四百三十九條第四項ノ規定ハ前項ノ場合

協定ヲ可決スルニハ議決權ヲ行使スルコトヲ得ベキ出席債權者ノ過半数ニシテ議決權ヲ行使スルコトヲ得ベキ債權者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル債權ヲ有スルモノノ同意アルコトヲ要ス
前項ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス
破産法第三百二十一條及第三百二十六條ノ規定ハ協定ニ之ヲ準用ス
第四百五十一條 協定ノ實行上必要アルトキハ協定ノ條件ヲ變更スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前四條ノ規定ヲ準用ス
第四百五十二條 會社財産ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ清算人、監査役、監査委員、三月前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主若ハ申出ラ爲シタル債權者其ノ他會社ニ知レタル債權者ノ總債權ノ十分ノ一以上ニ當ル債權ヲ有スル者ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ會社ノ業務及財産ノ検査ヲ命ズルコトヲ得
第三百八十八條、第三百九十條及第四百三十九條第四項ノ規定ハ前項ノ場合

ニ之ヲ準用ス
第四百五十三條 検査役ハ調査ノ結果
ニ左ノ事項ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ
要ス

一 發起人、取締役、監査役又ハ清算
人ニ第百九十二條、第百九十三條、
第二百六十六條、第二百八十條、第
三百五十六條又ハ第四百三十條第二
項ノ規定ニ依リテ責任ズベキ事實
アルヤ否ヤ

二 會社財産ノ保全處分ヲ爲ス必要ア
ルヤ否ヤ

三 會社ノ損害賠償請求權ニ付發起人
取締役、監査役又ハ清算人ノ財産ニ
對シ保全處分ヲ爲ス必要アルヤ否ヤ

第四百五十四條 前條ノ報告ヲ受ケタル
裁判所ハ於テ必要アリト認ムルトキハ裁
判所ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
一 會社財産ノ保全處分
二 株主ノ名義書換ノ禁止
三 發起人、取締役、監査役又ハ清算
人ノ責任ノ免除ノ禁止
四 發起人、取締役、監査役又ハ清算
人ノ責任ノ免除ノ取消但シ特別清算
ノ開始ヨリ一年前ニ爲シタル免除ニ
付テハ不正ノ目的ニ出デタルモノニ

限ル
五 發起人、取締役、監査役又ハ清算
人ノ責任ニ基ク損害賠償請求權ノ查
定

六 前條ノ損害賠償請求權ニ付發起人
取締役、監査役又ハ清算人ノ財産ニ
對シテ爲ス保全處分
第三百八十七條第二項ノ規定ハ前項第
一號又ハ第六號ノ處分アリタル場合ニ
之ヲ準用ス

第三百九十四條乃至第三百九十六條ノ
規定ハ第一項第五號ノ査定アリタル場
合ニ之ヲ準用ス

第四百五十五條 特別清算開始ノ命令ア
リタル場合ニ於テ協定ノ見込ナキトキ
ハ裁判所ハ職權ヲ以テ破産法ニ從ヒ破
産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス協定ノ實行
ノ見込ナキトキ亦同シ

第四百五十六條 第三百九十九條及第四
百條並ニ破産法第四百條、第二百三條
及第二百四條ノ規定ハ特別清算ノ場合
ニ之ヲ準用ス
破産法第六十五條及第六十六條ノ
規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

第五章 株式合資會社

第四百五十七條 株式合資會社ハ無限責
任社員ト株主トヲ以テ之ヲ組織ス
第四百五十八條 左ノ事項ニ付テハ合資
會社ニ關スル規定ヲ準用ス

一 無限責任社員相互間ノ關係
二 無限責任社員ト會社、株主及第三
者トノ關係

三 無限責任社員ノ退社
此ノ他株式合資會社ニハ本章ニ別段ノ
定アル場合ヲ除ク外株式會社ニ關ス
ル規定ヲ準用ス

第四百五十九條 無限責任社員ハ發起人
ト爲リテ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記
載シテ署名スルコトヲ要ス

一 第百六十六條第一項第一號、第二
號及第四百號乃至第六號ニ掲グル事項
二 株金ノ總額
三 無限責任社員ノ氏名及住所
四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ
目的及其ノ價格又ハ評價ノ標準

第四百六十條 無限責任社員ハ株主ヲ募
集スルコトヲ要ス
株式申込證ニハ左ノ事項ヲ記載スルコ
トヲ要ス
一 第百六十八條第一項、第百七十五
條第二項第一號第五號乃至第七號及

前條ニ掲グル事項

二 無限責任社員ガ株式ヲ引受ケタル
トキハ其ノ各自ガ引受ケタル株式ノ
種類及數

第四百六十一條 創立總會ニ於テハ監査
役ヲ選任スルコトヲ要ス
無限責任社員ハ監査役ト爲ルコトヲ得
ズ

第四百六十二條 無限責任社員ハ創立總
會ニ出席シテ其ノ意見ヲ述ブルコトヲ
得但シ株式ヲ引受ケタルトキト雖モ議
決權ヲ有セズ

第四百六十三條 監査役ハ第百八十四條
第一項及第四百五十九條第四號ニ掲グ
ル事項並ニ第百八十一條第二項ノ報告
書ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコ
トヲ要ス

第四百六十四條 創立總會ガ定款ノ變更
ヲ決議シタル場合ニ於テ其ノ決議ノ日
ヨリ一週間内ニ無限責任社員ノ一致ナ
キトキハ設立ノ廢止ヲ決議シタルモノ
ト看做ス

第四百六十五條 株式合資會社ノ設立ノ
登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコ
トヲ要ス

第四百六十六條 會社ヲ代表スベキ無限
責任社員ニハ株式會社ノ取締役ニ關ス
ル規定ヲ準用ス但シ第二百五十四條乃
至第二百五十九條、第二百六十四條及
第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ
規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第四百六十七條 株式會社ニ於テ第三百
四十三條ニ定ムル決議ヲ要スル事項又
ハ合資會社ニ於テ總社員ノ同意ヲ要ス
ル事項ニ付テハ株主總會ノ決議ノ外無

一 第百六十六條第一項第一號第二號
第四百號第六號及第百八十八條第二項
第二號乃至第八號ニ掲グル事項
二 株金ノ總額
三 無限責任社員ノ氏名及住所
四 監査役ノ氏名及住所
五 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ
目的、財産ヲ目的トスル出資ニ付テ
ハ其ノ價格及履行ヲ爲シタル部分
六 無限責任社員ニシテ會社ヲ代表セ
ザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ
者ノ氏名

七 數人ノ無限責任社員ガ共同シ又ハ
無限責任社員ガ支那人ト共同シテ會
社ヲ代表スベキコトヲ定メタルトキ
ハ其ノ規定

第四百六十八條 會社ヲ代表スベキ無限
責任社員ニハ株式會社ノ取締役ニ關ス
ル規定ヲ準用ス但シ第二百五十四條乃
至第二百五十九條、第二百六十四條及
第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ
規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第四百六十九條 株式合資會社ハ合資會
社ト同一ノ事由ニ因リテ解散ス營業全
部ノ讓渡アリタルトキ亦同シ

第四百七十條 無限責任社員ノ全員ガ退
社シタル場合ニ於テハ株主ハ第三百四
十三條ニ定ムル決議ニ依リ株式會社ト
シテ會社ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合
ニ於テハ株式會社ノ組織ニ必要ナル事
項ヲ決議スルコトヲ要ス

第四百七十一條 無限責任社員ガ株式ノ
全部ヲ取得シタル場合ニ於テハ其ノ一
致ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續ス
ルコトヲ得株式全部ノ消却アリタル場
合亦同シ

前條 二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ
準用ス

第四百七十二條 無限責任社員ガ株式ノ
全部ヲ取得シタル場合ニ於テハ其ノ一
致ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續ス
ルコトヲ得株式全部ノ消却アリタル場
合亦同シ

前條 二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ
準用ス

第四百七十二條 會社が解散シタルトキハ合併、破産又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ヲ除クノ外清算ハ業務執行社員ノ全員又ハ無限責任社員ノ選任シタル者及株主總會ニ於テ選任シタル者之ヲ爲ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

無限責任社員ガ清算人ヲ選任スルトキハ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

株主總會ニ於テ選任スル清算人ハ業務執行社員ノ全員又ハ無限責任社員ノ選任スル者ト同數ナルコトヲ要ス

第四百七十三條 無限責任社員ハ何時ニテモ其ノ選任シタル清算人ヲ解任スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ清算人ノ解任ニ之ヲ準用ス

第四百七十四條 第四百四十四條ノ規定ハ株式合資會社ノ無限責任社員ニ之ヲ準用ス

第四百七十五條 清算人ハ第四百十九條第四百二十條及第四百二十七條ニ定ムル計算ニ付株主總會ノ承認ノ外無限責任社員全員ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第四百七十六條 株式合資會社ハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ其ノ組織ヲ變更

シテ之ヲ株式會社ト爲スコトヲ得

第四百七十七條 前條ノ場合ニ於テハ株主總會ハ直ニ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス此ノ總會ニ於テハ無限責任社員モ亦其ノ引受クベキ株式ノ數ニ應ジテ議決權ヲ行使スルコトヲ得

第四百四條及第一百五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十八條 第四章第七節及第九節第二款ノ規定ハ株式合資會社ニハ之ヲ適用セズ

第六章 外國會社

第四百七十九條 外國會社ガ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ日本ニ成立スル同種ノモノ又ハ最モ之ニ類似スルモノト同一ノ登記及公告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ外國會社ハ其ノ日本ニ於ケル代表者ヲ定メ且支店設置ノ登記ト同時ニ其ノ氏名及住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第七十八條ノ規定ハ外國會社ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第四百八十條 前條第一項及第二項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ガ外國ニ於テ生ジタルトキハ登記ノ期間ハ其ノ通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第四百八十一條 外國會社ガ始メテ日本ニ支店ヲ設ケタルトキハ其ノ支店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲ス迄ハ第三者ハ其ノ會社ノ成立ヲ否認スルコトヲ得

第四百八十二條 日本ニ本店ヲ設ケ又ハ日本ニ於テ營業ヲ爲スヲ以テ主タル目的トスル會社ハ外國ニ於テ設立スルモノト雖モ日本ニ於テ設立スル會社ト同一ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第四百八十三條 第二百四條乃至第二百七條、第二百九條第一項、第二百二十六條、第二百二十七條第一項、第三百六條第一項、第三百七條、第三百八條及第三百七十七條第三項ノ規定ハ日本ニ於テスル外國會社ノ株券又ハ借券ノ發行及其ノ株式ノ移轉若ハ質入又ハ社債ノ移轉ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ始メテ日本ニ設ケタル支店ヲ以テ本店ト看做ス

第四百八十四條 外國會社ガ日本ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ支店設置ノ登記ヲ爲シタル後一年內ニ營業ヲ開始セズ若ハ一年以上營業ヲ休止シタルトキ又ハ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所ハ利害關係人若ハ檢事ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ支店

ノ閉鎖ヲ命ズルコトヲ得

外國會社ノ代表者其ノ他支店ニ於テ業務ヲ執行スル者ガ法令又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ

第五十八條第三項、第五十九條及第六十條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百八十五條 前條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ日本ニ在ル會社財産ノ全部ニ付清算ノ開始ヲ命ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ清算人ハ裁判所之ヲ選任ス

第四百二十一條乃至第四百二十四條及第四百三十條乃至第四百五十六條ノ規定ハ其ノ性質ノ許サザルモノヲ除クノ外前項ノ清算ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ外國會社ガ其ノ支店ヲ閉鎖シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七章 罰則

第四百八十六條 發起人、取締役、株式合資會社ノ業務ヲ執行スル無限責任社員、監査役又ハ株式會社若ハ株式合資會社ノ第二百三十八條第二項、第二百七十條第一項、第二百七十二條第一項

若ハ第二百八十條ノ職務代行者若ハ支配人其ノ他營業ニ關スル或種類若ハ特定ノ事項ノ委任ヲ受ケタル使用人自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ會社ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ會社ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百八十七條 社債權者集會ノ代表者又ハ其ノ決議ヲ執行スル者自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ社債權者ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ社債權者ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百八十八條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四百八十九條 第四百八十六條第一項ニ掲グル者又ハ檢査役ハ左ノ場合ニ於テハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 會社ノ設立又ハ資本増加ノ場合ニ於テ株式總數ノ引受、株金ノ拂込若

ハ現物出資ノ給付ニ付又ハ第六十八條第一項第四號乃至第七號若ハ第三百四十八條第二號第三號ニ掲グル事項ニ付裁判所又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ會社ノ計算ニ於テ不正ニ其ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

三 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益又ハ利息ノ配當ヲ爲シタルトキ

四 會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲ニ會社財産ヲ處分シタルトキ

第四百九十條 第四百八十六條第一項ニ掲グル者、外國會社ノ代表者又ハ株式會社若ハ社債ノ募集ノ委託ヲ受ケタル者株式又ハ社債ノ募集ニ當リ重要ナル事項ニ付不實ノ記載アル株式申込證、社債申込證、自論見書、株式又ハ社債ノ募集ノ廣告其ノ他株式又ハ社債ノ募集ニ關スル文書ヲ行使シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

株式又ハ社債ノ賣出ヲ爲ス者其ノ賣出ニ關スル文書ニシテ重要ナル事項ニ付不實ノ記載アルモノヲ行使シタルトキ

亦前項ニ同ジ
 第四百九十一條 第四百八十六條第一項ニ掲グル者株金ノ拂込ヲ假裝スル爲メ預合ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス預合ニ應ジタル者亦同ジ
 第四百九十二條 前六條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得
 第四百九十三條 第四百八十六條若ハ第四百八十七條ニ掲グル者、検査役又ハ監査委員其ノ職務ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ
 第四百九十四條 左ニ掲グル事項ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 創立總會、株主總會、社債權者集會又ハ債權者集會ニ於ケル發言又ハ議決權ノ行使
 二 第四章及第五章ニ定ムル訴ノ提起又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主

若ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者ノ權利ノ行使
 三 第三百八十一條第一項、第四百三十一條第一項、第四百三十九條第二項第三項及第四百五十二條第一項ニ定ムル權利ノ行使
 前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ
 第四百九十五條 第四百九十三條第一項又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ犯人ノ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
 第四百九十六條 第四百九十三條第二項又ハ第四百九十四條第二項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
 第四百九十七條 株金拂込ノ責任ヲ免ルル目的ヲ以テ他人又ハ假設人ノ名義ヲ用ヒテ株式ヲ引受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四百九十八條 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役、検査役、清算人、整理委員、監督員、第三百九十八條第一項

ノ管理人、監査委員、社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、其ノ事務ノ承繼者、社債權者集會ノ代表者、其ノ決議ヲ執行スル者又ハ株式會社若ハ株式合資會社ノ第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項、第二百七十二條第一項、第二百八十條若ハ第四百三十條第二項ノ職務代行者若ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ五千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ
 一 本編ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 二 本編ニ定ムル公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ
 三 本編ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ書類ノ閲覧又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ拒ミタルトキ
 四 本編ニ定ムル検査又ハ調査ヲ妨ゲタルトキ
 五 官廳、總會、社債權者集會又ハ債權者集會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
 六 第九十九條、第一百條、第一百七條第三項、第三百七十六條第二項又ハ

第四百十六條第一項ノ規定ニ違反シテ合併、會社財産ノ處分又ハ資本ノ減少ヲ爲シタルトキ
 七 第二百二十四條第三項若ハ第四百三十條第一項ノ規定ニ違反シテ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ第四百三十一條第二項ノ規定ニ違反シテ特別清算開始ノ申立ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 八 第三百三十一條又ハ第四百三十條第一項ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ分配シタルトキ
 九 第七十五條第二項、第三百一一條第二項、第三百五十條、第三百六十條第一項、第三百六十六條第一項又ハ第四百六十條第二項ノ規定ニ違反シテ株式申込證又ハ社債申込證ヲ作ラズ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ
 十 第九十條第二項又ハ第三百七十條第二項ノ規定ニ違反シテ株式ノ引受ニ因ル權利ノ讓渡ヲ爲シタルトキ
 十一 正當ノ事由ナクシテ株券ノ名義書換ヲ爲サザルトキ
 十二 第二百一十一條ノ規定ニ違反シテ株式失効ノ手續又ハ株式若ハ質權ノ

處分ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 十三 第二百二十二條第一項ノ規定ニ違反シテ株式ノ消却ヲ爲シタルトキ
 十四 株券又ハ債券ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ
 十五 第二百二十六條第一項、第三百七十條第三項又ハ第四百八十三條ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタルトキ
 十六 第二百二十七條第一項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ無記名式ト爲シタルトキ 削除
 十七 第二百三十四條ノ規定又ハ第二百九十四條第三項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シテ株主總會ヲ召集セズ又ハ定款ニ定メタル地以外ノ地ニ於テ若ハ第二百三十三條ノ規定ニ違反シテ株主總會ヲ召集シタルトキ
 十八 法律又ハ定款ニ定メタル取締役又ハ監査役ノ員數ヲ缺クニ至リタル場合ニ於テ其ノ選任手續ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 十九 定款、株主名簿、社債原簿、議事錄、財産目錄、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書、

準備金及利益若ハ利息ノ配當ニ關スル議案、株主表、決算報告書、第三十二條第一項ノ帳簿又ハ第四百四十三條ノ調査書ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ
 二十 第二百六十三條第一項、第二百八十二條第一項、第三百三十九條第二項又ハ第四百三十條第二項ノ規定ニ違反シテ帳簿又ハ書類ヲ備置カザルトキ
 二十一 第二百八十八條又ハ第二百八十九條ノ規定ニ違反シテ準備金ヲ積立テズ又ハ之ヲ使用シタルトキ
 二十二 第二百九十七條ノ規定ニ違反シテ社債ヲ募集シ又ハ舊社債ノ償還ヲ爲サザルトキ
 二十三 第三百六條第一項又ハ第四百八十三條ノ規定ニ違反シテ債券ヲ發行シタルトキ
 二十四 第三百八十六條、第四百三十三條、第四百三十七條又ハ第四百五十四條第一項ノ規定ニ依ル裁判所ノ財産保全ノ處分ニ違反シタルトキ
 二十五 裁判所ノ選任シタル管理人又ハ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲サザルト

二十六 清算ノ終了ヲ遅延セシムル目
的ヲ以テ第一百七條第三項又ハ第四
百二十一條第一項ノ期間ヲ不當ニ定
メタルトキ

二十七 第四百二十三條又ハ第四百三
十八條ノ規定ニ違反シテ債務ノ辨濟
ヲ爲シタルトキ

二十八 第四百四十五條第一項又ハ第
二項ノ規定ニ違反シタルトキ

二十九 第四百八十四條第一項又ハ第
二項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違
反シタルトキ

第四百九十九條 第四百八十六條、第四
百八十七條、第四百八十九條乃至第四
百九十一條又ハ第四百九十三條第一項
ニ掲グル者ガ法人ナルトキハ本章ノ罰
則ハ其ノ行爲ヲ爲シタル取締役其ノ他
業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ニ之ヲ
適用ス

第五百條 第五十六條第三項ノ設立委員
ハ本章ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ發起
人ト看做ス

第三編 商行為

第一章 總則

第五百一條 左ニ掲ケタル行爲ハ之ヲ商

行爲トス

一 利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル
動産、不動産若クハ有價證券ノ有價
取得又ハ其取得シタルモノノ讓渡ヲ
目的トスル行爲

二 他人ヨリ取得スヘキ動産又ハ有價
證券ノ供給契約及ヒ其履行ノ爲メニ
スル有價取得ヲ目的トスル行爲

三 取引所ニ於テスル取引

四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行爲

第五百二條 左ニ掲ケタル行爲ハ營業ト
シテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス但
專ラ賃金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ
又ハ勞務ニ服スル者ノ行爲ハ此限ニ在
ラス

一 賃貸スル意思ヲ以テスル動産若ク
ハ不動産ノ有價取得若クハ賃借又ハ
其取得若クハ賃借シタルモノノ賃貸
ヲ目的トスル行爲

二 他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ
關スル行爲

三 電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲

四 運送ニ關スル行爲

五 作業又ハ勞務ノ請負

六 出版、印刷又ハ撮影ニ關スル行爲

七 客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引

八 兩替其他ノ銀行取引

九 保險

十 寄託ノ引受

十一 仲立又ハ取次ニ關スル行爲

十二 商行爲ノ代理ノ引受

第五百三條 商人カ其營業ノ爲メニスル
行爲ハ之ヲ商行爲トス
商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノ
ト推定ス

第五百四條 商行爲ノ代理人カ本人ノ爲
メニスルコトヲ示ササルトキト雖モ其
行爲ハ本人ニ對シテ其效力ヲ生ス但相
手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラサ
リシトキハ代理人ニ對シテ履行ノ請求
ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百五條 商行爲ノ受任者ハ委任ノ本
旨ニ反セサル範圍内ニ於テ委任ヲ受ケ
サル行爲ヲ爲スコトヲ得

第五百六條 商行爲ノ委任ニ因ル代理權
ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セス

第五百七條 對話者間ニ於テ契約ノ申込
ヲ受ケタル者カ直チニ承諾ヲ爲ササル
トキハ申込ハ其效力ヲ失フ

第五百八條 隔地者間ニ於テ承諾期間ノ
定ナクシテ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ
相當ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ發セサル

トキハ申込ハ其效力ヲ失フ
民法第五百二十三條ノ規定ハ前項ノ場
合ニ之ヲ準用ス

第五百九條 商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨ
リ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ
受ケタルトキハ遲滞ナク諾否ノ通知ヲ
發スルコトヲ要ス若シ之ヲ發スルコト
ヲ怠リタルトキハ申込ヲ承諾シタルモ
ノト看做ス

第五百十條 商人カ其營業ノ部類ニ屬ス
ル契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申
込ト共ニ受取リタル物品アルトキハ其
申込ヲ拒絕シタルトキト雖モ申込者ノ
費用ヲ以テ其物品ヲ保管スルコトヲ要
ス但其他物品ノ價額カ其費用ヲ償フニ足
ラサルトキ又ハ商人カ其保管ニ因リテ
損害ヲ受クヘキトキハ此限ニ在ラス

第五百十一條 數人カ其一人又ハ全員ノ
爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ債務ヲ
負擔シタルトキハ其債務ハ各自連帶シ
テ之ヲ負擔ス

保證人アル場合ニ於テ債務カ主タル債
務者ノ商行爲ニ因リテ生シタルトキ又
ハ保證カ商行爲ナルトキハ主タル債務
者及ヒ保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務
ヲ負擔シタルトキト雖モ其債務ハ各自

連帶シテ之ヲ負擔ス

第五百十二條 商人カ其營業ノ範圍内ニ
於テ他人ノ爲メニ或行爲ヲ爲シタルト
キハ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第五百十三條 商人間ニ於テ金錢ノ消費
貸借ヲ爲シタルトキハ貸主ハ法定利息
ヲ請求スルコトヲ得

商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲
メニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其立
替ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコト
ヲ得

第五百十四條 商行爲ニ因リテ生シタル
債務ニ關シテハ法定利率ハ年六分トス

第五百十五條 民法第三百四十九條ノ規
定ハ商行爲ニ因リテ生シタル債權ヲ擔
保スル爲メニ設定シタル質權ニハ之ヲ
適用セス

第五百十六條 商行爲ニ因リテ生シタル
債務ノ履行ヲ爲スヘキ場所カ其行爲ノ
性質又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ定
マラサルトキハ特定物ノ引渡ハ行爲ノ
當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲
シ其他ノ履行ハ債權者ノ現時ノ營業所
若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之
ヲ爲スコトヲ要ス

指圖債權及ヒ無記名債權ノ辨濟ハ債務

者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキト
キハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ其支
店ヲ以テ營業所ト看做ス

第五百十七條 指圖債權又ハ無記名債權
ノ債務者ハ其履行ニ付キ期限ノ定アル
トキト雖モ其期限カ到來シタル後所持
人カ其證券ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲
シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

第五百十八條 金錢其他ノ物又ハ有價證
券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ノ所持
人カ其證券ヲ喪失シタル場合ニ於テ公
示催告ノ申立ヲ爲シタルトキハ債務者
ヲシテ其債務ノ目的物ヲ供託セシメ又
ハ相當ノ擔保ヲ供シテ其證券ノ題旨ニ
從ヒ履行ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百十九條 手形法第十二條乃至第十
四條第二項並ニ小切手法第五條第二項
第十九條及ヒ第二十一條ノ規定ハ金錢
其他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的ト
スル有價證券ニ之ヲ準用ス

第五百二十條 法令又ハ慣習ニ依リ取引
時間ノ定アルトキハ其取引時間内ニ限
リ債務ノ履行ヲ爲シ又ハ其履行ノ請求
ヲ爲スコトヲ得

第五百二十一條 商人間ニ於テ其雙方ノ

爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權カ辨濟期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受クルマテ其債務者トノ間ニ於ケル商行爲ニ因リテ自己ノ占有ニ歸シタル債務者所有ノ物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百二十二條 商行爲ニ因リテ生シタル債權ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス但他ノ法令ニ之ヨリ短キ時効期間ノ定アルトキハ其規定ニ從フ

第五百二十三條 第五十二條第二項ニ定メタル會社ノ行爲ニハ商行爲ニ關スル規定ヲ準用ス

第二章 賣 買

第五百二十四條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

損敗シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ之ヲ競賣スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス

第五百二十五條 賣買ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ直チニ其履行ヲ請求スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百二十六條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク之ヲ検査シ若シ之ニ瑕疵アルコト又ハ其數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルニ非サレハ其瑕疵又ハ不足ニ因リテ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得賣買ノ目的物ニ直チニ發見スルコト能ハサル瑕疵アリタル場合ニ於テ買主カ六個月内ニ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ賣主ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五百二十七條 前條ノ場合ニ於テ買主

ハ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ賣主ノ費用ヲ以テ賣買ノ目的物ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス但其物ニ付キ減失又ハ毀損ノ虞アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ買主カ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ賣主及ビ買主ノ營業所若シ營業所ナキトキハ其住所カ同市町村内ニ在ル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五百二十八條 前條ノ規定ハ賣主ヨリ買主ニ引渡シタル物品カ注文シタル物品ト異ナリタル場合ニ之ヲ準用ス其物品カ注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ於テ其超過額ニ付キ亦同シ

第三章 交互計算

第五百二十九條 交互計算ハ商人間又ハ商人ト商人ニ非サル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百三十條 手形其他ノ商業證券ヨリ生シタル債權債務ヲ交互計算ニ組入レ

タル場合ニ於テ證券ノ債務者カ辨濟ヲ爲サザリシトキハ當事者ハ其債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得

第五百三十一條 當事者カ相殺ヲ爲スヘキ期間ヲ定メザリシトキハ其期間ハ之ヲ六個月トス

第五百三十二條 當事者カ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ承認ヲ爲シタルトキハ其各項目ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得但錯誤又ハ脱漏アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百三十三條 相殺ニ因リテ生シタル殘額ニ付テハ債權者ハ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ各項目ヲ交互計算ニ組入レタル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ケス

第五百三十四條 各當事者ハ何時ニテモ交互計算ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ計算ヲ閉鎖シテ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第四章 匿名組合

第五百三十五條 匿名組合契約ハ當事者ノ一方カ相手方ノ營業ヲ爲メニ出資ヲ爲シ其營業ヨリ生スル利益ヲ分配スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百三十六條 匿名組合員ノ出資ハ營業者ノ財產ニ歸ス

匿名組合員ハ營業者ノ行爲ニ付キ第三者ニ對シテ權利義務ヲ有セズ

第五百三十七條 匿名組合員カ其氏若クハ氏名ヲ營業者ノ商號中ニ用キ又ハ其商號ヲ營業者ノ商號トシテ用ユルコトヲ許諾シタルトキハ其使用以後ニ生シタル債務ニ付テハ營業者ト連帶シテ其責ニ任ス

第五百三十八條 出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其填補ノ後ニ非サレハ匿名組合員ハ利益ノ配當ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百三十九條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メザリシトキ又ハ或當事者ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各當事者ハ營業年度ノ終ニ於テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但六個月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

組合ノ存續期間ヲ定メタルトキハ問ハス己ムコトヲ得サレ事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十條 前條ニ掲ケタル場合ノ外

組合契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 組合ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

二 營業者ノ死亡又ハ禁治産

三 營業者又ハ匿名組合員ノ破産

第五百四十一條 組合契約カ終了シタルトキハ營業者ハ匿名組合員ニ其出資ノ價額ヲ返還スルコトヲ要ス但出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ其殘額ヲ返還スルヲ以テ足ル

第五百四十二條 第五百五十條、第五百五十三條及ヒ第五百五十六條ノ規定ハ匿名組合員ニ之ヲ準用ス

第五章 仲立營業

第五百四十三條 仲立人トハ他人間ノ商行爲ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五百四十四條 仲立人ハ其媒介シタル行爲ニ付キ當事者ノ爲メニ支拂其他ノ給付ヲ受クルコトヲ得ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第五百四十五條 仲立人カ其媒介スル行爲ニ付キ見本ヲ受取リタルトキハ其行爲カ完了スルマテ之ヲ保管スルコトヲ要ス

第五百四十六條 當事者間ニ於テ行爲カ成立シタルトキハ仲立人ハ遲滞ナク各

爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權カ辨濟期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受クルマテ其債務者トノ間ニ於ケル商行爲ニ因リテ自己ノ占有ニ歸シタル債務者所有ノ物又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス

第五百二十二條 商行爲ニ因リテ生シタル債權ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス但他ノ法令ニ之ヨリ短キ時効期間ノ定アルトキハ其規定ニ從フ

第五百二十三條 第五十二條第二項ニ定メタル會社ノ行爲ニハ商行爲ニ關スル規定ヲ準用ス

當事者ノ氏名又ハ商號、行爲ノ年月日及ヒ其要領ヲ記載シタル書面ヲ作リ署名ノ後之ヲ各當事者ニ交付スルコトヲ要ス

當事者カ直チニ履行ヲ爲スヘキ場合ヲ除ク外仲立人ハ各當事者ヲシテ前項ノ書面ニ署名セシメタル後之ヲ其相手方ニ交付スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ書面ヲ受領セシメタルニ署名セサルトキハ仲立人ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第五百四十七條 仲立人ハ其帳簿ニ前條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

當事者ハ何時ニテモ仲立人カ自己ノ爲メニ媒介シタル行爲ニ付キ其帳簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五百四十八條 當事者カ其氏名又ハ商號ヲ相手方ニ示ササルヘキ旨ヲ仲立人ニ命シタルトキハ仲立人ハ第五百四十六條ノ書面及ヒ前條第二項ノ謄本ニ其氏名又ハ商號ヲ記載スルコトヲ得

第五百四十九條 仲立人カ當事者ノ一方ノ氏名又ハ商號ヲ其相手方ニ示ササルシトキハ之ニ對シテ自ら履行ヲ爲ス責

第五百六十條 運送取扱人ハ自己又ハ其使用人カ運送品ノ受取、引渡、保管、運送人又ハ他ノ運送取扱人ノ選擇其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第五百六十一條 運送取扱人カ運送品ヲ運送人ニ引渡シタルトキハ直チニ其報酬ヲ請求スルコトヲ得

運送取扱契約ヲ以テ運送貨ノ額ヲ定メタルトキハ運送取扱人ハ特約アルニ非サレハ別ニ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第五百六十二條 運送取扱人ハ運送品ニ關シ受取ルヘキ報酬、運送貨其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第五百六十三條 數人相次テ運送ノ取次ヲ爲ス場合ニ於テハ後者ハ前者ニ代ハリテ其權利ヲ行使スル義務ヲ負フ

前項ノ場合ニ於テ後者カ前者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス

第五百六十四條 運送取扱人カ運送人ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ運送人ノ權利ヲ取得ス

第五百六十五條 運送取扱人ハ特約ナキ

ニ任ス
第五百五十條 仲立人ハ第五百四十六條ノ手續ヲ終ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得

仲立人ノ報酬ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス

第六章 問屋營業
第五百五十一條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五百五十二條 問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ因リ相手方ニ對シテ自ら權利ヲ得義務ヲ負フ

問屋ト委託者トノ間ニ於テハ本章ノ規定ノ外委任及ヒ代理ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百五十三條 問屋ハ委託者ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ付キ相手方カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ自ら其履行ヲ爲ス責ニ任ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此限ニ在ラス

第五百五十四條 問屋カ委託者ノ指定シタル金額ヨリ廉價ニテ販賣ヲ爲シ又ハ高價ニテ買入ヲ爲シタル場合ニ於テ自ラ其差額ヲ負擔スルトキハ其販賣又ハ買入ハ委託者ニ對シテ其效力ヲ生ス

トキハ自ら運送ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ運送取扱人ハ運送人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

運送取扱人カ委託者ノ請求ニ因リテ貨物引換證ヲ作りタルトキハ自ら運送ヲ爲スモノト看做ス

第五百六十六條 運送取扱人ノ責任ハ荷受人カ運送品ヲ受取リタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ其引渡アルヘカリシ日ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ運送取扱人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五百六十七條 運送取扱人ノ委託者又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第五百六十八條 第五百七十八條及ヒ第五百八十三條ノ規定ハ運送取扱營業ニ之ヲ準用ス

第八章 運送營業
第五百六十九條 運送人トハ陸上又ハ湖川、港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五百七十條 運送人ハ運送人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

運送人ハ運送人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

運送人ハ運送人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

第五百五十五條 問屋カ取引所ノ相場アル物品ノ販賣又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキハ自ら買主又ハ賣主ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ賣主ノ代價ハ問屋カ買主又ハ賣主ト爲リタルコトノ通知ヲ發シタル時ニ於ケル取引所ノ相場ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テモ問屋ハ委託者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第五百五十六條 問屋カ買入ノ委託ヲ受ケタル場合ニ於テ委託者カ買入レタル物品ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ第五百二十四條ノ規定ヲ準用ス

第五百五十七條 第四十七條及ヒ第五十一條ノ規定ハ問屋ニ之ヲ準用ス

第五百五十八條 本章ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ販賣又ハ買入ニ非サル行爲ヲ爲スヲ業トスル者ニ之ヲ準用ス

第七章 運送取扱營業
第五百五十九條 運送取扱人トハ自己ノ名ヲ以テ物品運送ノ取次ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

運送取扱人ハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外問屋ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百七十條 荷送人ハ運送人ノ請求ニ因リ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

運送狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ荷送人ノ署名スルコトヲ要ス

一 運送品ノ種類、重量又ハ容積及ヒ其荷造ノ種類、個數並ニ記號

二 到達地

三 荷受人ノ氏名又ハ商號

四 運送狀ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第五百七十一條 運送人ハ荷送人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ記載シ運送人之ニ署名スルコトヲ要ス

一 前條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項

二 荷送人ノ氏名又ハ商號

三 運送貨

四 貨物引換證ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第五百七十二條 貨物引換證ヲ作リタルトキハ運送ニ關スル事項ハ運送人ト所持人トノ間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル

第五百七十三條 貨物引換證ヲ作りタル

トキハ運送品ニ關スル處分ハ貨物引換證ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五百七十四條 貨物引換證ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但貨物引換證ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十五條 貨物引換證ニ依リ運送品ヲ受取ルコトヲ得ヘキ者ニ貨物引換證ヲ引渡シタルトキハ其引渡ハ運送品ノ上ニ行使スル權利ノ取得ニ付キ運送品ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百七十六條 運送品ノ全部又ハ一部カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ其運送貨ヲ請求スルコトヲ得ス若シ運送人カ既ニ其運送貨ノ全部又ハ一部ヲ受取リタルトキハ之ヲ返還スルコトヲ要ス

第五百七十七條 運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ爲メ使用シタル者カ運送品ノ受取、引渡、保管及ヒ運送ニ關シ注意ヲ怠ラザリシ

コトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百七十八條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ荷送人カ運送ヲ委託スルニ當テ其種類及ヒ價額ヲ明告シタルニ非サレハ運送人ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第五百七十九條 數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ各運送人ハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任セス

第五百八十條 運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アルヘカリシ日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム

運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アリタル日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但延著ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

運送品ノ滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサル運送貨其他ノ費用ハ前二項ノ賠償額ヨリ之ヲ控除ス

第五百八十一條 運送品カ運送人ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ滅失、毀損

トキハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百八十二條 荷送人又ハ貨物引換證ノ所持人ハ運送人ニ對シ運送ノ中止、運送品ノ返還其他ノ處分ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應スル運送貨、立替金及ヒ其處分ニ依リテ生シタル費用ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第五百八十三條 運送品カ到達地ニ達シタル後ハ荷受人ハ運送契約ニ依リテ生シタル荷受人ノ權利ヲ取得ス

荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送人ニ對シ運送貨其他ノ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第五百八十四條 貨物引換證ヲ作リタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百八十五條 荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキハ運送人ハ運送品ヲ供託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運送人カ荷受人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ運送品ノ處分ニ付

又ハ延著シタルトキハ運送人ハ一切ノ損害賠償ノ責ニ任セス

第五百九十二條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨ

トキハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百九十三條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第五百九十四條 旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

客カ特ニ寄託セサル物品ト雖モ場屋中ニ携帶シタル物品カ場屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任セス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百九十五條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ客カ其種類及ヒ價額ヲ明告シテ之ヲ前條ノ場屋ノ主人ニ寄託

コトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百九十一條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ニ付テハ特ニ運送貨ヲ請求セサルトキト雖モ物品ノ運送人ト同一ノ責任ヲ負フ

手荷物カ到達地ニ達シタル日ヨリ一週間内ニ旅客カ其引渡ヲ請求セサルトキハ第五百二十四條ノ規定ヲ準用ス但住所又ハ居所ノ知レサル旅客ニハ催告及ヒ通知ヲ爲スコトヲ要セス

第五百九十二條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨ

トキハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五百九十三條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第五百九十四條 旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ受ケタル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

客カ特ニ寄託セサル物品ト雖モ場屋中ニ携帶シタル物品カ場屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任セス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百九十五條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ客カ其種類及ヒ價額ヲ明告シテ之ヲ前條ノ場屋ノ主人ニ寄託

コトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百九十六條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ客カ其種類及ヒ價額ヲ明告シテ之ヲ前條ノ場屋ノ主人ニ寄託

コトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第五百九十七條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ客カ其種類及ヒ價額ヲ明告シテ之ヲ前條ノ場屋ノ主人ニ寄託

コトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

シタルニ非サレハ其場屋ノ主人ハ其物
品ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損
害ヲ賠償スル責ニ任セス

第五百九十六條 前二條ノ責任ハ場屋ノ
主人カ寄託物ヲ返還シ又ハ客カ携帶品
ヲ持去リタル後一年ヲ經過シタルトキ
ハ時効ニ因リテ消滅ス
前項ノ期間ハ物品ノ全部滅失ノ場合ニ
於テハ客カ場屋ヲ去リタル時ヨリ之ヲ
起算ス

前二項ノ規定ハ場屋ノ主人ニ惡意アリ
タル場合ニハ之ヲ適用セス

第二節 倉庫營業

第五百九十七條 倉庫營業者トハ他人ノ
爲メニ物品ヲ倉庫ニ保管スルヲ業トス
ル者ヲ謂フ

第五百九十八條 倉庫營業者ハ寄託者ノ
請求ニ因リ寄託物ノ預證券及ヒ質入證
券ヲ交付スルコトヲ要ス

第五百九十九條 預證券及ヒ質入證券ニ
ハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ倉庫營業
者之ニ署名スルコトヲ要ス
一 受寄物ノ種類、品質、數量及ヒ其
荷造ノ種類、個數並ニ記號
二 寄託者ノ氏名又ハ商號
三 保管ノ場所

第六百八條 質入證券所持人ノ債權ノ辨
濟ハ倉庫營業者ノ營業所ニ於テ之ヲ爲
スコトヲ要ス

第六百九條 質入證券ノ所持人カ辨濟期
ニ至リ支拂ヲ受ケサルトキハ手形ニ關
スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシム
ルコトヲ要ス

第六百十條 質入證券ノ所持人ハ拒絕證
書作成ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタル後
ニ非サレハ寄託物ノ競賣ヲ請求スルコ
トヲ得ス

第六百十一條 倉庫營業者ハ競賣代金ノ
中ヨリ競賣ニ關スル費用、受寄物ニ關
スヘキ租稅、保管料其他保管ニ關スル
費用及ヒ立替金ヲ控除シタル後其殘額
ヲ質入證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フ
コトヲ要ス

競賣代金ノ内ヨリ前項ニ掲ケタル費用
租稅、保管料、立替金及ヒ質入證券所
持人ノ債權額、利息、拒絕證書作成ノ
費用ヲ控除シタル後餘額アルトキハ倉
庫營業者ハ之ヲ預證券ト引換ニ其所持
人ニ支拂フコトヲ要ス
第六百十二條 競賣代金ヲ以テ質入證券
ニ記載シタル債權ノ全部ヲ辨濟スルコ
ト能ハサリシトキハ倉庫營業者ハ其支

四 保管料
五 保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其期
間

六 受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ保
險金額、保險期間及ヒ保險者ノ氏名
又ハ商號

七 證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日
第六百條 倉庫營業者カ預證券及ヒ質入
證券ヲ寄託者ニ交付シタルトキハ其帳
簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 前條第一號、第二號及ヒ第四號乃
至第六條ニ掲ケタル事項

二 證券ノ番號及ヒ其作成ノ年月日
第六百一條 預證券及ヒ質入證券ノ所持
人ハ倉庫營業者ニ對シ寄託物ヲ分割シ
且其各部分ニ對スル預證券及ヒ質入證
券ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ
於テハ所持人ハ前ノ預證券及ヒ質入證
券ヲ倉庫營業者ニ返還スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル寄託物ノ分割及ヒ證券
ノ交付ニ關スル費用ハ所持人ノ之ヲ負擔
ス
第六百二條 預證券及ヒ質入證券ヲ作り
タルトキハ寄託ニ關スル事項ハ倉庫營
業者ト所持人トノ間ニ於テハ其證券ノ
定ムル所ニ依ル

第六百三條 預證券及ヒ質入證券ハ其記
載シタル金額ヲ質入證券ニ記載シテ其
證券ヲ返還シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スル
コトヲ要ス

第六百十三條 質入證券ノ所持人ハ先ツ
寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アル
トキハ其裏書人ニ對シテ不足額ヲ請求
スルコトヲ得

手形法第四十五條第一項第三項第五項
第六項、第四十八條第一項、第四十九
條及ヒ第五十條第一項ノ規定ハ前項ニ
定メタル不足額ノ請求ニ之ヲ準用ス
手形法第五十二條第三項ノ規定ハ不足
額ノ請求ヲ受ケル者ノ營業所又ハ住所
ノ所在地カ其請求ヲ爲ス者ノ營業所又
ハ住所ノ所在地ト異ナル場合ニ於ケル
價還額ノ算定ニ付キ之ヲ準用ス

第六百十四條 質入證券ノ所持人カ辨濟
期ニ至リ支拂ヲ受ケサリシ場合ニ於テ
拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキ又ハ拒
絶證書作成ノ日ヨリ二週間内ニ寄託物
ノ競賣ヲ請求セサリシトキハ裏書人ニ
對スル請求權ヲ失フ

第六百十五條 質入證券所持人ノ預證券
所持人ニ對スル請求權ハ辨濟期ヨリ一
年質入證券裏書人ニ對スル請求權ハ寄
託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六個

第六百三條 預證券及ヒ質入證券ハ其記
載シタルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ
讓渡シ又ハ之ヲ質入スルコトヲ得但證
券ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキ
ハ此限ニ在ラス

預證券ノ所持人カ未タ質入ヲ爲ササル
間ハ預證券及ヒ質入證券ハ各別ニ之ヲ
讓渡スコトヲ得ス
第六百四條 第五百七十三條及ヒ第五百
七十五條ノ規定ハ預證券及ヒ質入證券
ニ之ヲ準用ス

第六百五條 預證券又ハ質入證券カ滅失
シタルトキハ其所持人ハ相當ノ擔保ヲ
供シテ更ニ其證券ノ交付ヲ請求スルコ
トヲ得此場合ニ於テハ倉庫營業者ハ其
旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第六百六條 質入證券ニ第一ノ質入裏書
ヲ爲スニハ債權額、其利息及ヒ辨濟期
ヲ記載スルコトヲ要ス
第一ノ質權者カ前項ニ掲ケタル事項ヲ
預證券ニ記載シテ之ニ署名スルニ非サ
レハ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコト
ヲ得ス

第六百七條 預證券ノ所持人ハ寄託物ヲ
以テ預證券ニ記載シタル債權額及ヒ利
息ヲ辨濟スル義務ヲ負フ

月質入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請
求權ハ價還ヲ爲シタル日ヨリ六個月ヲ
經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
第六百十六條 寄託者又ハ預證券ノ所持
人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者
ニ對シテ寄託物ノ點檢若クハ其見本ノ
抽出ヲ求メ又ハ其保存ニ必要ナル處分
ヲ爲スコトヲ得

質入證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニ
テモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢
ヲ求ムルコトヲ得
第六百十七條 倉庫營業者ハ自己又ハ其
使用人カ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠
ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ其
滅失又ハ毀損ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免
ルコトヲ得

第六百十八條 倉庫營業者ハ受寄物出庫
ノ時ニ非サレハ保管料及ヒ立替金其他
受寄物ニ關スル費用ノ支拂ヲ請求スル
コトヲ得但受寄物ノ一部出庫ノ場合
ニ於テハ割合ニ應シテ其支拂ヲ請求ス
ルコトヲ得

第六百十九條 當事者カ保管ノ期間ヲ定
メサリシトキハ倉庫營業者ハ受寄物入
庫ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタル後ニ非
サレハ其返還ヲ爲スコトヲ得但已ム

コトヲ得サル事由アルトキハ此限ニ在ラス

第六百二十條 預證券及ヒ質入證券ヲ作リタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレハ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百二十一條 預證券ノ所持人ハ質入證券ニ記載シタル債權ノ辨濟期前ト雖モ其債權ノ全額及ヒ辨濟期マテノ利息ヲ倉庫營業者ニ供託シテ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百二十二條 寄託物カ同種類ニシテ同一ノ品質ヲ有シ且分割スルコトヲ得ヘキ物ナルトキハ預證券ノ所持人ハ債權額ノ一部及ヒ其辨濟期マテノ利息ヲ供託シ其割合ニ應シテ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ倉庫營業者ハ供託ヲ受ケタル金額及ヒ返還シタル寄託物ノ數量ヲ預證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル寄託物ノ一部出庫ニ關スル費用ハ預證券ノ所持人ノ負擔ス

第六百二十三條 前二條ノ場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ供託金ノ上ニ存在ス

第六百二十二條ノ規定ハ前條第一項ノ供

託金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ一部ヲ辨濟シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六百二十四條 第五百二十四條第一項及ヒ第二項ノ規定ハ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テ質入證券ノ所持人ノ權利ハ競賣代金ノ上ニ存在ス

第六百二十五條 第六百二十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百二十六條 第五百八十八條ノ規定ハ倉庫營業者ニ之ヲ準用ス

第六百二十七條 寄託物ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル倉庫營業者ノ責任ハ出庫ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ寄託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ倉庫營業者カ預證券ノ所持人若シ其所持人カ知レサルトキハ寄託者ニ對シテ其滅失ノ通知ヲ發シタル日ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ倉庫營業者ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第六百二十七條 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求アルトキハ預證券及ヒ質入證券ニ代人テ倉荷證券ヲ交付スルコトヲ要ス

倉荷證券ニハ預證券ニ關スル規定ヲ準用ス

第六百二十八條 倉荷證券ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ質權者ノ承諾アルトキハ寄託者ハ債權ノ辨濟期前ト雖モ寄託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ倉庫營業者ハ返還シタル寄託物ノ種類、品質及ヒ數量ヲ倉荷證券ニ記載シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第十章 保險

第一節 損害保險

第一款 總則

第六百二十九條 損害保險契約ハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百三十條 保險契約ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ニ限り之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第六百三十一條 保險金額カ保險契約ノ目的ノ價額ニ超過シタルトキハ其超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効トス

第六百三十二條 同一ノ目的ニ付キ同時

第六百三十三條 相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シタルトキハ前ノ保險者先ツ損害ヲ負擔シ若シ其負擔額カ損害ノ全部ヲ填補スルニ足ラサルトキハ後ノ保險者之ヲ負擔ス

第六百三十四條 保險價額ノ全部ヲ保險ニ付シタル後ト雖モ左ノ場合ニ限リ更ニ保險契約ヲ爲スコトヲ得

一 前ノ保險者ニ對スル權利ヲ後ノ保險者ニ讓渡スコトヲ約シタルトキ

二 前ノ保險者ニ對スル權利ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スヘキコトヲ後ノ保險者ニ約シタルトキ

三 前ノ保險者カ損害ノ填補ヲ爲ササルコトヲ條件トシタルトキ

第六百三十五條 同時ニ又ハ相次テ數箇ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險者ノ一人ニ對スル權利ノ拋棄ハ他ノ保險者ノ權利義務ニ影響ヲ及ボサス

第六百三十六條 保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百三十七條 保險價額カ保險期間中著シク減少シタルトキハ保險契約者ハ保險者ニ對シテ保險金額及ヒ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得但保險料ノ減額ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

第六百三十八條 保險者カ填補スヘキ損害ノ額ハ其損害カ生シタル地ニ於ケル其時ノ價額ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ損害額ヲ計算スルニ必要ナル費用ハ保險者之ヲ負擔ス

第六百三十九條 當事者カ保險價額ヲ定メタルトキハ保險者ハ其價額ノ著シク過當ナルコトヲ證明スルニ非サレハ其填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百四十條 戰爭其他ノ變亂ニ因リテ生シタル損害ハ特約アルニ非サレハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

第六百四十一條 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任セス

第六百四十二條 保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサルヘキコト又ハ既ニ生シタルコトヲ知レルトキハ其契約ハ無効トス

第六百四十三條 保險契約ノ全部又ハ一部カ無効ナル場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ保險者ニ對シテ保險料ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十四條 保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ解除權ハ保險者カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一ヶ月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス契約ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第六百四十五條 前條ノ規定ニ依リ保險者カ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

保險者ハ危險發生ノ後解除ヲ爲シタル場合ニ於テモ損害ヲ填補スル責ニ任セ

ス若シ既ニ保險金額ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其返還ヲ請求スルコトヲ得但保險契約者ニ於テ危險ノ發生カ其告ケ又ハ告ケサリシ事實ニ基カサルコトヲ證明シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百四十六條 保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ斟酌シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニ於テ保險期間中其危險カ消滅シタルトキハ保險契約者ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十七條 保險契約ハ他人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第六百四十八條 保險契約者カ委任ヲ受ケスシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨ヲ保險者ニ告ケサルトキハ其契約ハ無効トス若シ之ヲ告ケタルトキハ被保險者ハ當然其契約ノ利益ヲ享受ス

第六百四十九條 保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險証券ヲ交付スルコトヲ要ス

保險証券ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險者之ニ署名スルコトヲ要ス

一 保險ノ目的

二 保險者ノ負擔シタル危險
三 保險金額ヲ定メタルトキハ其價額
四 保險金額
五 保險料及ヒ其支拂ノ方法
六 保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期
七 保險契約者ノ氏名又ハ商號
八 保險契約ノ年月日
九 保險証券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第六百五十條 被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定ス

前項ノ場合ニ於テ保險ノ目的ノ讓渡カ著シク危險ヲ變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第六百五十一條 保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前項ノ規定ニ依リテ解除ヲ爲ササル保險契約ハ破産宣告ノ後三個月ヲ經過シタルトキハ其效力ヲ失フ

第六百五十二條 他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險契約者カ破

産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シテ保險料ヲ請求スルコトヲ得但被保險者カ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百五十三條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テハ保險契約者ハ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百五十四條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラスシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險カ生セサルニ至リタルトキハ保險者ハ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還スルコトヲ要ス

第六百五十五條 前二條ノ場合ニ於テハ保險者ハ其返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十六條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第六百五十七條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノミ

其效力ヲ生ス

前項ノ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ危險ノ著シク變更又ハ増加シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク之ヲ保險者ニ通知スルコトヲ要ス若シ其通知ヲ怠リタルトキハ保險者ハ危險ノ變更又ハ増加ノ時ヨリ保險契約カ其效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得

保險者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ危險ノ變更若クハ増加ヲ知リタル後遲滞ナク契約ノ解除ヲ爲ササルトキハ其契約ヲ承認シタルモノト看做ス

第六百五十八條 保險者ノ負擔シタル危險ノ發生ニ因リテ損害カ生シタル場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其損害ノ生シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百五十九條 保險ノ目的ニ付キ保險者ノ負擔スヘキ損害カ生シタルトキハ其後ニ至リ其目的カ保險者ノ負擔セサル危險ノ發生ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ保險者ハ其損害ヲ填補スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百六十條 被保險者ハ損害ノ防止ヲ力ムルコトヲ要ス但之カ爲メニ必要又

ハ有益ナリシ費用及ヒ填補額カ保險金額ニ超過スルトキト雖モ保險者之ヲ負擔ス

第六百三十六條 規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百六十一條 保險ノ目的ノ全部カ減失シタル場合ニ於テ保險者カ保險金額ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ被保險者カ其目的ニ付キ有セル權利ヲ取得ス但保險金額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ權利ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第六百六十二條 損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ヲ支拂ヒタルトキハ其支拂ヒタル金額ノ限度ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ第三者ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ノ一部ヲ支拂ヒタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テノミ前項ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第六百六十三條 保險金額支拂ノ義務及ヒ保險料返還ノ義務ハ二年保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効

ニ因リテ消滅ス

第六百六十四條 本節ノ規定ハ相互保險ニ之ヲ準用ス但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款 火災保險

第六百六十五條 火災ニ因リテ生シタル損害ハ其火災ノ原因如何ヲ問ハズ保險者之ヲ填補スル責ニ任ス但第六百四十一條及ヒ第六百四十一條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第六百六十六條 消防又ハ避難ニ必要ナル處分ニ因リ保險ノ目的ニ付キ生シタル損害ハ保險者之ヲ填補スル責ニ任ス

第六百六十七條 貸借人其他他人ノ物ヲ保管スル者カ其支拂フコトアルヘキ損害賠償ノ爲メ其物ヲ保險ニ付シタルトキハ所有者ハ保險者ニ對シテ直接ニ其損害ノ填補ヲ請求スルコトヲ得

第六百六十八條 火災保險証券ニハ第六百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 保險ニ付シタル建物ノ所在、構造及ヒ用方

二 動産ヲ保險ニ付シタルトキハ之ヲ納ルル建物ノ所在、構造及ヒ用方

第三款 運送保險

第六百六十九條 保險者ハ特約ナキトキハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡ス時マテニ生スルトアルヘキ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第六百七十條 運送品ノ保險ニ付テハ發送ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ到達地マテノ運送賃其他ノ費用ヲ以テ保險價額トス

運送品ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益ハ特約アルトキニ限リ之ヲ保險價額中ニ算入ス

第六百七十一條 運送保險証券ニハ第六百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 運送ノ道筋及ヒ方法
- 二 運送人ノ氏名又ハ商號
- 三 運送品ノ受取及ヒ引渡ノ場所
- 四 運送期間ノ定アルトキハ其期間

第六百七十二條 保險契約ハ特約アルニ非サレハ運送上ノ必要ニ因リ一時運送ヲ中止シ又ハ運送ノ道筋若クハ方法ヲ變更シタルトキト雖モ其效力ヲ失ハス

第二節 生命保險

第六百七十三條 生命保險契約ハ當事者ノ一方カ相手方又ハ第三者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ

相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百七十四條 他人ノ死亡ニ因リテ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ定ムル保險契約ニハ其者ノ同意アルコトヲ要ス但被保險者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ナルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ保險契約ニ因リテ生シタル權利ノ讓渡ニハ被保險者ノ同意アルコトヲ要ス

保險契約者カ被保險者ナル場合ニ於テ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ其權利ヲ讓渡ストキ又ハ第一項但書ノ場合ニ於テ權利ヲ讓受ケタル者カ更ニ之ヲ讓渡ストキ亦同シ

第六百七十五條 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ第三者ナルトキハ其第三者ハ當然保險契約ノ利益ヲ享受ス但保險契約者カ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

前項但書ノ規定ニ依リ保險契約者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更スル權利ヲ有スル場合ニ於テ其權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ハ之ニ因リテ確定ス

第六百七十六條 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ニ非サル第三者ナル場合ニ於テ其者カ死亡シタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

保險契約者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ相續人ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

第六百七十七條 保險契約者カ契約後保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定又ハ變更シタルトキハ保險者ニ其指定又ハ變更ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ保險者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百七十四條第一項ノ規定ハ前項ノ指定及ヒ變更ニ之ヲ準用ス

第六百七十八條 保險契約ノ當時保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事實ヲ告ケタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但保險者カ其事實ヲ知り又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

第六百四十四條第二項及ヒ第六百四十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百七十九條 生命保險証券ニハ第六百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險契約ノ種類
- 二 被保險者ノ氏名
- 三 保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルトキハ其者ノ氏名

第六百八十條 左ノ場合ニ於テハ保險者ハ保險金額ヲ支拂フ責ニ任セス

- 一 被保險者カ自殺、決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ
- 二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被保險者ヲ死ニ致シタルトキ

前項第一號及ヒ第二號ノ場合ニ於テハ保險者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス

第六百八十一條 保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ノ死亡シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第六百八十二條 被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻ス義務ハ二年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六百八十三條 第六百四十條、第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十六條、第六百四十七條、第六百四十九條第一項、第六百五十一條乃至第六百五十三條、第六百五十六條、第六百五十七條、第六百六十三條及ヒ第六百六十四條ノ規定ハ生命保險ニ之ヲ準用ス

第六百四十條、第六百五十一條、第六百五十三條、第六百五十六條及ヒ第六百五十七條ノ場合ニ於テ保險者カ保險金額ヲ支拂フコトヲ要セサルトキハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ保險契約者ニ拂戻スコトヲ要ス

第四章 海商

第一章 船舶及ヒ船舶所有者

第六百八十四條 本法ニ於テ船舶トハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本編ノ規定ハ端舟其他構櫓ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ構櫓ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第六百八十五條 船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定ス

第六百八十六條 船舶所有者ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受タルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニハ之ヲ適用セス

第六百八十七條 船舶所有者ノ移轉ハ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百八十八條 航海中ニ在ル船舶ノ一有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキモノトス

第六百八十九條 差押及ヒ假差押ハ發航ノ準備ヲ終ハリタル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス但其船舶カ發航ヲ爲ス爲メニ生シタル債務ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百九十條 船舶所有者ハ船長カ其法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲又ハ船長其他ノ船員カ其職務ヲ行フニ當タリ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶、運送賃及ヒ船舶所有者カ

其船舶ニ付キ有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付シテ其實ヲ免ルルコトヲ得但船舶所有者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ雇傭契約ニ因リテ生シタル船舶ノ權利ニ付テハ之ヲ適用セス

第六百九十一條 登記シタル船舶ノ委付ハ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十二條 船舶所有者カ債權者ノ同意ヲ得スシテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ第六百九十條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

第六百九十三條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第六百九十四條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應ジ船舶ノ利用ニ關スル費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第六百九十五條 船舶共有者カ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議

ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラサリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第六百九十六條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應ジ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ辨濟スル責ニ任ス

第六百九十七條 損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應ジテ之ヲ爲ス

第六百九十八條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但船舶管理人ハ此限ニ在ラス

第六百九十九條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

船舶共有者ニ非サル者ヲ船舶管理人ト爲スニハ共有者全員ノ同意アルコトヲ要ス

船舶管理人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第七百條 船舶管理人ハ左ニ掲ケタル行爲ヲ除ク外船舶共有者ニ代ハリテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判

外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

- 一 船舶ノ讓渡、委付若クハ貨貨ヲ爲シ又ハ之ヲ抵當ト爲スコト
- 二 船舶ヲ保險ニ付スルコト
- 三 新ニ航海ヲ爲スコト
- 四 船舶ノ大修繕ヲ爲スコト
- 五 借財ヲ爲スコト

船舶管理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百一條 船舶管理人ハ特ニ帳簿ヲ備ヘ之ニ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

船舶管理人ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航海ニ關スル計算ヲ爲シテ各船舶共有者ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第七百二條 船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其國籍喪失ニ因リテ船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ他ノ共有者ハ相當代價ヲ以テ其持分ヲ買取リ又ハ其競賣ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

社員ノ持分ノ移轉ニ因リ會社ノ所有ニ屬スル船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失スヘキトキハ合名會社ニ在テハ他ノ社員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在テハ他ノ無限責任社員ハ相當代價ヲ以テ其持分

ヲ買取ルコトヲ得

第七百三條 船舶ノ貨貨借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效力ヲ生ス

第七百四條 船舶ノ賃借人カ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ其船舶ヲ航海ノ用ニ供シタルトキハ其利用ニ關スル事項ニ付テハ第三者ニ對シテ船舶所有者ト同一ノ權利義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付キ生シタル先取特權ハ船舶所有者ニ對シテモ其效力ヲ生ス但先取特權者カ其利用ノ契約ニ反スルコトヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第二章 船員

第一節 船長

第七百五條 船長ハ其職務ヲ行フニ付キ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ船舶所有者、僱船者、荷送人其他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

船長ハ船舶所有者ノ指圖ニ從ヒタルトキト雖モ船舶所有者以外ノ者ニ對シテハ前項ニ定メタル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第七百六條 海員カ其職務ヲ行フニ當テ

リ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第七百七條 船長カ己ムコトヲ得サル事由ニ因リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコト能ハサルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外他人ヲ選任シテ自己ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得此場合ニ於テハ船長ハ其選任ニ付キ船舶所有者ニ對シテ其責ニ任ス

第七百八條 船長ハ發航前船舶ノ航海ニ支障ナキヤ否ヤ其他航海ニ必要ナル準備ノ整頓セルヤ否ヤヲ検査スルコトヲ要ス

第七百九條 船長ハ左ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘ置クコトヲ要ス

- 一 船舶國籍證書
- 二 海員名簿
- 三 屬具目錄
- 四 航海日誌
- 五 旅客名簿
- 六 運送契約及ヒ積荷ニ關スル書類
- 七 稅關ヨリ交付シタル書類

前項第三號乃至第五號ニ掲ケタル書類ハ外國ニ航行セサル船舶ニ限り命令ヲ

以テ之ヲ備フルコトヲ要セサルモノト定ムルコトヲ得

第七百十條 船長ハ己ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外自己ニ代ハリテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任シタル後ニ非サレハ荷物ノ積積及ヒ旅客ノ乗込ノ時ヨリ荷物ノ陸揚及ヒ旅客ノ上陸ノ時マテ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第七百十一條 船長ハ航海ノ準備カ終ハリタルトキハ遲滞ナク發航ヲ爲シ且必要アル場合ヲ除ク外豫定ノ航路ヲ變更セスシテ到達港マテ航行スルコトヲ要ス

第七百十二條 船長ハ航海中最モ利害關係人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ積荷ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

利害關係人ハ船長ノ行爲ニ因リ其積荷ニ付テ生シタル債權ノ爲メ之ヲ債權者ニ委付シテ其責ヲ免ルルコトヲ得但利害關係人ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十三條 船籍港外ニ於テハ船長ハ航海ノ爲メニ必要ナル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ヲ除ク外海員ノ雇入及ヒ雇止

ラ爲ス權限ノミヲ有ス
 第七百十四條 船長ノ代理權ニ加ヘタル
 制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗ス
 ルコトヲ得ス
 第七百十五條 船長ハ船舶ノ修繕費、救
 助料其他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費
 用ヲ支辨スル爲メニ非サレハ左ニ掲ケ
 タル行爲ヲ爲スコトヲ得ス
 一 船舶ヲ抵當ト爲スコト
 二 借財ヲ爲スコト
 三 積荷ノ全部又ハ一部ヲ賣却又ハ質
 入スルコト但第七百十二條第一項ノ
 場合ハ此限ニ在ラス
 船長カ積荷ヲ賣却又ハ質入シタル場合
 ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其積荷ノ到達
 スヘカリシ時ニ於ケル陸揚港ノ價格ニ
 依リテ之ヲ定ム但價格中ヨリ支拂フ
 コトヲ要セザリシ費用ヲ控除スルコト
 ヲ要ス
 第七百十六條 船長カ特ニ委任ヲ受ケス
 シテ航海ノ爲メニ費用ヲ出シ又ハ債
 務ヲ負擔シタルトキハ船舶所有者ハ船
 長ニ對シテ第六百九十條ニ定メタル權
 利ヲ行フコトヲ得
 第七百十七條 船舶港外ニ於テ船舶カ修
 繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ

船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣
 スルコトヲ得
 第七百十八條 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ
 修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノ
 ト看做ス
 一 船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受ク
 ルコト能ハス且其修繕ヲ爲スヘキ地
 ニ到ルコト能ハサルトキ
 二 修繕費カ船舶ノ價額ノ四分ノ三ニ
 超ユルトキ
 前項第二號ノ價額ハ船舶カ航海中毀損
 シタル場合ニ於テハ其發航ノ時ニ於ケ
 ル價額トシ其他ノ場合ニ於テハ其毀損
 前ニ有セシ價額トス
 第七百十九條 船長ハ航海ヲ繼續スル爲
 メ必要ナルトキハ積荷ヲ航海ノ用ニ供
 スルコトヲ得此場合ニ於テハ第七百十
 五條第二項ノ規定ヲ準用ス
 第七百二十條 船長ハ遲滞ナク航海ニ關
 スル重要ナル事項ヲ船舶所有者ニ報告
 スルコトヲ要ス
 船長ハ每航海ノ終ニ於テ遲滞ナク其航
 海ニ關スル計算ヲ爲シテ船舶所有者ノ
 承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルト
 キハ何時ニテモ計算ノ報告ヲ爲スコト
 ヲ要ス

第七百二十一條 船舶所有者ハ何時ニテ
 モ船長ヲ解任スルコトヲ得但正當ノ理
 由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長
 ハ船舶所有者ニ對シ解任ニ因リテ生シ
 タル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得
 船長カ船舶共有者ナル場合ニ於テ其意
 ニ反シテ解任セラレタルトキハ他ノ共
 有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分
 ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得
 船長カ前項ノ請求ヲ爲サント欲スルト
 キハ遲滞ナク他ノ共有者又ハ船舶管理
 人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
 第七百二十二條 船長ノ船舶所有者ニ對
 スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時
 效ニ因リテ消滅ス(削除)
 第七百二十三條 海員(削除)
 終ハリタルトキハ船長ノ指定シタル時
 ニ於テ船舶ニ乗込ムコトヲ要ス
 海員ハ船長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其
 乗込ミタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス
 第七百二十四條 海員ノ服役中ノ食料ハ
 船舶所有者ノ負擔トス
 第七百二十五條 海員カ服役中不行跡其
 他重大ナル過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹
 リ又ハ傷疾ヲ受ケタルトキハ船舶所有

者ハ三ヶ月ヲ超エサル期間内ノ治療及
 ビ看護ノ費用ヲ負擔ス
 前項ノ場合ニ於テ海員ハ其服役シタル
 期間ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得
 但其職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又
 ハ傷疾ヲ受ケタルトキハ其給料ノ全額
 ヲ請求スルコトヲ得
 第七百二十六條 一航海ニ付キ給料ヲ定
 メタル場合ニ於テ航海ノ日數ヲ延長シ
 又ハ不可抗力ニ因ラスシテ其里程ヲ延
 長シタルトキハ海員ハ其割合ニ應ジテ
 給料ノ増加ヲ請求スルコトヲ得但航海
 ノ日數又ハ里程ヲ短縮シタルトキト雖
 モ給料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得
 第七百二十七條 海員カ就役ノ後死亡シ
 タルトキハ船舶所有者ハ死亡ノ日マテ
 ノ給料ヲ支拂フコトヲ要ス
 海員カ其職務ヲ行フニ因リテ死亡シタ
 ルトキハ其葬式ノ費用ハ船舶所有者ノ
 負擔トス
 第七百二十八條 左ノ場合ニ於テハ船長
 ハ海員ヲ雇止ムルコトヲ得
 一 發航前海員カ其職務ニ不適任ナル
 コトヲ認メタルトキ
 二 海員カ著シク其職務ヲ怠リ又ハ其
 職務ニ關シ之ニ重大ナル過失アリタ

ルトキ
 三 海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタ
 ルトキ
 四 海員カ疾病ニ罹リ又ハ傷疾ヲ受ケ
 其職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
 五 不可抗力ニ因リ發航ヲ爲シ又ハ航
 海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタ
 ルトキ
 前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ
 海員ハ其服役シタル期間ニ對スル給料
 ヲ請求スルコトヲ得
 第一項第四號及ヒ第五號ノ場合ニ於テ
 ハ海員ハ其雇止ノ日マテノ給料及ヒ雇
 入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得但
 第四號ノ場合ニ於テ海員ニ過失アルト
 キハ前項ノ規定ヲ準用ス
 第七百二十九條 海員カ前條第一項ニ掲
 ケタル事由ニ因ラスシテ雇止メラレタ
 ルトキハ其服役シタル期間ニ對スル給
 料ノ外一個月分ノ給料ヲ請求スルコト
 ヲ得若シ雇入港外ニ於テ雇止メラレタ
 ルトキハ雇入港マテ歸航スルニ必要ナ
 ル期間ニ對スル給料及ヒ雇入港マテノ
 送還ヲ請求スルコトヲ得
 第七百三十條 左ノ場合ニ於テハ海員ハ
 其雇止ヲ請求スルコトヲ得

一 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルト
 キ
 二 自己ノ過失ニ因ラスシテ疾病ニ罹
 リ又ハ傷疾ヲ受ケ其職務ニ堪ヘサル
 ニ至リタルトキ
 三 船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ
 前項ノ場合ニ於テハ海員ハ其雇止ノ日
 マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請
 求スルコトヲ得
 第七百三十一條 航海中船舶ノ所有者カ
 變更シタルトキハ海員ハ新所有者ニ對
 シ雇傭契約ニ因リテ生シタル權利義務
 ヲ有ス
 第七百三十二條 海員ノ雇入期間ハ一年
 ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期
 間ヲ以テ海員ヲ雇入レタルトキハ其期
 間ハ之ヲ一年ニ短縮ス
 海員ノ雇入ハ之ヲ更新スルコトヲ得但
 其期間ハ更新ノ時ヨリ一年ヲ超ユルコ
 トヲ得ス
 第七百三十三條 雇入期間ノ定ナキトキ
 ハ海員ハ特約アル場合ヲ除外船舶カ
 安全ニ碇泊シ且積荷ノ陸揚及ヒ旅客ノ
 上陸カ終ハリタル後ニ非サレハ其雇止
 ヲ請求スルコトヲ得ス
 第七百三十四條 海員ノ雇入契約ハ左ノ

事由ニ因リテ終了ス

一 船舶カ沈没シタルコト
二 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルコト

三 船舶カ捕獲セラレタルコト

前項ノ場合ニ於テハ海員ハ契約終了ノ日マテノ給料及ヒ雇入港マテノ送還ヲ請求スルコトヲ得

第七百三十五條 海員カ雇入港マテノ送還ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ送還ニ代ヘテ其費用ヲ請求スルコトヲ得

第七百三十六條 第七百二十二條ノ規定ハ海員ノ債權ニ之ヲ準用ス

第三章 運送

第一節 物品運送

第一款 總則

第七百三十七條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ各當事者ハ相手方ノ請求ニ因リ運送契約書ヲ交付スルコトヲ要ス

第七百三十八條 船舶所有者ハ備船者又ハ荷送人ニ對シ發航ノ當時船舶カ安全ニ航海ヲ爲スニ堪フルコトヲ擔保ス
第七百三十九條 船舶所有者ハ特約ヲ爲シタルトキト雖モ自己ノ過失、船員其

他ノ使用人ノ惡意若クハ重大ナル過失又ハ船舶カ航海ニ堪ヘサルニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得

第七百四十條 法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラスシテ船積シタル運送品ハ船長ニ於テ何時ニテモ之ヲ陸揚シ若シ船舶又ハ積荷ニ危害ヲ及ホス虞アルトキハ之ヲ放棄スルコトヲ得但船長カ之ヲ運送スルトキハ其船積ノ地及ヒ時ニ於ケル同種ノ運送品ノ最高ノ運送賃ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ船舶所有者其他ノ利害關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第七百四十一條 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ船積スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船舶所有者ハ運送品ノ積積者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス備船者カ運送品ヲ船積スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ船積シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ船積ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス

第七百四十二條 船長カ第三者ヨリ運送品ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ其者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ其者カ運送品ヲ船積セサルトキハ船長ハ直チニ備船者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ船積期間内ニ限リ備船者ニ於テ運送品ヲ船積スルコトヲ得

第七百四十三條 備船者ハ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ニ對シテ發航ノ請求ヲ爲スコトヲ得

備船者カ前項ノ請求ヲ爲シタルトキハ運送賃ノ全額ノ外運送品ノ全部ヲ船積セサルニ因リテ生シタル費用ヲ支拂ヒ向ホ船舶所有者ノ請求アルトキハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第七百四十四條 船積期間經過ノ後ハ備船者カ運送品ノ全部ヲ船積セサルトキト雖モ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第七百四十五條 發航前ニ於テハ備船者ハ運送賃ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

往復航海ヲ爲スヘキ場合ニ於テ備船者カ其歸航ノ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送賃ノ三分ノ二ヲ支拂フコトヲ要ス他港ヨリ船積港ニ航行スヘキ場合ニ於テ備船者カ其船積港ヲ發スル前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキ亦同シ

運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタル後前二項ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其船積及ヒ陸揚ノ費用ハ備船者之ヲ負擔ス

備船者カ船積期間内ニ運送品ノ船積ヲ爲ササリシトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百四十六條 備船者カ前條ノ規定ニ從ヒテ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ附隨ノ費用及ヒ立替金ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ得

前條第二項ノ場合ニ於テハ備船者ハ前項ニ掲ケタルモノノ外運送品ノ價格ニ應ジ共同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百四十七條 發航後ニ於テハ備船者ハ運送賃ノ全額ヲ支拂フ外第七百五十三條第一項ニ定メタル債務ヲ辨濟シ且陸揚ノ爲メニ生スヘキ損害ヲ賠償シ又

ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第七百四十八條 船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ備船者カ他ノ備船者及ヒ荷送人ト共同セシテ發航前ニ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送賃ハ之ヲ控除ス

發航前ト雖モ備船者カ既ニ運送品ノ全部又ハ一部ヲ船積シタルトキハ他ノ備船者及ヒ荷送人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前七條ノ規定ハ船舶ノ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百四十九條 價值ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ運送品ヲ運送品ヲ船積スルコトヲ要ス

荷送人カ運送品ノ船積ヲ怠リタルトキハ船長ハ直チニ發航ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ荷送人ハ運送賃ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス但船舶所有者カ他ノ運送品ヨリ得タル運送賃ハ之ヲ控除ス

第七百五十條 第七百四十八條ノ規定ハ

荷送人カ契約ノ解除ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第七百五十一條 備船者又ハ荷送人ハ船積期間内ニ運送ニ必要ナル書類ヲ船長ニ交付スルコトヲ要ス

第七百五十二條 船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ運送品ヲ陸揚スルニ必要ナル準備カ整頓シタルトキハ船長ハ運送品ノ積積者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

運送品ヲ陸揚スヘキ期間ノ定アル場合ニ於テハ其期間ハ前項ノ通知アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス其期間經過ノ後運送品ヲ陸揚シタルトキハ船舶所有者ハ特約ナキトキト雖モ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ期間中ニハ不可抗力ニ因リテ陸揚ヲ爲スコト能ハサル日ヲ算入セス

備船者カ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ荷送人ハ船長ノ指圖ニ從ヒ運送品ヲ陸揚スルコトヲ要ス

第七百五十三條 荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送契約又ハ船荷證券ノ趣旨ニ從ヒ運送賃、附隨ノ費用、立替

金、碇泊料及ヒ運送品ノ價格ニ應シ共
同海損又ハ救助ノ爲メ負擔スヘキ金額
ヲ支拂フ義務ヲ負フ
船長ハ前項ニ定メタル金額ノ支拂ト引
換ニ非サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ要
セス

第七百五十四條 荷受人カ運送品ヲ受取
ルコトヲ怠リタルキハ船長ハ之ヲ供
託スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送品
ヲ荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スルコト
ヲ要ス

荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキ又
ハ荷受人カ運送品ヲ受取ルコトヲ拒ミ
タルトキハ船長ハ運送品ヲ供託スルコ
トヲ要ス此場合ニ於テハ運送品ヲ備船
者又ハ荷受人ニ對シテ其通知ヲ發スル
コトヲ要ス

第七百五十五條 運送品ノ重量又ハ容積
ヲ以テ運送貨ヲ定メタルトキハ其額ハ
運送品引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容
積ニ依リテ之ヲ定ム

第七百五十六條 期間ヲ以テ運送貨ヲ定
メタルトキハ其額ハ運送品ノ船積著手
ノ日ヨリ其陸揚終了ノ日マテノ期間ニ
依リテ之ヲ定ム但船積カ不可抗力ニ因
リ發航港若クハ航海ノ途中ニ於テ碇泊

ヲ爲スヘキトキ又ハ航海ノ途中ニ於テ
船積ヲ修繕スヘキトキハ其期間ハ之ヲ
算入セス第七百四十一條第二項又ハ第
七百五十二條第二項ノ場合ニ於テ船積
期間又ハ陸揚期間經過ノ後運送品ノ船
積又ハ陸揚ヲ爲シタル日數亦同シ

第七百五十七條 船積所有者ハ第七百五
十三條第一項ニ定メタル金額ノ支拂ヲ
受クル爲メ裁判所ノ許可ヲ得テ運送品
ヲ競賣スルコトヲ得

船長カ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後
ト雖モ船積所有者ハ其運送品ノ上ニ權
利ヲ行使スルコトヲ得但引渡ノ日ヨリ
二週間ヲ經過シタルトキ又ハ第三者カ
其占有ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラ
ス

第七百五十八條 船積所有者カ前條ニ定
メタル權利ヲ行ハサルトキハ備船者又
ハ荷受人ニ對スル請求權ヲ失フ但備船
者又ハ荷受人ハ其受ケタル利益ノ限度
ニ於テ償還ヲ爲スコトヲ要ス

第七百五十九條 船積ノ全部又ハ一部ヲ
以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ
於テ備船者カ更ニ第三者ト運送契約ヲ
爲シタルトキハ其契約ノ履行カ船長ノ
職務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船積所有

者ノミ其第三者ニ對シテ履行ノ責ニ任
ス但第六百九十條ニ定メタル權利ヲ行
フコトヲ妨ケス

第七百六十條 船積ノ全部ヲ以テ運送契
約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ其契
約ハ左ノ事由ニ依リテ終了ス
一 第七百三十四條第一項ニ掲ケタル
事由

二 運送品カ不可抗力ニ依リテ滅失シ
タルコト
第七百三十四條第一項ニ掲ケタル事由
カ航海中ニ生シタルトキハ備船者ハ運
送ノ割合ニ應シ運送品ノ價格ヲ超エサ
ル限度ニ於テ運送貨ヲ支拂フコトヲ要
ス

第七百六十一條 航海又ハ運送カ法令ニ
反スルニ至リタルトキ其他不可抗力ニ
因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコ
ト能ハサルニ至リタルトキハ各當事者
ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタ
ル場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタルト
キハ備船者ハ運送ノ割合ニ應シテ運送
貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百六十二條 第七百六十條第一項第
二號及ヒ前條第一項ニ掲ケタル事由カ

ヒ其荷造ノ種類、箇數並ニ記號
四 備船者又ハ荷受人ノ氏名又ハ商號
五 荷受人ノ氏名若クハ商號
六 船積港
七 陸揚港但發航後備船者又ハ荷受人
カ陸揚港ヲ指定スヘキトキハ其之ヲ
指定スヘキ港

八 運送貨
九 數通ノ船荷證券ヲ作りタルトキハ
其員數
十 船荷證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年
月日

第七百七十條 備船者又ハ荷受人ハ船長
又ハ之ニ代ハル者ノ請求ニ依リ船荷證
券ノ原本ニ署名シテ之ヲ交付スルコト
ヲ要ス

第七百七十一條 陸揚港ニ於テハ船長ハ
數通ノ船荷證券中ノ一通ノ所持人カ運
送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其
引渡ヲ拒ムコトヲ得ス

第七百七十二條 陸揚港外ニ於テハ船長
ハ船荷證券ノ各通ノ返還ヲ受クルニ非
サレハ運送品ヲ引渡スコトヲ得ス
第七百七十三條 二人以上ノ船荷證券所
持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキ
ハ船長ハ運送品ヲ引渡シ且請

運送品ノ一部ニ付テ生シタルトキハ備
船者ハ船積所有者ノ負擔ヲ重カラシメ
サル範圍内ニ於テ他ノ運送品ヲ船積ス
ルコトヲ得

備船者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハン
ト欲スルトキハ運送品ヲ運送品ノ陸揚
又ハ船積ヲ爲スコトヲ要ス若シ其陸揚
又ハ船積ヲ怠リタルトキハ運送貨ノ全
額ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百六十三條 第七百六十條及ヒ第七
百六十一條ノ規定ハ船積ノ一部又ハ箇
箇ノ運送品ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲
シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百六十四條 船積所有者ハ左ノ場合
ニ於テハ運送貨ノ金額ヲ請求スルコト
ヲ得

一 船長カ第七百五十五條第一項ノ規定
ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ買入シタル
トキ
二 船長カ第七百五十九條ノ規定ニ從ヒ

テ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ
三 船長カ第七百八十八條ノ規定ニ從
ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第七百六十五條 船積所有者ノ備船者、
荷受人又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年
ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅
ス

第七百六十六條 第五百六十六條、第五
百七十六條乃至第五百八十一條及ヒ第
五百八十八條ノ規定ハ船積所有者ニ之
ヲ準用ス

第七百六十七條 船積所有者又ハ荷送
人ノ請求ニ依リ運送品ノ船積後運送ナ
ク一通又ハ數通ノ船荷證券ヲ交付スル
コトヲ要ス

第七百六十八條 船積所有者ハ船長以外
ノ者ニ船長ニ代ハリテ船荷證券ヲ交付
スルコトヲ委任スルコトヲ得

第七百六十九條 船荷證券ニハ左ノ事項
ヲ記載シ船長又ハ之ニ代ハル者署名ス
ルコトヲ要ス
一 船積ノ名稱及ヒ國籍
二 船長カ船荷證券ヲ作りタルトキハ
船長ノ氏名
三 運送品ノ種類、重量若クハ容積及

求ヲ爲シタル各所持人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス船長カ第七百七十一條ノ規定ニ依リテ運送品ノ一部ヲ引渡シタル後他ノ所持人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタル場合ニ於テ其殘部ニ付キ亦同シ

第七百七十四條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ其一人カ他ノ所持人ニ先チテ船長ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人ノ船荷證券ハ其效力ヲ失フ

第七百七十五條 二人以上ノ船荷證券所持人アル場合ニ於テ船長カ未ダ運送品ノ引渡ヲ爲ササルトキハ原所持人カ最モ先ニ發送シ又ハ引渡シタル證券ヲ所持スル者他ノ所持人ニ先チテ其權利ヲ行フ

第七百七十六條 第五百七十二條乃至第五百七十五條及ヒ第五百八十四條ノ規定ハ船荷證券ニ之ヲ準用ス

第七百七十七條 記名ノ乘船切符ハ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス
第七百七十八條 旅客ノ航海中ノ食料ハ船荷證券所有者ノ負擔トス
第七百七十九條 旅客カ契約ニ依リ船中

ニ携帶スルコトヲ得ル手荷物ニ付テハ船荷證券所有者ハ特約アルニ非サレハ別ニ運送貨ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百八十條 旅客カ乘船時期マテニ船中ニ乘込マサルトキハ船長ハ發航ヲ爲シ又ハ航海ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百八十一條 發航前ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ半額ヲ支拂ヒテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
發航後ニ於テハ旅客ハ運送貨ノ全額ヲ支拂フニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ス

第七百八十二條 旅客カ發航前ニ死亡、疾病其他一身ニ關スル不可抗力ニ因リテ航海ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ船荷證券所有者ハ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ掲ケタル事由カ發航後ニ生シタルトキハ船荷證券所有者ハ其選擇ニ從ヒ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求シ又ハ運送ノ割合ニ應ジテ運送貨ヲ請求スルコトヲ得
第七百八十三條 航海ノ途中ニ於テ船荷證券修繕スヘキトキハ船荷證券所有者ハ其修繕中旅客ニ相當ノ住居及ヒ食料ヲ供ス

ルコトヲ要ス但旅客ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ他ノ船泊ヲ以テ上陸港マテ旅客ヲ運送スルコトヲ提供シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百八十四條 旅客運送契約ハ第七百三十四條第一項ニ掲ケタル事由ニ因リテ終了ス若シ其事由カ航海中ニ生シタルトキハ旅客ハ運送ノ割合ニ應ジテ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第七百八十五條 旅客カ死亡シタルトキハ船長ハ最モ其相續人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其船中ニ在ル手荷物ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第七百八十六條 第五百九十條、第五百九十一條第一項、第五百九十二條、第五百三十八條、第七百三十九條、第七百六十一條及ヒ第七百六十五條ノ規定ハ海上ノ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第七百八十七條 旅客運送ヲ爲ス爲メ船中ニ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ船荷證券所有者ト備船者トノ關係ニ付テハ前節第一款ノ規定ヲ準用ス

第四章 海損

第七百八十八條 船長カ船泊及ヒ積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ船泊又ハ積荷ニ付キ爲シタル處分ニ因リテ生シタル損害及ヒ費用ハ之ヲ共同海損トス

前項ノ規定ハ危險カ過失ニ因リテ生シタル場合ニ於テ利害關係人ノ過失者ニ對スル求償ヲ妨ケス

第七百八十九條 共同海損ハ之ニ因リテ保存スルコトヲ得タル船泊又ハ積荷ノ價格ト運送貨ノ半額ト共同海損タル損害ノ額トノ割合ニ應ジテ各利害關係人ノ之ヲ分擔ス

第七百九十條 共同海損ノ分擔額ニ付テハ船泊ノ價格ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トシ積荷ノ價格ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル價格トス但積荷ニ付テハ其價格中ヨリ減失ノ場合ニ於テ支拂フコトヲ要セサル運送貨其他ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第七百九十一條 前二條ノ規定ニ依リ共同海損ヲ分擔スヘキ者ハ船泊ノ到達又ハ積荷ノ引渡ノ時ニ於テ現存スル價額ノ限度ニ於テノミ其責ニ任ス

第七百九十二條 船泊ニ備附ケタル武器、船員ノ給料、船員及ヒ旅客ノ食料並ニ

衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付キ其價額ヲ算入セス但此等ノ物ニ加ヘタル損害ハ他ノ利害關係人ノ之ヲ分擔ス

第七百九十三條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ナクシテ船積シタル荷物又ハ屬具目錄ニ記載セサル屬具ニ加ヘタル損害ハ利害關係人ニ於テ之ヲ分擔スルコトヲ要セス

甲板ニ積込ミタル荷物ニ加ヘタル損害亦同シ但沿岸ノ小航海ニ在リテハ此限ニ在ラス

前二項ニ掲ケタル積荷ノ利害關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第七百九十四條 共同海損タル損害ノ額ハ到達ノ地及ヒ時ニ於ケル船泊ノ價格又ハ陸揚ノ地及ヒ時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但積荷ニ付テハ其減失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサル一切ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第七百九十五條 船荷證券其他積荷ノ價格ヲ評定スルニ足ルヘキ書類ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價額ヲ記載シタルトキハ

其積荷ニ加ヘタル損害ノ額ハ其記載シタル價額ニ依リテ之ヲ定ム
積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル價額ニ應ジテ共同海損ヲ分擔ス
前二項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ボスヘキ事項ニ付キ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百九十六條 第七百八十九條ノ規定ニ依リテ利害關係人カ共同海損ヲ分擔シタル後船泊、其屬具若クハ積荷ノ全部又ハ一部カ其所有者ニ復シタルトキハ其所有者ハ價金中ヨリ救助料及ヒ一部減失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ノ額ヲ控除シタルモノヲ返還スルコトヲ要ス

第七百九十七條 船舶カ雙方ノ船員ノ過失ニ因リテ衝突シタル場合ニ於テ雙方ノ過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハサルトキハ其衝突ニ因リテ生シタル損害ハ各船泊ノ所有者平分シテ之ヲ負擔ス

第七百九十八條 共同海損又ハ船泊ノ衝突ニ因リテ生シタル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
前項ノ期間ハ共同海損ニ付テハ其計算終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第七百九十九條 本章ノ規定ハ船舶カ不
可抗力ニ因リ發航港又ハ航海ノ途中ニ
於テ碇泊ヲ爲ス爲メニ要スル費用ニ之
ヲ準用ス

第五章 海難救助

第八百條 船舶又ハ積荷ノ全部又ハ一部
カ海難ニ遭遇セル場合ニ於テ義務ナク
シテ之ヲ救助シタル者ハ其結果ニ對シ
テ相當ノ救助料ヲ請求スルコトヲ得
第八百一條 救助料ニ付キ特約ナキ場合
ニ於テ其額ニ付キ爭アルトキハ危險ノ
程度、救助ノ結果、救助ノ爲メニ要シ
タル勞力及ヒ費用其他一切ノ事情ヲ斟
酌シテ裁判所之ヲ定ム

第八百二條 海難ニ際シ契約ヲ以テ救助
料ヲ定メタル場合ニ於テ其額カ著シク
不相當ナルトキハ當事者ハ其増加又ハ
減少ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ
ハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八百三條 救助料ノ額ハ特約ナキトキ
ハ救助セラレタル物ノ價額ニ超スルコ
トヲ得ス
先順位ノ先取特權アルトキハ救助料ノ
額ハ先取特權者ノ債權額ヲ控除シタル
殘額ニ超スルコトヲ得ス

第八百四條 數人カ共同シテ救助ヲ爲シ
タル場合ニ於テ救助料分配ノ割合ニ付
テハ第八百一條ノ規定ヲ準用ス
人命ノ救助ニ從事シタル者モ亦前項ノ
規定ニ從ヒテ救助料ノ分配ヲ受クルコ
トヲ得

第八百五條 救助ニ從事シタル船舶カ汽
船ナルトキハ救助料ノ三分ノ二、帆船
ナルトキハ其二分ノ一ヲ船舶所有者ニ
支拂ヒ其殘額ハ折半シテ之ヲ船長及ヒ
海員ニ支拂フコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ
金額ノ分配ハ船長之ヲ行フ此場合ニ於
テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八百六條 船長カ前條第二項ノ規定ニ
依リ救助料ノ分配ヲ爲スニハ航海ヲ終
ハルマテニ分配案ヲ作り之ヲ海員ニ告
示スルコトヲ要ス
第八百七條 海員カ前條ノ分配案ニ對シ
テ異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ其
告示アリタル後異議ノ申立ヲ爲スコト
ヲ得ル最初ノ港ノ管海官廳ニ之ヲ爲ス
コトヲ要ス

管海官廳ハ異議ヲ理由アリトスルトキ
ハ分配案ヲ更正スルコトヲ得
船長ハ異議ノ著者前ニハ救助料ノ支拂
タル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險
金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ
之ヲ定ム

第八百八條 船舶ノ保險ニ付テハ保險
者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ
以テ保險價額トス
第八百九條 積荷ノ保險ニ付テハ其船
積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積
並ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額
トス

第八百十條 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘ
キ利益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ
以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險
金額ヲ以テ保險價額トシタルモノト推
定ス

第八百十一條 一航海ニ付キ船舶ヲ保
險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責
任ハ荷物又ハ底荷ノ船積ニ著手シタル
時ヲ以テ始マル
荷物又ハ底荷ノ船積ヲ爲シタル後船舶
ヲ保險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任
ハ契約成立ノ時ヲ以テ始マル

前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到
達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚力終了
シタル時ヲ以テ終ハル但其陸揚力不可
抗力ニ因ラスシテ遲延シタルトキハ其

終了スヘカリシ時ヲ以テ終ハル
第八百二十二條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ
報明ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保
險者ノ責任ハ其積荷カ陸揚力終了レタル
時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其陸揚力
終了シタル時ヲ以テ終ハル
前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ
之ヲ準用ス

第八百二十三條 海上保險證券ニハ第六
百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外
左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ
ハ其船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船長
ノ氏名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港
ノ定アルトキハ其港名
二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達
ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險
ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、
國籍並ニ種類、船積港及ヒ陸揚港
第八百二十四條 保險者ノ責任カ始マル
前ニ於テ航海ヲ變更シタルトキハ保險
契約ハ其效力ヲ失フ
保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變
更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事
故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更

第七百九十九條 本章ノ規定ハ船舶カ不
可抗力ニ因リ發航港又ハ航海ノ途中ニ
於テ碇泊ヲ爲ス爲メニ要スル費用ニ之
ヲ準用ス

第五章 海難救助

第八百條 船舶又ハ積荷ノ全部又ハ一部
カ海難ニ遭遇セル場合ニ於テ義務ナク
シテ之ヲ救助シタル者ハ其結果ニ對シ
テ相當ノ救助料ヲ請求スルコトヲ得
第八百一條 救助料ニ付キ特約ナキ場合
ニ於テ其額ニ付キ爭アルトキハ危險ノ
程度、救助ノ結果、救助ノ爲メニ要シ
タル勞力及ヒ費用其他一切ノ事情ヲ斟
酌シテ裁判所之ヲ定ム

第八百二條 海難ニ際シ契約ヲ以テ救助
料ヲ定メタル場合ニ於テ其額カ著シク
不相當ナルトキハ當事者ハ其増加又ハ
減少ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テ
ハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八百三條 救助料ノ額ハ特約ナキトキ
ハ救助セラレタル物ノ價額ニ超スルコ
トヲ得ス
先順位ノ先取特權アルトキハ救助料ノ
額ハ先取特權者ノ債權額ヲ控除シタル
殘額ニ超スルコトヲ得ス

第八百四條 數人カ共同シテ救助ヲ爲シ
タル場合ニ於テ救助料分配ノ割合ニ付
テハ第八百一條ノ規定ヲ準用ス
人命ノ救助ニ從事シタル者モ亦前項ノ
規定ニ從ヒテ救助料ノ分配ヲ受クルコ
トヲ得

第八百五條 救助ニ從事シタル船舶カ汽
船ナルトキハ救助料ノ三分ノ二、帆船
ナルトキハ其二分ノ一ヲ船舶所有者ニ
支拂ヒ其殘額ハ折半シテ之ヲ船長及ヒ
海員ニ支拂フコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リテ海員ニ支拂フヘキ
金額ノ分配ハ船長之ヲ行フ此場合ニ於
テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八百六條 船長カ前條第二項ノ規定ニ
依リ救助料ノ分配ヲ爲スニハ航海ヲ終
ハルマテニ分配案ヲ作り之ヲ海員ニ告
示スルコトヲ要ス
第八百七條 海員カ前條ノ分配案ニ對シ
テ異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ其
告示アリタル後異議ノ申立ヲ爲スコト
ヲ得ル最初ノ港ノ管海官廳ニ之ヲ爲ス
コトヲ要ス

管海官廳ハ異議ヲ理由アリトスルトキ
ハ分配案ヲ更正スルコトヲ得
船長ハ異議ノ著者前ニハ救助料ノ支拂
タル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險
金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ
之ヲ定ム

第八百八條 船舶ノ保險ニ付テハ保險
者ノ責任カ始マル時ニ於ケル其價額ヲ
以テ保險價額トス
第八百九條 積荷ノ保險ニ付テハ其船
積ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ船積
並ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額
トス

第八百十條 積荷ノ到達ニ因リテ得ヘ
キ利益又ハ報酬ノ保險ニ付テハ契約ヲ
以テ保險價額ヲ定メサリシトキハ保險
金額ヲ以テ保險價額トシタルモノト推
定ス

第八百十一條 一航海ニ付キ船舶ヲ保
險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ責
任ハ荷物又ハ底荷ノ船積ニ著手シタル
時ヲ以テ始マル
荷物又ハ底荷ノ船積ヲ爲シタル後船舶
ヲ保險ニ付シタルトキハ保險者ノ責任
ハ契約成立ノ時ヲ以テ始マル

前二項ノ場合ニ於テ保險者ノ責任ハ到
達港ニ於テ荷物又ハ底荷ノ陸揚力終了
シタル時ヲ以テ終ハル但其陸揚力不可
抗力ニ因ラスシテ遲延シタルトキハ其

終了スヘカリシ時ヲ以テ終ハル
第八百二十二條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ
報明ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保
險者ノ責任ハ其積荷カ陸揚力終了レタル
時ヲ以テ始マリ陸揚港ニ於テ其陸揚力
終了シタル時ヲ以テ終ハル
前條第三項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ
之ヲ準用ス

第八百二十三條 海上保險證券ニハ第六
百四十九條第二項ニ掲ケタル事項ノ外
左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 船舶ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ
ハ其船舶ノ名稱、國籍並ニ種類、船長
ノ氏名及ヒ發航港、到達港又ハ寄航港
ノ定アルトキハ其港名
二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達
ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險
ニ付シタル場合ニ於テハ船舶ノ名稱、
國籍並ニ種類、船積港及ヒ陸揚港
第八百二十四條 保險者ノ責任カ始マル
前ニ於テ航海ヲ變更シタルトキハ保險
契約ハ其效力ヲ失フ
保險者ノ責任カ始マリタル後航海ヲ變
更シタルトキハ保險者ハ其變更後ノ事
故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更

カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

到達港ヲ變更シ其實行ニ著手シタルトキハ保險シタル航路ヲ離レサルトキト雖モ航海ヲ變更シタルモノト看做ス

第八百二十五條 被保險者カ發航ヲ爲シ若クハ航海ヲ繼續スルコトヲ怠リ又ハ航路ヲ變更シ其他者シク危險ヲ變更シクハ増加シタルトキハ保險者ハ其變更又ハ増加以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更又ハ増加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ホサザリシトキ又ハ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ不可抗力若クハ正當ノ理由ニ因リテ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第八百二十六條 保險契約中ニ船長ヲ指定シタルトキト雖モ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ホサス

第八百二十七條 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶ヲ變更シタルトキハ保險者ハ其變更以後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシ但其變更カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタルトキハ此限ニ在ラス

第八百二十八條 保險契約ヲ爲スニ當テリ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メザリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ積込シタルコトヲ知リタルトキハ運送ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第八百二十九條 保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セス
一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自來ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
二 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害
三 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶者、荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

第八百三十條 被保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セス
一 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害
二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶者、荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

第八百三十一條 保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ其積荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割合ヲ以テ保險價額ノ一部ヲ填補スル責ニ任ス

第八百三十二條 航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其實却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送貨其他ノ費用ヲ控除シ

第八百三十三條 左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得
一 船舶カ沈没シタルトキ
二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ
四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ
五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六個月間解放セラレサルトキ

第八百三十四條 船舶ノ存否カ六個月間分明ナラサルトキハ其船舶ノ行方ノ知レサルモノトス
保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ

第八百三十五條 第八百三十三條第三號ノ場合ニ於テ船長カ運送ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得ス

第八百三十六條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三個月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
前項ノ期間ハ第八百三十三條第一號、第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百三十七條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス
再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百三十八條 委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得
保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ

第八百三十九條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス
被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第八百四十條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當テリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス
保險者ハ前項ノ通知ヲ受クルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス
保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百四十一條 保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス
第七章 船舶債權者
第八百四十二條 左ニ掲ケタル債權ヲ有

ハ此限ニ在ラス
第八百二十八條 保險契約ヲ爲スニ當テリ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メザリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ積込シタルコトヲ知リタルトキハ運送ナク保險者ニ對シテ船舶ノ名稱及ヒ國籍ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス保險契約者又ハ被保險者カ前項ノ通知ヲ怠リタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第八百二十九條 保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セス
一 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自來ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害
二 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害
三 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶者、荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

第八百三十條 被保險者ハ左ニ掲ケタル損害又ハ費用ヲ填補スル責ニ任セス
一 船舶又ハ運送貨ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ發航ノ當時安全ニ航海ヲ爲スニ必要ナル準備ヲ爲サス又ハ必要ナル書類ヲ備ヘサルニ因リテ生シタル損害
二 積荷ヲ保險ニ付シ又ハ積荷ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益若クハ報酬ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶者、荷送人又ハ荷受人ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害

第八百三十一條 保險ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸揚港ニ到達シタルトキハ保險者ハ其積荷カ毀損シタル狀況ニ於ケル價額ノ毀損セサル狀況ニ於テ有スヘカリシ價額ニ對スル割合ヲ以テ保險價額ノ一部ヲ填補スル責ニ任ス

第八百三十二條 航海ノ途中ニ於テ不可抗力ニ因リ保險ノ目的タル積荷ヲ賣却シタルトキハ其實却ニ依リテ得タル代價ノ中ヨリ運送貨其他ノ費用ヲ控除シ

第八百三十三條 左ノ場合ニ於テハ被保險者ハ保險ノ目的ヲ保險者ニ委付シテ保險金額ノ全部ヲ請求スルコトヲ得
一 船舶カ沈没シタルトキ
二 船舶ノ行方カ知レサルトキ
三 船舶カ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキ
四 船舶又ハ積荷カ捕獲セラレタルトキ
五 船舶又ハ積荷カ官ノ處分ニ依リテ押收セラレ六個月間解放セラレサルトキ

第八百三十四條 船舶ノ存否カ六個月間分明ナラサルトキハ其船舶ノ行方ノ知レサルモノトス
保險期間ノ定アル場合ニ於テ其期間カ前項ノ期間内ニ經過シタルトキト雖モ

第八百三十五條 第八百三十三條第三號ノ場合ニ於テ船長カ運送ナク他ノ船舶ヲ以テ積荷ノ運送ヲ繼續シタルトキハ被保險者ハ其積荷ヲ委付スルコトヲ得ス

第八百三十六條 被保險者カ委付ヲ爲サント欲スルトキハ三個月内ニ保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
前項ノ期間ハ第八百三十三條第一號、第三號及ヒ第四號ノ場合ニ於テハ被保險者カ其事由ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百三十七條 委付ハ單純ナルコトヲ要ス
再保險ノ場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ其被保險者カ自己ノ被保險者ヨリ委付ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百三十八條 委付ハ保險ノ目的ノ全部ニ付テ之ヲ爲スコトヲ要ス但委付ノ原因カ其一部ニ付テ生シタルトキハ其部分ニ付テノミ之ヲ爲スコトヲ得
保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ委付ハ保險金額ノ保險價額ニ

第八百三十九條 保險者ハ委付ニ因リ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ有セル一切ノ權利ヲ取得ス
被保險者カ委付ヲ爲シタルトキハ保險ノ目的ニ關スル證書ヲ保險者ニ交付スルコトヲ要ス

第八百四十條 被保險者ハ委付ヲ爲スニ當テリ保險者ニ對シ保險ノ目的ニ關スル他ノ保險契約並ニ其負擔ニ屬スル債務ノ有無及ヒ其種類ヲ通知スルコトヲ要ス
保險者ハ前項ノ通知ヲ受クルマテハ保險金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要セス
保險金額ノ支拂ニ付キ期間ノ定アルトキハ其期間ハ保險者カ第一項ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百四十一條 保險者カ委付ヲ承認セサルトキハ被保險者ハ委付ノ原因ヲ證明シタル後ニ非サレハ保險金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス
第七章 船舶債權者
第八百四十二條 左ニ掲ケタル債權ヲ有

第八百四十二條 左ニ掲ケタル債權ヲ有

第八百四十二條 左ニ掲ケタル債權ヲ有

第八百四十二條 左ニ掲ケタル債權ヲ有

第八百四十二條 左ニ掲ケタル債權ヲ有

第八百四十二條 左ニ掲ケタル債權ヲ有

スル者ハ船舶、其屬具及ヒ未タ受取ラサル運送貨ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 船舶並ニ其屬具ノ競賣ニ關スル費用及ヒ競賣手續開始後ノ保存費
- 二 最後ノ港ニ於ケル船舶及ヒ其屬具ノ保存費
- 三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル諸稅
- 四 水先案内料及ヒ挽船料
- 五 船助料及ヒ船舶ノ負擔ニ屬スル共同海損
- 六 航海繼續ノ必要ニ因リテ生シタル債權
- 七 雇傭契約ニ因リテ生シタル船長其他ノ船員ノ債權
- 八 船舶カ其賣買又ハ製造ノ後未タ航海ヲ爲ササル場合ニ於テ其賣買又ハ製造並ニ積裝ニ因リテ生シタル債權及ヒ最後ノ航海ノ爲メニスル船舶ノ積裝、食料並ニ燃料ニ關スル債權
- 九 第二號、第四號乃至第六條及ヒ前號ニ掲ケタルモノヲ除ク外第六百九十條ノ規定ニ依リ委任ヲ許シタル債權

第八百四十三條 船舶債權者ノ先取特權ハ運送貨ニ付テハ其先取特權ノ生シタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニノミ存在ス

第八百四十四條 船舶債權者ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第八百四十二條ニ掲ケタル順序ニ從フ但同條第四號乃至第六號ヲ債權間ニ在リテハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ

同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク但第八百四十二條第四號乃至第六號ノ債權カ同時ニ生セザリシ場合ニ於テハ後ニ生シタルモノ前ニ生シタルモノニ先ツ

先取特權カ數回ノ航海ニ付テ生シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ハラス後ノ航海ニ付テ生シタルモノ前ノ航海ニ付テ生シタルモノニ先ツ

第八百四十五條 船舶債權者ノ先取特權ト他ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ船舶債權者ノ先取特權ハ他ノ先取特權ニ先ツ

第八百四十六條 船舶所有者カ其船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ讓受人ハ其讓渡ヲ登記シタル後先取特權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一

個月ヲ下ルコトヲ得ス

先取特權者カ前項ノ期間内ニ其債權ノ申出ヲ爲サザリシトキハ其先取特權ハ消滅ス

第八百四十七條 船舶債權者ノ先取特權ハ其發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第八百四十八條 先取特權ハ船舶ノ發航ニ因リテ消滅ス

第八百四十九條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

船舶ノ抵當權ハ其屬具ニ及フ

船舶ノ抵當權ニハ不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

第八百四十九條 船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得

第八百五十條 登記シタル船舶ハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第八百五十一條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

附則 (明治四十四年法律第七十三號附則)

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十四年勅令第二百十九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

第二條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ

其施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但從前ノ規定ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス

第三條 本法施行前ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ第四十四條ノ第三項及ヒ第三項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス

第四條 第九十一條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ清算終了ノ登記ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第五條 第九十九條ノ三第二項及ヒ第九十九條ノ四乃至第九十九條ノ六ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル設立無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス

第六條 前二條ノ規定ハ合資會社ニ之ヲ準用ス

第七條 本法施行前ニ株式會社ノ發起人カ定款ヲ作りタル場合ニ於テハ其設立立ニハ從前ノ規定ヲ適用ス

前項ノ規定ハ第二百二十六條ノ二及ヒ第四百二十二條ノ二乃至第四百二十二條ノ四ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第八條 第二百五十二條第三項及ヒ第二百五十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ第百

五十二條第一項ノ催告ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第九條 第六十三條及ヒ第六十三條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル事由ニ基キ其施行後ニ決議無効ノ訴ヲ提起スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十條 第九十九條ノ三第二項、第九十九條ノ四及ヒ第六十三條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ提起シタル決議無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但其訴ニ付キ爲シタル判決カ本法施行前ニ確定シタルトキハ此限ニ在ラス

第十一條 前二條ノ規定ハ創立總會ノ決議無効ノ訴ニ之ヲ準用ス

第十二條 第六十七條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ノ任務カ本法施行後ニ終了シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十三條 第七十七條及ヒ第八十六條ノ規定ハ本法施行前ニ選任シタル取締役又ハ監査役ノ行為カ本法施行後ニ在リタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 本法施行前ニ株式會社カ社債

募集ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其募集ヲ爲スコトヲ得但未タ社債募集ノ公告ヲ爲サザルトキハ第二百三條、第二百三條ノ二、第二百四條ノ二及ヒ第二百七條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第十五條 本法施行前ニ株式會社カ資本増加ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ從ヒテ其増加ヲ爲スコトヲ得

第十六條 第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ本法施行前ニ資本減少ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス但株主總會ノ決議ニ反スルトキハ此限ニ在ラス

第十七條 第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ券面額五十圓未滿ノ株式ヲ併合スル場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 本法施行前ニ株式會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テモ株主ハ其記名株ヲ讓渡スコトヲ得

第十九條 附則第十六條ノ規定ハ會社ノ合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條第三項ノ規定ハ本法施行前ニ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニモ

亦之ヲ適用ス

第二十條 本法施行前ニ株式會社ノ設立ノ無効ナルコトヲ發見シタル場合ニ於テ裁判所カ未ダ清算人ヲ選任セザリシトキハ設立無効ノ主張ニ付テハ本法ノ規定ヲ適用ス

第二十一條 附則第九條、第十條、第十二條及第十三條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 附則第四條及第五條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第二十三條 前十六條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第二十四條 本法施行前ニ會社ニ關スル從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第二十五條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二及ヒ第四百八十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ第一ノ買入裏書アリタル買入證券ノ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ其證券ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十六條 買入證券所持人ノ裏書人ニ對スル請求權ハ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケタル日カ本法施行前ニ在リタル場合

第三十四條 第五百三十三條ノ三及ヒ第五百三十四條第二項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル小切手ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

附則 (昭和十三年四月五日) 法律第七十二號附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一條 この法律は、公布の日から、これを施行する。
第二條 この附則で新法とは、この法律による改正後の規定をいい、舊法とは、従前の規定をいう。
第三條 新法施行の際、株金全額の拂込の完了していない株式に關しては、新

ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六個月本法施行後ニ在ル場合ニ於テハ辨濟ヲ受ケタル日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

買入證券裏書人ノ其前者ニ對スル請求權ハ本法施行前ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其施行ノ日ヨリ六個月本法施行後ニ償還ヲ爲シタル場合ニ於テハ其償還ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ六個月ヨリ短キトキハ時効ハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第二十七條 第三百六十七條ノ三、第三百八十八條ノ二及ヒ第三百八十條ノ三ノ規定ハ本法施行前ニ作リタル預證券又ハ買入證券ニモ亦之ヲ適用ス但其證券ニ別段ノ意思表示アルトキハ此限ニ在ラス

第二十八條 第四百十七條ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル保險料返還ノ義務ニ付キ其施行後ニ時効カ進行ヲ始ムル場合ニモ亦之ヲ適用ス

本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効ノ殘期カ其施行ノ日ヨリ起算シテ二年ヨリ

法施行の後もなお、舊法を適用する。新法施行前に行われた設立又は資本増額の引受のあつた株式で一時に全額を拂い込ませぬものに關しても、また同様である。

前項に定めるものの外、新法施行前に生じた事項については、舊法を適用する。

第四條 前條第一項に規定する株式については會社は新法施行の日から二年内に株金全額拂込済のものとするため、株金の拂込をなさしめ、又は資本を減少する等必要な措置を講じなければならぬ。

前項に規定する期間内に、同項に定める措置を講じなかつた場合における措置に關しては、別に法律を以てこれを定める。

第五條 舊法第二百九十七條第一項第二項及び第三百一一條第一項第十號の規定は、株金全額の拂込の完了していない株式のある會社の社債の發行に關しては、新法施行後も、なおその效力を有する。

第六條 新法施行の際、他の法令中に商法の規定を準用する旨定めた規定があ

長キトキハ時効ハ其施行ノ日ヨリ二年ヲ經過スルニ因リ二年ヨリ短キトキハ其殘期ヲ經過スルニ因リテ完成ス

前二項ノ規定ハ第四百三十二條ノ二ノ義務ニ之ヲ準用ス

第二十九條 第四百二十八條乃至第四百二十八條ノ四ノ規定ハ本法施行前ニ爲シタル保險契約ニハ之ヲ適用セス

第三十條 本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ引受拒絶證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テハ擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要セス本法施行後ニ擔保ヲ供セサル爲メ拒絶證書ヲ作ラシメタル場合亦同シ

第三十一條 第四百八十七條乃至第四百八十八條ノ二、第四百八十八條ノ四及ヒ第四百八十九條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ所持人カ本法施行後ニ支拂ヲ求ムル爲メ之ヲ呈示スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條 第五百十五條乃至第五百十五條ノ五及ヒ第五百十七條第一項ノ規定ハ本法施行前ニ振出シタル爲替手形ニ付キ其施行後ニ拒絶證書ヲ作ル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十三條 前三條ノ規定ハ約束手形ニ

る場合においては、その規定は、既に引受のあつた株式又は出資についてののみ新法施行後もなお舊法を準用するものとし、その限りにおいて舊法はなおその效力を有する。

有限會社法 (昭和十三年四月五日)

法律第七十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル有限會社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條

本法ニ於テ有限會社トハ商行爲其ノ他ノ營利行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ本法ニ依リ設立シタル社團ヲ謂フ

第二條

有限會社ハ商行爲ヲ爲スヲ業トセザルモ之ヲ商人ト看做ス

第三條

有限會社ノ商號中ニハ有限會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス 有限會社ニ非ザル者ハ商號中ニ有限會社タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ有限會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同シ

第四條

商法第五十四條第二項、第五十五條及第五十七條乃至第六十一條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第二章 設立

第五條 有限會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

商法第六十七條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第六條

定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス

一 目的

二 商號

三 資本ノ總額

四 出資一口ノ金額

五 社員ノ氏名及住所

六 各社員ノ出資ノ口數

七 本店及支店ノ所在地

第七條

左ノ事項ハ之ヲ定款ニ記載スルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ 一 存立時期又ハ解散ノ事由 二 現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的タル財產、其ノ價格及之ニ對シテ與フル出資口數 三 會社ノ成立後ニ讓受クルコトヲ約シタル財產、其ノ價格及讓渡人ノ氏名 四 會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用

第八條

社員ノ總數ハ五十人ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ裁判所ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ 前項ノ規定ハ遺產相續又ハ遺贈ニ因リ

社員ノ數ニ變更ヲ生ズル場合ニハ之ヲ適用セズ

第九條

資本ノ總額ハ一萬圓ヲ下ルコトヲ得ズ

第十條

出資一口ノ金額ハ均一トシ百圓ヲ下ルコトヲ得ズ

第十一條

定款ヲ以テ取締役ヲ定メザルトキハ會社成立前社員總會ヲ開キ之ヲ選任スルコトヲ要ス 前項ノ社員總會ハ各社員之ヲ招集スルコトヲ得

第十二條

取締役ハ社員ヲシテ出資金額ノ拂込又ハ現物出資ノ目的タル財產全部ノ給付ヲ爲サシムルコトヲ要ス 商法第七十二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條

有限會社ノ設立ノ登記ハ前條ノ拂込又ハ給付アリタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス 前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第六條第一號乃至第四號ニ掲グル事項

二 本店及支店

三 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

四 取締役ノ氏名及住所

五 取締役ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名

六 數人ノ取締役ガ共同シ又ハ取締役ガ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ規定

七 監査役アルトキハ其ノ氏名及住所

商法第九條乃至第十五條、第六十四條第二項及第六十五條乃至第六十七條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第十四條

第七條第二號及第三號ノ財產ノ會社成立當時ニ於ケル實價ガ定款ニ定メタル價格ニ著シク不足スルトキハ會社成立當時ノ社員ハ會社ニ對シ連帶シテ其ノ不足額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第十五條

第十二條第一項ノ規定ニ依ル拂込又ハ給付ノ未済ナル出資アルトキハ會社成立當時ノ取締役、監査役及社員ハ連帶シテ拂込ヲ爲シ又ハ給付未済財產ノ價額ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ

第十六條

前二條ニ定ムル義務ハ會社成立ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ免除スルコトヲ得ズ

第三章 社員ノ權利義務

第十七條

社員ノ責任ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ出資ノ金額ヲ限度トス

第十八條

各社員ハ其ノ出資ノ口數ニ應ジテ持分ヲ有ス

第十九條

社員ハ第四十八條ニ定ムル社員總會ノ決議アルトキニ限リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但シ定款ヲ以テ讓渡ノ制限ヲ加重スルコトヲ妨ゲズ

第二十條

因リ社員ノ總數ガ第八條第一項ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユル場合ニ於テハ遺贈ノ場合ヲ除クノ外其ノ讓渡ヲ無効トス

社員相互間ノ持分ノ讓渡ニ付テハ第一項ノ規定ニ拘ラズ定款ヲ以テ別段ノ定メ爲スコトヲ得

第二十二條 商法第二百三條ノ規定ハ持分ガ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ之ヲ準

第二十三條

持分ハ之ヲ以テ實權ノ目的ト爲スコトヲ得

第二十四條

商法第二百八條、第二百九條第一項第二項、第二百十條、第二百十一條及第二百十二條第一項ノ規定ハ社員ノ持分ニ之ヲ準用ス

第二十五條

會社ノ管理ノ取締役ヲ置クコトヲ要ス

第二十六條

取締役數人アル場合ニ於テ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務執行ハ取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二十七條

取締役ハ會社ヲ代表ス

第二十八條

取締役ハ定款及社員總會ノ議事録ヲ本店及支店ニ、社員名簿ヲ本店ニ備置クコトヲ要ス

第二十九條

社員名簿ニハ社員ノ氏名及住所並ニ其ノ出資ノ口數ヲ記載スルコトヲ要ス 社員及會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ第一項ニ掲グル書類ノ閱覽ヲ求

二十九條

取締役ハ社員總會ノ認許アルニ非ザレバ自己若ハ第三者ノ爲ニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員若ハ取締役ト爲ルコトヲ得ズ

取締役ガ前項ノ規定ニ違反シテ自己ノ爲ニ取引ヲ爲シタルトキハ社員總會ハ之ヲ以テ會社ノ爲ニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定ムル權利ハ監査役アルトキハ監査役ノ一人、監査役ナキトキハ他ノ取締役ノ一人ガ其ノ取引ヲ知リタル時ヨリ二月間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同ジ

第三十條 取締役ハ監査役アルトキハ其ノ承認、監査役ナキトキハ社員總會ノ認許ヲ得タルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲ニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第百八條ノ規定ヲ適用セズ

第三十一條 社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ガ訴ノ提起ヲ會社ニ請求シタルトキハ會社ハ請求ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨グズ

第三十二條 商法第百五十四條、第百五十七條、第百五十八條、第百六十一條、第百六十二條、第百六十六條、第百六十七條、第百六十八條、第百六十九條、第百七十條、第百七十一條、第百七十二條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス

第三十三條 有限會社ハ定款ニ依リ一人又ハ數人ノ監査役ヲ置クコトヲ得

第十一條ノ規定ハ定款ニ於テ監査役ヲ置クコトヲ定メタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 第三十一條並ニ商法第百五十四條、第百五十七條、第百五十八條、第百六十六條、第百六十七條、第百六十八條、第百六十九條、第百七十條、第百七十一條、第百七十二條、第百七十三條、第百七十四條、第百七十五條、第百七十六條、第百七十七條、第百七十八條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス

第三十五條 社員總會ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外取締役之ヲ招集スルコトヲ要ス

第三十六條 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ一週間前ニ各社員ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但シ此ノ期間ハ定款ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ妨グズ

第三十七條 資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ハ會議ノ目的タル事項及招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

第三十八條 總會ハ社員ノ同意アルトキハ招集ノ手續ヲ經ズシテ之ヲ開クコトヲ得

第三十九條 各社員ハ出資一口ニ付一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ヲ以テ議決權ノ數ニ付別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨グズ

第四十條 有限會社ガ左ノ行爲ヲ爲スニハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

一 營業ノ全部又ハ一部ノ讓渡
二 營業全部ノ貸貸、其ノ經營ノ委任
他人ト營業上ノ損益全部ヲ共通ニスル契約其ノ他之ニ準ズル契約ノ締結變更又ハ解約
三 他ノ會社ノ營業全部ノ讓受

リ一週間前ニ各社員ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但シ此ノ期間ハ定款ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ妨グズ

第三十七條 資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ハ會議ノ目的タル事項及招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

第三十八條 總會ハ社員ノ同意アルトキハ招集ノ手續ヲ經ズシテ之ヲ開クコトヲ得

第三十九條 各社員ハ出資一口ニ付一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ヲ以テ議決權ノ數ニ付別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨グズ

第四十條 有限會社ガ左ノ行爲ヲ爲スニハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

一 營業ノ全部又ハ一部ノ讓渡
二 營業全部ノ貸貸、其ノ經營ノ委任
他人ト營業上ノ損益全部ヲ共通ニスル契約其ノ他之ニ準ズル契約ノ締結變更又ハ解約
三 他ノ會社ノ營業全部ノ讓受

第四十一條 商法第百三十四條乃至第百三十六條、第百三十八條、第百三十九條、第百四十條、第百四十一條、第百四十二條、第百四十三條、第百四十四條、第百四十五條、第百四十六條、第百四十七條、第百四十八條、第百四十九條、第百五十條、第百五十一條、第百五十二條、第百五十三條、第百五十四條、第百五十五條、第百五十六條、第百五十七條、第百五十八條、第百五十九條、第百六十條、第百六十一條、第百六十二條、第百六十三條、第百六十四條、第百六十五條、第百六十六條、第百六十七條、第百六十八條、第百六十九條、第百七十條、第百七十一條、第百七十二條、第百七十三條、第百七十四條、第百七十五條、第百七十六條、第百七十七條、第百七十八條、第百七十九條、第百八十條、第百八十一條、第百八十二條、第百八十三條、第百八十四條、第百八十五條、第百八十六條、第百八十七條、第百八十八條、第百八十九條、第百九十條、第百九十一條、第百九十二條、第百九十三條、第百九十四條、第百九十五條、第百九十六條、第百九十七條、第百九十八條、第百九十九條、第百百條ノ規定ハ總會ニ之ヲ準用ス

第四十二條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 有限會社ノ業務ノ執行ニ關シ不正ノ行爲又ハ法令若ハ定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑フベキ事由アルトキハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲裁判所ニ検査役ノ選任ヲ請求スルコトヲ得

検査役ハ其ノ調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ監査役アルトキハ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ要ス

第四十六條 總會ハ社員ノ同意アルトキハ招集ノ手續ヲ經ズシテ之ヲ開クコトヲ得

第四十七條 各社員ハ出資一口ニ付一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ヲ以テ議決權ノ數ニ付別段ノ定ヲ爲スコトヲ妨グズ

第四十八條 有限會社ガ左ノ行爲ヲ爲スニハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

一 現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的タル財産、其ノ價格及之ニ對シ

第四十九條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第五十條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第五十一條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第五十二條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第五十三條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第五十五條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第五十九條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第六十條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第六十三條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第六十四條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第六十五條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

第六十六條 總會ノ決議ヲ爲スベキ場合ニ於テ社員ノ同意アルトキハ書面ニ依ル決議ヲ爲スコトヲ得

テ與フル出資口數

二 資本ノ増加後ニ讓受タルコトヲ約シタル財産、其ノ價格及讓渡人ノ氏名

三 増加スル資本ニ付投資ノ引受ヲ爲ス權利ヲ與フベキ者及其ノ權利ノ内容

第五十條

有限會社ガ特定ノ者ニ對シ將來其ノ資本ヲ増加スル場合ニ於テ出資ノ引受ヲ爲ス權利ヲ與フベキコトヲ約スルニハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

第五十一條

社員ハ増加スル資本ニ付其ノ持分ニ應ジテ出資ノ引受ヲ爲ス權利ヲ有ス但シ前二條ノ決議ニ依リ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十二條

資本増加ノ場合ニ於テ出資ノ引受ヲ爲サントスル者ハ引受ヲ證スル書面ニ其ノ引受クベキ出資ノ口數及住所ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス有限會社ハ廣告其ノ他ノ方法ニ依リ引受人ヲ公募スルコトヲ得ズ

第五十三條

有限會社ハ出資出額ノ拂込又ハ現物出資ノ目的タル財産ノ給付アリタル日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内

ニ資本増加ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 増加シタル資本ノ額

二 資本増加ノ決議ノ年月日

第五十四條 第四十九條第一號及第二號ノ財産ノ資本増加當時ニ於ケル實價ガ資本増加ノ決議ニ依リ定メタル價格ニ著シク不足スルトキハ其ノ決議ニ同意シタル社員ハ會社ニ對シ連帶シテ其ノ不足額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第五十五條

引受ナキ出資又ハ出資全額ノ拂込若ハ現物出資ノ目的タル財産ノ給付ノ未済ナル出資アルトキハ取締役及監査役ハ連帶シテ其ノ引受ヲ爲シ又ハ拂込若ハ給付未済財産ノ價額ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ

第五十六條

第十六條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條

第十二條及第四十條第三項並ニ商法第二百條第二項、第三百五十二條、第三百五十八條第一項、第三百七十一條、第三百七十二條、第三百七十三條第一項及第三百七十四條ノ規定ハ資本増加ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條

商法第三百七十六條第一項

第二項、第三百七十九條第一項第二項及第三百八十條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六章 合併及組織變更

第五十九條

有限會社ハ他ノ有限會社ト合併ヲ爲スコトヲ得但シ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ有限會社ナルコトヲ要ス

會社ガ前項ノ規定ニ依リ合併ヲ爲スニハ第四十八條ニ定ムル決議アルコトヲ要ス

合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關スル行爲ハ各會社ニ於テ選任シタル設立委員共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十八條ノ規定ハ前項ノ選任ニ之ヲ準用ス

第六十條

有限會社ハ株式會社ト合併ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ合併ヲ爲ス株式會社又ハ合併ニ因リテ設立スル株式會社ニ關シテハ商法ノ規定ニ從フコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ガ株式會社ナルトキハ合併ハ裁判所ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ社債ノ償還ヲ完了セザル株式會社ナルトキハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ有限會社タルコトヲ得ズ

前條第二項乃至第四項ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條

前條第一項ノ場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ガ有限會社ナルトキハ商法第二百八條ノ規定ハ從前ノ株式ヲ目的トスル實權ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ實權ノ目的タル持分ニ付投資口數並ニ實權者ノ氏名及住所ヲ社員名簿ニ記載スルニ非ザレバ其ノ實權ヲ以テ會社其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第六十二條

有限會社ガ合併ヲ爲シタルトキハ第六十三條ニ於テ準用スル商法第四百十二條又ハ第四百十三條ノ規定ニ依ル社員總會ノ終結ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ合併後存續スル有限會社ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ消滅スル有限會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル有限會社ニ付テハ第十三條第二項ニ定ムル登記

第六十三條

商法第九十八條第二項、第九十九條、第一百條、第一百零二條乃至第一百零九條、第三百七十九條第一項第二項、第四百八條乃至第四百十條、第四百十二條、第四百十三條及第四百十五條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第六十四條

株式會社ハ總株主ノ一致ニ依ル總會ノ決議ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ有限會社ト爲スコトヲ得但シ社債ノ償還ヲ完了セザル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ組織變更ノ場合ニ於テハ會社ニ現存スル純財産額ヨリ多キ金額ヲ以テ資本ノ總額ト爲スコトヲ得ズ

第一項ノ決議ニ於テハ定款其ノ他組織ノ變更ニ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第六十一條

規定ハ第一項ノ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條

前條ノ組織變更ノ場合ニ於テ會社ニ現存スル純財産額ガ資本ノ總額ニ不足スルトキハ前條第一項ノ決議當時ノ取締役、監査役及株主ハ會社ニ對シ連帶シテ其ノ不足額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第十六條

規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十六條

株式會社ガ第六十四條ノ規定ニ依リ其ノ組織ヲ變更シタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ株式會社ニ付テハ解散ノ登記、有限會社ニ付テハ第十三條第二項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六十七條

有限會社ハ總社員ノ一致ニ依ル總會ノ決議ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ會社ニ現存スル純財産額ヨリ多キ金額ヲ以テ資本ノ總額ト爲スコトヲ得ズ

第一項ノ組織變更ハ裁判所ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

第六十一條第一項、第六十四條第三項、第六十五條及前條並ニ商法第二百九條第三項ノ規定ハ第一項ノ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條

商法第九十九條及第一百條ノ規定ハ第六十四條及前條ノ組織變更ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七章 解散

第六十九條 有限會社ハ左ノ事由ニ因リ

テ解散ス

- 一 存立時期ノ滿了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生
 - 二 社員總會ノ決議
 - 三 會社ノ合併
 - 四 營業全部ノ讓渡
 - 五 社員ガ一人ト爲リタルコト
 - 六 會社ノ破産
 - 七 解散ヲ命ズル裁判
- 前項第二號ノ決議ハ第四十八條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第七十條 前條第一項第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ第四十八條ニ定ムル決議ニ依リテ會社ヲ繼續スルコトヲ得前條第一項第五號ノ場合ニ於テハ新ニ社員ヲ加入セシメテ會社ヲ繼續スルコトヲ得
- 第七十一條 有限會社ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後ト雖モ前條ノ規定ニ從ヒテ會社ヲ繼續スルコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於テハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間内ニ繼續ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
- 第七十二條 有限會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外取締役

其ノ清算人ト爲ル但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ社員總會ニ於テ他人ヲ委任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ依リ清算人ヲ選任ス

第七十三條 殘餘財産ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出資ノ口數ニ應ジテ之ヲ社員ニ分配スルコトヲ要ス

第七十四條 清算人ハ裁判所ノ選任シタルモノヲ除クノ外何時ニテモ社員總會ノ決議ニ依リテ之ヲ解任スルコトヲ得重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ社員ノ請求ニ依リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第七十五條 商法第九十六條、第一百六條、第二百二十二條乃至第二百二十五條、第二百二十八條、第二百二十九條第二項第三項、第三百一十一條、第三百三十四條、第四百四十四條乃至第四百四十二條、第四百四十八條乃至第四百二十四條及第四百二十七條乃至第四百二十九條ノ規定ハ有限會社ニ之ヲ準用ス

第七十六條 商法第四百七十九條乃至第四百八十二條、第四百八十四條及第四百八十五條ノ規定ハ有限會社ト同種ノ又ハ之ニ類似スル外國會社ニ之ヲ準用ス

第九章 罰則

第七十七條 取締役、監査役又ハ第三十二條若ハ第三十四條ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十七條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者若ハ支配人其ノ他營業ニ關スル或種類若ハ特定ノ事項ノ委任ヲ受ケタル使用人自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ會社ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ會社ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタル

トキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條第三項若ハ第六十條第四項ノ設立委員、第六十條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ商法第五十六條第三項ノ設立委員、清算人又ハ第七十五條第二項ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者前項ニ掲グル行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七十八條 前條第一項ニ掲グル者ハ左ノ場合ニ於テハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 會社ノ設立又ハ資本増加ノ場合ニ於テ出資總口數ノ引受、出資ノ拂込若ハ現物出資ノ給付ニ付又ハ第七條第二號乃至第四號若ハ第四十九條第一號第二號ニ掲グル事項ニ付裁判所ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 二 何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ會社ノ計算ニ於テ不正ニ其ノ持分ヲ取得シ又ハ實權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

三 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキ

四 會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投資取引ノ爲ニ會社財産ヲ處分シタルトキ

有限會社ノ取締役、監査役若ハ第三十二條若ハ第三十四條ニ於テ準用スル商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者又ハ株式會社ノ取締役、監査役若ハ商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項、第二百七十二條第一項若ハ第八十條ノ職務代行者ガ第六十四條又ハ第六十七條ノ組織變更ノ場合ニ於テ第六十四條第二項又ハ第六十七條第二項ノ純財産額ニ付裁判所又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條 第七十七條第一項ニ掲グル者出資ノ拂込ヲ假裝スル爲メ預合ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス預合ニ應ジタル者亦同シ

第八十條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第八十一條 第七十七條第一項若ハ第二

項ニ掲グル者又ハ検査役其ノ職務ニ關シ不正ノ誹託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同シ

第八十二條 左ニ掲グル事項ニ關シ不正ノ誹託ヲ受ケ財産上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 社員總會ニ於ケル發言若ハ議決權ノ行使、第四十二條第一項ノ規定ニ依ル議決權ノ行使又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル同意ノ表示
- 二 本法ニ定ムル訴ノ提起又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル出資口數ヲ有スル社員ノ權利ノ行使

第八十三條 第八十一條第一項又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ犯人ノ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第八十四條 第八十一條第二項又ハ第八

十二條第二項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第八十五條 第七十七條第一項若ハ第二項ニ掲グル者、外國會社ノ代表者、検査役又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ五千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行為ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 本法ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
二 本法ニ定ムル公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ

三 本法ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ書類ノ閲覧又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ拒ミタルトキ
四 本法ニ定ムル調査ヲ妨グタルトキ

五 官廳又ハ社員總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
六 第二十一條ノ規定ニ違反シテ持分ニ付指圖式又ハ無記名式ノ證券ヲ發行シタルトキ

七 第二十四條第一項ニ於テ準用スル商法第二百一十一條ノ規定ニ違反シテ持分失効ノ手續又ハ持分若ハ質權ノ處分ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

八 第二十四條第一項ニ於テ準用スル商法第二百一十二條第一項ノ規定ニ違反シテ出資ノ消却ヲ爲シタルトキ

九 定款ニ定ムル取締役又ハ監査役ノ員數ヲ缺クニ至リタル場合ニ於テ其ノ選任手續ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

十 定款、社員名簿、議事録、財産目録、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書、準備金及利益ノ配當ニ關スル議案、決算報告書又ハ商法第三十二條第一項ノ帳簿ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十一 定款、社員名簿、議事録、財産目録、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書、準備金及利益ノ配當ニ關スル議案又ハ監査役ノ報告書ヲ備置カザルトキ

十二 第四十一條ニ於テ準用スル商法第二百三十四條ノ規定又ハ第四十五條第三項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シテ社員總會ヲ招集セザルトキ

十三 第四十六條第一項ニ於テ準用スル商法第二百八十八條第一項又ハ第一

項ノ規定ニ依リ爲スベキ公告ハ裁判所ガ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十九條 有限會社ハ商法ヲ除クノ外他ノ法律ノ適用ニ付テハ之ヲ商法ノ會社ト看做ス

附 則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(昭和十四年勅令第五百十號ヲ以テ同十五年一月一日ヨリ施行ス)

二百八十九條ノ規定ニ違反シテ準備金ヲ積立テズ又ハ之ヲ使用シタルトキ

十四 第五十二條第二項ノ規定ニ違反シテ出資ノ引受人ヲ公募シタルトキ

十五 第五十八條、第六十三條又ハ第六十八條ニ於テ準用スル商法第九十九條又ハ第一百條ノ規定ニ違反シテ資本ノ減少、合併又ハ組織變更ヲ爲シタルトキ

十六 第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第二百二十四條第三項ノ規定ニ違反シテ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

十七 第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第三百一十一條ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ分配シタルトキ

十八 裁判所ノ選任シタル管理人又ハ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲サザルトキ

十九 清算ノ終了ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十一條第一項ノ期間ヲ不實ニ定メタルトキ

二十 第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十三條ノ規定ニ違反シテ債務ノ辨濟ヲ爲シタルトキ

二十一 第七十六條ニ於テ準用スル商法第四百八十四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

株式會社ノ取締役、商法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者、清算人又ハ同法第四百三十條第二項ニ於テ準用スル同法第二百五十八條第二項、第二百七十條第一項若ハ第二百七十二條第一項ノ職務代行者ガ第六十條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ又ハ第六十八條ニ於テ準用スル商法第九十九條又ハ第一百條ノ規定ニ違反シテ合併又ハ組織變更ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ

第八十六條 第三條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第十條 雜 則
第八十七條 本法ニ依リ署名スベキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第八十八條 第五十八條、第六十三條若ハ第六十八條ニ於テ準用シ若ハ第六十條第一項ノ規定ニ依リ從フベキ商法第一百條第一項ノ規定又ハ第七十五條第一項ニ於テ準用スル商法第四百二十一條

有限會社法

手形法

(昭和七年七月十五日) 法律第二十號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル手形法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

手形法

第一章 爲替手形

第一條 爲替手形ノ振出及方式

一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル爲替手形ナルコトヲ示ス文字

二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル委託

三 支拂ヲ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱

四 満期ノ表示

五 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示

六 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指スル者ノ名稱

七 手形ヲ振出ス日及地ノ表示

八 手形ヲ振出ス者(振出人)ノ署名

前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ爲替手形タル効力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

ノ文言ハ之ヲ記載セザルモノト看做スニ豫メ爲シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人が惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ爲替手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 裏書

第十一條 爲替手形ハ指圖式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得

振出人ガ爲替手形ニ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルトキハ其ノ證券ハ指名債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ効力ヲ以テノミ之ヲ讓渡スルコトヲ得

裏書ハ引受ヲ爲シタル又ハ爲サザル支拂人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得

第十二條 裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス

持參人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ効力ヲ有ス

第十三條 裏書ハ爲替手形又ハ之ト結合シタル紙片(補箋)ニ之ヲ記載シ裏書人署名スルコトヲ要ス

裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(白地式裏書)此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ爲替手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ効力ヲ有セズ

第十四條 裏書ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ移轉ス

裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ一自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充スルコトヲ得

二 白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得

三 白地ヲ補充セズ且裏書ヲ爲サズシテ手形ヲ第三者ニ讓渡スルコトヲ得

第十五條 裏書人ハ反對ノ文言ナキ限り引受及支拂ヲ擔保ス

裏書人ハ新ナル裏書ヲ禁ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ裏書人ハ手形ノ爾後ノ被裏書人ニ對シ擔保ノ責ヲ負フコトナシ

第十六條 爲替手形ノ占有者ガ裏書ノ連

利息ハ別段ノ日附ノ表示ナキトキハ手形振出ノ日ヨリ發生ス

第六條 爲替手形ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額トス

爲替手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ手形金額トス

第七條 爲替手形ニ手形債務ヲ負擔スル能力ナキ者ノ署名、偽造ノ署名、假設人ノ署名又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ爲替手形ノ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲其ノ効力ヲ妨ゲラズルコトナシ

第八條 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ爲替手形ニ署名シタルトキハ自ら其ノ手形ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支拂ヲ爲シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス權限ヲ超ニタル代理人ニ付亦同シ

第九條 振出人ハ引受及支拂ヲ擔保ス振出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ヲ記載スルコトヲ得支拂ヲ擔保セザル旨ノ一切

續ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ適法ノ所持人ト看做ス最後ノ裏書ガ白地式ナル場合ト雖モ亦同ジ抹消シタル裏書ハ此ノ關係ニ於テハ之ヲ記載セザルモノト看做ス白地式裏書ニ次デ他ノ裏書アルトキハ其ノ裏書ヲ爲シタル者ハ白地式裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタルモノト看做ス

事由ノ何タルヲ問ハズ爲替手形ノ占有ヲ失ヒタル者アル場合ニ於テ所持人ガ前項ノ規定ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ手形ヲ返還スル義務ヲ負フコトナシ但シ所持人が惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ之ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 爲替手形ニ依リ請求ヲ受ケタル者ハ振出人其ノ他所持人ノ前者ニ對スル人的關係ニ基テ抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人が其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知リテ手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 裏書ニ「回收ノ爲」、「取立ノ爲」、「代理ノ爲」其ノ他單ナル委任ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代理ノ爲ノ裏書ノミ

満期ノ記載ナキ爲替手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做ス

支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ニシテ且支拂人ノ住所タルモノト看做ス

振出地ノ記載ナキ爲替手形ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第三條 爲替手形ハ振出人ノ自己指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得

爲替手形ハ振出人ノ自己宛ニテ之ヲ振出スコトヲ得

爲替手形ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得

第四條 爲替手形ハ支拂人ノ住所地ニ在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトヲ問ハズ

第五條 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ於テハ振出人ハ手形金額ニ付利息ヲ生ズベキ旨ノ約定ヲ記載スルコトヲ得其ノ他ノ爲替手形ニ於テハ此ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

利率ハ之ヲ手形ニ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第九條 振出人ハ引受及支拂ヲ擔保ス振出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ヲ記載スルコトヲ得支拂ヲ擔保セザル旨ノ一切

ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ債務者ガ所持人ニ
對抗スルコトヲ得ル抗辯ハ裏書人ニ對
抗スルコトヲ得ベカリシモノニ限ル
代理ノ爲メ裏書ニ依ル委任ハ委任者ノ
死亡又ハ其ノ者ガ無能力ト爲リタルコ
トニ因リ終了セズ

第十九條 裏書ニ「擔保ノ爲メ」「質入ノ
爲メ」其ノ他質權ノ設定ヲ示ス文言アル
トキハ所持人ハ爲替手形ヨリ生ズル一
切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持
人ノ爲メシタル裏書ハ代理ノ爲メ裏書ト
シテノ效力ノミヲ有ス

債務者ハ裏書人ニ對スル人的關係ニ基
ク抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ
得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スル
コトヲ知りテ手形ヲ取得シタルトキハ
此ノ限ニ在ラズ

第二十條 満期後ノ裏書ハ満期前ノ裏書
ト同一ノ效力ヲ有ス但シ支拂拒絶證書
作成後ノ裏書又ハ支拂拒絶證書作成期
間經過後ノ裏書ハ指名債權ノ讓渡ノ效
力ノミヲ有ス
日附ノ記載ナキ裏書ハ支拂拒絶證書作
成期間經過前ニ之ヲ爲シタルモノト推
定ス

第三章 引受

第二十一條 爲替手形ノ所持人又ハ單ナ
ル占有者ハ満期ニ至ル迄引受ノ爲メ支拂
人ニ其ノ住所ニ於テ之ヲ呈示スルコト
ヲ得

第二十二條 振出人ハ爲替手形ニ期間ヲ
定メ又ハ定メズシテ引受ノ爲メ之ヲ呈示
スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得

振出人ハ手形ニ引受ノ爲メ呈示ヲ禁ズ
ル旨ヲ記載スルコトヲ得但シ手形ガ第
三者方ニテ若ハ支拂人ノ住所地ニ非ザ
ル地ニ於テ支拂フベキモノナルトキ又
ハ一覽後定期拂ナルトキハ此ノ限ニ在
ラス
振出人ハ一定ノ期日前ニハ引受ノ爲メ
呈示ヲ爲スベカラザル旨ヲ記載スルコ
トヲ得

各裏書人ハ期間ヲ定メ又ハ定メズシテ
引受ノ爲メ手形ヲ呈示スベキ旨ヲ記載ス
ルコトヲ得但シ振出人ガ引受ノ爲メ呈
示ヲ禁ズタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第二十三條 一覽後定期拂ノ爲替手形ハ
其ノ日附ヨリ一年内ニ引受ノ爲メ之ヲ呈
示スルコトヲ要ス
振出人ハ前項ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長
スルコトヲ得

裏書人ハ前二項ノ期間ヲ短縮スルコト
ヲ得

第二十四條 支拂人ハ第一ノ呈示ノ翌日
ニ第二ノ呈示ヲ爲スベキコトヲ請求ス
ルコトヲ得利害關係人ハ此ノ請求ガ拒
絶證書ニ記載セラレタルトキニ限り之
ニ應ズル呈示ナカリシコトヲ主張スル
コトヲ得

所持人ハ引受ノ爲メ呈示シタル手形ヲ
支拂人ニ交付スルコトヲ要セズ

第二十五條 引受ノ爲メ爲替手形ニ之ヲ記載
スベシ引受ハ「引受」其ノ他之ト同一ノ
意義ヲ有スル文字ヲ以テ表示シ支拂人
署名スベシ手形ノ表面ニ爲シタル支拂
人ノ單ナル署名ハ之ヲ引受ト看做ス
一覽後定期拂ノ手形又ハ特別ノ記載ニ
從テ一定ノ期間内ニ引受ノ爲メ呈示ヲ
爲スベキ手形ニ於テハ所持人ガ呈示ノ
日ノ日附ヲ記載スベキコトヲ請求シタ
ル場合ヲ除ク外引受ニハ之ヲ爲シタ
ル日ノ日附ヲ記載スルコトヲ要ス日附
ノ記載ナキトキハ所持人ハ裏書人及振
出人ニ對スル請求權ヲ保全スル爲メハ
適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絶證書ニ
依リ其ノ記載ナカリシコトヲ證スルコ
トヲ要ス

第二十六條 引受ハ單純ナルベシ但シ支
拂人ハ之ヲ手形金額ノ一部ニ制限スル
コトヲ得

引受ニ依リ爲替手形ノ記載事項ニ加ヘ
タル他ノ變更ハ引受ノ拒絶タル效力ヲ
有ス但シ引受人ハ其ノ引受ノ文言ニ從
ヒテ責任ヲ負フ

第二十七條 振出人ガ支拂人ノ住所地ト
異ル支拂地ヲ爲替手形ニ記載シタル場
合ニ於テ第三者方ニテ支拂ヲ爲スベキ
旨ヲ定メザリシトキハ支拂人ハ引受ヲ
爲スニ當タリ其ノ第三者ヲ定ムルコト
ヲ得之ヲ定メザリシトキハ引受人ハ支
拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス義務ヲ負ヒ
タルモノト看做ス

手形ガ支拂人ノ住所ニ於テ支拂フベキ
モノナルトキハ支拂人ハ引受ニ於テ支
拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ定ムルコト
ヲ得

第二十八條 支拂人ハ引受ニ因リ満期ニ
於テ爲替手形ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ
支拂ナキ場合ニ於テハ所持人ハ第四十
八條及第四十九條ノ規定ニ依リテ請求
スルコトヲ得ベキ一切ノ金額ニ付引受
人ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル直接ノ請
求權ヲ有ス所持人ガ振出人ナルトキト

雖モ亦同ジ

第二十九條 爲替手形ニ引受ヲ記載シタ
ル支拂人ガ其ノ手形ノ返還前ニ之ヲ抹
消シタルトキハ引受ヲ拒ミタルモノト
看做ス抹消ハ證券ノ返還前ニ之ヲ爲シ
タルモノト推定ス

前項ノ規定ニ拘ラズ支拂人ガ書面ヲ以
テ所持人又ハ手形ニ署名シタル者ニ引
受ノ通知ヲ爲シタルトキハ此等ノ者ニ
對シ引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四章 保證

第三十條 爲替手形ノ支拂ハ其ノ金額ノ
全部又ハ一部ニ付保證ニ依リ之ヲ擔保
スルコトヲ得

第三者ハ前項ノ保證ヲ爲スコトヲ得手
形ニ署名シタル者ト雖モ亦同ジ

第三十一條 保證ハ爲替手形又ハ補箋ニ
之ヲ爲スベシ
保證ハ「保證」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ
有スル文字ヲ以テ表示シ保證人署名ス
ベシ
爲替手形ノ表面ニ爲シタル單ナル署名
ハ之ヲ保證ト看做ス但シ支拂人又ハ振
出人ノ署名ハ此ノ限ニ在ラズ
保證ニハ何人ノ爲メ之ヲ爲スカヲ表示
スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ振

出人ノ爲メ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十二條 保證人ハ保證スラレタル者
ト同一ノ責任ヲ負フ
保證ハ其ノ負擔シタル債務ガ方式ノ環
疵ヲ除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ無
効ナルトキト雖モ之ヲ有效トス
保證人ガ爲替手形ノ支拂ヲ爲シタルト
キハ保證セラレタル者及其ノ者ノ爲替
手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生
ズル權利ヲ取得ス

第五章 満期

第三十三條 爲替手形ハ左ノ何レカトシ
テ之ヲ振出スコトヲ得

- 一 一覽拂
 - 二 一覽後定期拂
 - 三 日附後定期拂
 - 四 確定日拂
- 前項ト異ル満期又ハ分割拂ノ爲替手形
ハ之ヲ無効トス

第三十四條 一覽拂ノ爲替手形ハ呈示ア
リタルトキ之ヲ支拂フベキモノトス此
ノ手形ハ其ノ日附ヨリ一年内ニ支拂ノ
爲メ之ヲ呈示スルコトヲ要ス振出人ハ此
ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得
裏書人ハ此等ノ期間ヲ短縮スルコトヲ
得

振出人ハ一定ノ期日前ニハ一覽拂ノ爲替手形ヲ支拂ノ爲呈示スルコトヲ得ザル旨ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ呈示ノ期間ハ其ノ期日ヨリ始マル

第三十五條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ滿期ハ引受ノ日附又ハ拒絕證書ノ日附ニ依リテ之ヲ定ム

拒絕證書アラザル場合ニ於テハ日附ナキ引受ハ引受人ニ關スル限リ引受ノ爲ノ呈示期間ノ末日ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十六條 日附後又ハ一覽後一月又ハ數月拂ノ爲替手形ハ支拂ヲ爲スベキ月ニ於ケル應當日ヲ以テ滿期トス應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿期トス

日附後又ハ一覽後一月半又ハ數月半拂ノ爲替手形ニ付テハ先ツ全月ヲ計算ス月ノ始、月ノ央、(一月ノ央、二月ノ央等)又ハ月ノ終ヲ以テ滿期ヲ定メタルトキハ其ノ月ノ一日、十五日又ハ末日ヲ謂フ

「八月」又ハ「十五日」トハ一週又ハ二週ニ非ズシテ滿八日又ハ滿十五日ヲ謂フ

第三十七條 振出地ト屬ラ異ニスル地ニ於テ確定日ニ支拂フベキ爲替手形ニ付テハ滿期ノ日ハ支拂地ノ屬ニ依リテ之ヲ定メタルモノト看做ス

於テ確定日ニ支拂フベキ爲替手形ニ付テハ滿期ノ日ハ支拂地ノ屬ニ依リテ之ヲ定メタルモノト看做ス

爲替手形ガ日附後定期拂ナルトキハ振出ノ日ヲ支拂地ノ屬ノ應當日ニ換ヘ之ニ依リテ滿期ヲ定ム

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ手形計算ス

前項ノ規定ハ爲替手形ノ文言又ハ證券ノ記載ニ依リ別段ノ意思ヲ知ラズニテ之ヲ適用セズ

支拂アリタル旨ノ手形上ノ記載及受取證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 爲替手形ノ所持人ハ滿期前ニハ其ノ支拂ヲ受クルコトヲ要セズ

滿期前ニ支拂ヲ爲ス支拂人ハ自己ノ危險ニ於テ之ヲ爲スモノトス

滿期ニ於テ支拂ヲ爲ス者ハ惡意又ハ重大ナル過失ナキ限リ其ノ責ヲ免ル此ノ者ハ裏書ノ連續ノ整否ヲ調査スル義務アルモ裏書人ノ署名ヲ調査スル義務ナシ

第四十一條 支拂地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以テ支拂フベキ旨ヲ記載シタル爲替手形ニ付テハ滿期ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支拂フ爲スコトヲ得債務者ガ支拂ヲ遲滞シタルトキハ所持人ハ其ノ選擇ニ依リ滿期ノ日又ハ支拂ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ爲替手形ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ請求スルコトヲ得

外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リ之ヲ定ム但シ振出人ハ手形ニ定メタル換算率ニ依リ支拂金額ヲ計算スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ振出人ガ特種ノ通貨ヲ以テ支拂フベキ旨(外國通貨現實支拂

爲ノ呈示ヲ禁シタル手形ノ振出人ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ所持人ガ其ノ請求權ヲ行フニハ破産決定書ヲ提出スルヲ以テ足ル

第四十五條 所持人ハ拒絕證書作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日內ニ自己ノ裏書人及振出人ニ對シ引受拒絕又ハ支拂拒絕アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ二取引日內ニ前ノ通知者全員ノ名稱及宛所ヲ示シテ自己ノ受ケタル通知ヲ自己ノ裏書人ニ通知シ順次振出人ニ及ブモノトス此ノ期間ハ各其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ニ從ヒ爲替手形ノ署名者ニ通知ヲ爲ストキハ同一期間內ニ其ノ保證人ニ同一ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

裏書人ガ其ノ宛所ヲ記載セズ又ハ其ノ記載ガ讀ミ難キ場合ニ於テハ其ノ裏書人ノ直接ノ前者ニ通知スルヲ以テ足ル通知ヲ爲スベキ者ハ如何ナル方法ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得單ニ爲替手形ヲ返付スルニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

於テ確定日ニ支拂フベキ爲替手形ニ付テハ滿期ノ日ハ支拂地ノ屬ニ依リテ之ヲ定メタルモノト看做ス

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ手形計算ス

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ手形計算ス

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ手形計算ス

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ手形計算ス

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ手形計算ス

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ手形計算ス

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ手形計算ス

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ手形計算ス

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ手形計算ス

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ手形計算ス

振出人ハ一定ノ期日前ニハ一覽拂ノ爲替手形ヲ支拂ノ爲呈示スルコトヲ得ザル旨ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ呈示ノ期間ハ其ノ期日ヨリ始マル

第三十五條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ滿期ハ引受ノ日附又ハ拒絕證書ノ日附ニ依リテ之ヲ定ム

拒絕證書アラザル場合ニ於テハ日附ナキ引受ハ引受人ニ關スル限リ引受ノ爲ノ呈示期間ノ末日ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十六條 日附後又ハ一覽後一月又ハ數月拂ノ爲替手形ハ支拂ヲ爲スベキ月ニ於ケル應當日ヲ以テ滿期トス應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿期トス

日附後又ハ一覽後一月半又ハ數月半拂ノ爲替手形ニ付テハ先ツ全月ヲ計算ス月ノ始、月ノ央、(一月ノ央、二月ノ央等)又ハ月ノ終ヲ以テ滿期ヲ定メタルトキハ其ノ月ノ一日、十五日又ハ末日ヲ謂フ

「八月」又ハ「十五日」トハ一週又ハ二週ニ非ズシテ滿八日又ハ滿十五日ヲ謂フ

第三十七條 振出地ト屬ラ異ニスル地ニ於テ確定日ニ支拂フベキ爲替手形ニ付テハ滿期ノ日ハ支拂地ノ屬ニ依リテ之ヲ定メタルモノト看做ス

於テ確定日ニ支拂フベキ爲替手形ニ付テハ滿期ノ日ハ支拂地ノ屬ニ依リテ之ヲ定メタルモノト看做ス

爲替手形ガ日附後定期拂ナルトキハ振出ノ日ヲ支拂地ノ屬ノ應當日ニ換ヘ之ニ依リテ滿期ヲ定ム

爲替手形ノ呈示期間ハ前項ノ規定ニ從ヒテ手形計算ス

前項ノ規定ハ爲替手形ノ文言又ハ證券ノ記載ニ依リ別段ノ意思ヲ知ラズニテ之ヲ適用セズ

通知ヲ爲スベキ者ハ適法ノ期間内ニ通知ヲ爲シタルコトヲ證明スルコトヲ要ス此ノ期間内ニ通知ヲ爲ス書面ヲ郵便ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ遵守シタルモノト看做ス

第四十六條

振出人、裏書人又ハ保證人ハ證券ニ記載シ且署名シタル「無費用償還」「拒絕證書不要」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ニ依リ所持人ニ對シ其ノ請求權ヲ行フ爲メ引受拒絕證書又ハ支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ文言ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シ之ヲ授用スル者ニ於テ其ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス

第五十二條

請求權ヲ有スル者ハ反對ノ記載ナキ限り其ノ前者ノ一人ニ宛テ一覽拂トシテ振出し且其ノ者ノ住所ニ於テ支拂フベキ新し手形(戻手形)ニ依リ請求ヲ爲スコトヲ得

第五十三條

左ノ期間が経過シタルトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ權利ヲ失フ但シ引受人ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

手形法

ノミ其ノ効力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルニ拘ラズ所持人ガ拒絕證書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ費用ハ所持人之ヲ負擔ス裏書人又ハ保證人ガ此ノ文言ヲ記載シタル場合ニ於テ拒絕證書ノ作成アリタルトキハ一切ノ署名者ヲシテ其ノ費用ヲ償還セシムルコトヲ得

第四十七條

爲替手形ノ振出、引受、裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ハ所持人ニ對シ合同シテ其ノ責任ニ任ズ

第四十八條

所持人ハ前項ノ債務者ニ對シ其ノ債務ヲ負ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ爲スコトヲ得

第五十四條

法定ノ期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示又ハ拒絕證書ノ作成ガ避クベカラザル障害(國ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨ゲラレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス

第五十五條

振出人ノ記載シタル期間内ニ引受ノ爲メ呈示ヲ爲サザルトキハ所持人ハ支拂拒絕及引受拒絕ニ因リ請求權ヲ失フ但シ其ノ記載ノ文言ニ依リ振出人ガ引受ノ擔保義務ノミヲ免レントスル意思ヲ有シタルコトヲ知り得ベキトキハ此限ニ在ラズ

ノ他ノ費用

滿期前ニ請求權ヲ行フトキハ割引ニ依リ手形金額ヲ減ズ其ノ割引ハ所持人ノ住所ニ於ケル請求ノ日ノ公定割引率(銀行率)ニ依リ之ヲ計算ス

第四十九條

爲替手形ヲ受戻シタル者ハ其ノ前者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

第五十條

請求ヲ受ケタル又ハ受クベキ債務者ハ支拂ト引換ニ拒絕證書、受取證書ヲ記載ヲ爲シタル計算書及爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條

一部引受ノ後ニ請求權ヲ行フ場合ニ於テ引受アラザリシ手形金額ノ支拂ヲ爲ス者ハ其ノ支拂ノ旨ヲ手形ニ記載スルコト及受取證書ヲ交付スルコトヲ請求スルコトヲ得又所持人ハ爾後ノ請求ヲ爲スコトヲ得シムル爲メ手形ノ證明原本及拒絕證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第八章 參 加

第一節 通 則

一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テハ三十日ノ期間ハ呈示期間ノ經過前ト雖モ所持人ガ其ノ裏書人ニ不可抗力ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ進行ス一覽後定期拂ノ爲替手形ニ付テハ三十日ノ期間ニ爲替手形ニ記載シタル一覽後ノ期間ヲ加フ

ハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第二節 参加引受

第五十六條 参加引受ハ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ゼザル爲替手形ノ所持人ガ滿期前ニ請求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

爲替手形ニ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載シタルトキハ手形ノ所持人ハ其ノ者ニ爲替手形ヲ呈示シ且拒絕證書ニ依リ其ノ者ガ引受ヲ拒ミタルコトヲ證スルニ非ザレバ其ノ記載ヲ爲シタル者及其ノ後者ニ對シ滿期前ニ請求權ヲ行フコトヲ得ズ

参加ノ他ノ場合ニ於テハ所持人ハ参加引受ヲ拒ムコトヲ得若所持人ガ之ヲ受諾スルトキハ被参加人及其ノ後者ニ對シ滿期前ニ有スル請求權ヲ失フ

第五十七條

参加引受ハ爲替手形ニ之ヲ記載シ参加人署名スベシ参加引受ニハ被参加人ヲ表示スベシ其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十八條

参加引受人ハ所持人及被参加人ヨリ後ノ裏書人ニ對シ被参加人ト同一ノ義務ヲ負フ

被参加人及其ノ前者ハ参加引受ニ拘ラズ所持人ニ對シ第四十八條ニ規定スル金額ノ支拂ト引換ニ爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得拒絕證書及受取ヲ證スル記載ヲ爲シタル計算書アルトキハ其ノ交付ヲモ請求スルコトヲ得

第三節 参加支拂

第五十九條 参加支拂ハ所持人ガ滿期又ハ滿期前ニ請求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得
支拂ハ被参加人ガ支拂ヲ爲スベキ金額ニ付之ヲ爲スコトヲ得
支拂ハ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ之ヲ爲スコトヲ得

第六十條

爲替手形ガ支拂地ニ住所ヲ有スル参加人ニ依リテ引受ケラレタルトキ又ハ支拂地ニ住所ヲ有スル者ガ豫備支拂人トシテ記載セラレタルトキハ所持人ハ此等ノ者ノ全員ニ手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ得ベキ最後ノ日ノ翌日迄ニ支拂拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ得
前項ノ期間内ニ拒絕證書ノ作成ナキトキハ豫備支拂人ヲ記載シタル者又ハ被参加人及其ノ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル

第六十一條

参加支拂ヲ拒ミタル所持人ハ其ノ支拂ニ因リテ義務ヲ免ルベカリシ者ニ對スル請求權ヲ失フ

第六十二條

参加支拂ハ被参加人ヲ表示シテ爲替手形ニ爲シタル受取ノ記載ニ依リ之ヲ證スルコトヲ得ス其ノ表示ナキトキハ支拂ハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第六十三條

参加支拂人ハ被参加人及其ノ者ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得ス但シ更ニ爲替手形ヲ裏書スルコトヲ得ズ
被参加人ヨリ後ノ裏書人ハ義務ヲ免ル
参加支拂ノ競合ノ場合ニ於テハ最も多數ノ義務ヲ免レシムルモノ優先ス事情ヲ知リ此ノ規定ニ反シテ参加シタル者ハ義務ヲ免ルベカリシ者ニ對スル請求權ヲ失フ

第六十四條

爲替手形ハ同一内容ノ勅憑ヲ以テ之ヲ振出スコトヲ得
此ノ複本ニハ其ノ證券ノ文言中ニ番號

第九章 複本及贖本

第一節 複本

第六十四條 爲替手形ハ同一内容ノ勅憑ヲ以テ之ヲ振出スコトヲ得
此ノ複本ニハ其ノ證券ノ文言中ニ番號

ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ缺クトキハ各通ハ之ヲ各別ノ爲替手形ト看做ス

一通限ニテ振出ス旨ノ記載ナキ手形ノ所持人ハ自己ノ費用ヲ以テ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所持人ハ自己ノ直接ノ裏書人ニ對シテ其ノ請求ヲ爲シ其ノ裏書人ハ自己ノ裏書人ニ對シテ手續ヲ爲スコトニ依リテ之ニ協力シ順次振出人ニ及ブベキモノトス各裏書人ハ新ナル複本ニ裏書ヲ再記スルコトヲ要ス

第六十五條

複本ノ一通ノ支拂ハ其ノ支拂ガ他ノ複本ヲ無効ナラシムル旨ノ記載ナキトキト雖モ義務ヲ免レシム但シ支拂人ハ引受ヲ爲シタル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ
數人ニ各別ニ複本ヲ讓渡シタル裏書人及其ノ後ノ裏書人ハ其ノ署名アル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

第六十六條

引受ノ爲複本ノ一通ヲ送付シタル者ハ他ノ各通ニ此ノ一通ヲ保持スル者ノ名稱ヲ記載スベシ其ノ者ハ他ノ一通ノ正當ナル所持人ニ對シ之ヲ引渡スコトヲ要ス
保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人

ハ拒絕證書ニ依リ左ノ事實ヲ證スルニ非ザレバ請求權ヲ行フコトヲ得ズ
一 引受ノ爲送付シタル一通ガ請求ヲ爲スモ引渡サレザリシコト
二 他ノ一通ヲ以テ引受又ハ支拂ヲ受クルコト能ハザリシコト

第六十七條

爲替手形ノ所持人ハ其ノ贖本ヲ作ル權利ヲ有ス
贖本ニハ裏書其ノ他原本ニ掲ゲタル一切ノ事項ヲ正確ニ再記シ且其ノ末尾ヲ示スコトヲ要ス
贖本ニハ原本ト同一ノ方法ニ從ヒ且同一ノ效力ヲ以テ裏書又ハ保證ヲ爲スコトヲ得

第六十八條

贖本ニハ原本ノ保持者ヲ表示スベシ保持者ハ贖本ノ正當ナル所持人ニ對シ其ノ原本ヲ引渡スコトヲ要ス
保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絕證書ニ依リ原本ガ請求ヲ爲スモ引渡サレザリシコトヲ證スルニ非ザレバ贖本ニ裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ニ對シ請求權ヲ行フコトヲ得ズ
贖本作成前ニ爲シタル最後ノ裏書ノ後ニ爾後裏書ハ贖本ニ爲シタルモノノ效力ヲ有スルノ文句其ノ他之ト同一

第六十九條

爲替手形ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テハ其ノ變造後ノ署名者ハ變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ變造前ノ署名者ハ原文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第七十條

引受人ニ對スル爲替手形上ノ請求權ハ滿期ノ日ヨリ三年ヲ以テ時効ニ罹ル
所持人ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絕證書ノ日附ヨリ、無費用償還文句アル場合ニ於テハ滿期ノ日ヨリ一年ヲ以テ時効ニ罹ル
裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ハ其ノ裏書人ガ手形ノ受戻ヲ爲シタル日又ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル日ヨリ六月ヲ以テ時効ニ罹ル
第七十一條 時効ノ中斷ハ其ノ中斷ノ事由ガ生ジタル者ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ

第七十二條

滿期ガ法定ノ休日ニ當ル爲

替手形ハ之ニ次グ第一ノ取引日ニ至ル迄其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ズ又爲替手形ニ關スル他ノ行爲殊ニ引受ノ爲ノ呈示及拒絶證書ノ作成ハ取引日ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

末日ヲ法定ノ休日トスル一定ノ期間内ニ前項ノ行爲ヲ爲スベキ場合ニ於テハ期間ハ其ノ滿了ニ次グ第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間中ノ休日ハ之ヲ期間ニ算入ス

第七十三條 法定又ハ約定ノ期間ニハ其ノ初日ヲ算入セズ

第七十四條 恩惠日ハ法律上ノモノタルト裁判上ノモノタルト問ハズ之ヲ認メズ

第二編 約束手形

第七十五條 約束手形ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル約束手形ナルコトヲ示ス文字
- 二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル約束
- 三 満期ノ表示
- 四 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示
- 五 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受タル者ヲ指シ

圖スル者ノ名稱

- 六 手形ヲ振出ス日及地ノ表示
- 七 手形ヲ振出ス者(振出人)ノ署名

第七十六條 前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ約束手形タル効力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

満期ノ記載ナキ約束手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做ス

振出地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ニシテ且振出人ノ住所地タルモノト看做ス

振出地ノ記載ナキ約束手形ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第七十七條 左ノ事項ニ關スル爲替手形ニ付テノ規定ハ約束手形ノ性質ニ反セザル限り之ヲ約束手形ニ準用ス

- 一 裏書(第十一條乃至第二十條)
- 二 満期(第三十三條乃至第三十七條)
- 三 支拂(第三十八條乃至第四十二條)
- 四 支拂拒絶ニ因ル遡求(第四十三條乃至第五十條、第五十二條乃至第五十四條)
- 五 參加支拂(第五十五條、第五十九條乃至第六十三條)

- 六 賸本(第六十七條及第六十八條)
- 七 變造(第六十九條)
- 八 時効(第七十條及第七十一條)
- 九 休日、期間ノ計算及恩惠日ノ禁止(第七十二條乃至第七十四條)

第三者方ニテ又ハ支拂人ノ住所地ニ非ザル地ニ於テ支拂ヲ爲スベキ爲替手形(第四條及第二十七條)、利息ノ約定(第五條)、支拂金額ニ關スル記載ノ差異(第六條)、第七條ニ規定スル條件ノ下ニ爲サレタル署名ノ效果、權限ナクシテ又ハ之ヲ超エテ爲シタル者ノ署名ノ效果(第八條)及白地爲替手形(第十條)ニ關スル規定モ亦之ヲ約束手形ニ準用ス保證ニ關スル規定(第三十條乃至第三十二條)モ亦之ヲ約束手形ニ準用ス第三十一條末項ノ場合ニ於テ何人ノ爲ニ保證ヲ爲シタルカラ表示セザルトキハ約束手形ノ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十八條 約束手形ノ振出人ハ爲替手形ノ引受人ト同一ノ義務ヲ負フ

一覽後定期拂ノ約束手形ハ第二十三條ニ規定スル期間内ニ振出人ノ一覽ノ爲之ヲ呈示スルコトヲ要ス一覽後ノ期間ハ振出人ガ手形ニ一覽ノ旨ヲ記載シテ

署名シタル日ヨリ進行ス振出人ガ日附アル一覽ノ旨ノ記載ヲ拒ミタルトキハ拒絶證書ニ依リテ之ヲ證スルコトヲ要ス(第二十五條)其ノ日附ハ一覽後ノ期間ノ初日トス

附則

第七十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年勅令第三百十五號ヲ以テ昭和九年一月一日ヨリ施行)

第八十條 商法第四編第一章乃至第三章及商法施行法第二百二十四條乃至第二百十六條ハ之ヲ削除ス但シ商法其ノ他ノ法令ノ規定ノ適用上之ニ依ルベキ場合ニ於テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第八十一條 本法施行前ニ振出シタル爲替手形及約束手形ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第八十二條 本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

第八十三條 第三十八條第二項(第七十七條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ手形交換所ハ法務總裁之ヲ指定ス

第八十四條 拒絶證書ノ作成ニ關スル事項ハ政令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條 爲替手形又ハ約束手形ヨリ

生ジタル權利ガ手續ノ欠缺又ハ時効ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人、引受人又ハ裏書人ニ對シ其ノ受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル爲替手形上及約束手形上ノ請求權ノ消滅時効ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前者ニ對シ訴訟告知ヲ爲スニ因リテ中斷ス

前項ノ規定ニ因リテ中斷シタル時効ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム

第八十七條 本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ヲ謂フ

第八十八條 爲替手形及約束手形ニ依リ義務ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法ニ依リ之ヲ定ム其ノ國ノ法律ガ他國ノ法律ニ依ルコトヲ定ムルトキハ其ノ他國ノ法律ヲ適用ス

前項ニ掲グル法律ニ依リ能力ヲ有セザル者ト雖モ他ノ國ノ領域ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ國ノ法律ニ依レバ能力ヲ有スベキトキハ責任ヲ負フ

第八十九條 爲替手形上及約束手形上ノ

行爲ノ方式ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

爲替手形上及約束手形上ノ行爲ガ前項ノ規定ニ依リ有效ナラザル場合ト雖モ後ノ行爲ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依レバ適式ナルトキハ後ノ行爲ハ前ノ行爲ガ不適式ナルコトニ因リ其ノ效力ヲ妨ゲザルコトナシ

日本人ガ外國ニ於テ爲シタル爲替手形上及約束手形上ノ行爲ハ其ノ行爲ガ日本ノ法律ニ規定スル方式ニ適合スル限リ他ノ日本人ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第九十條 爲替手形ノ引受人及約束手形ノ振出人ノ義務ノ效力ハ其ノ證券ノ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

前項ニ掲グル者ヲ除キ爲替手形又ハ約束手形ニ依リ債務ヲ負フ者ノ署名ヨリ生ズル効力ハ其ノ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ遡求權ヲ行使スル期間ハ一切ノ署名者ニ付證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十一條 爲替手形ノ所持人ガ證券ノ振出ノ原因タル債權ヲ取得スルヤ否ヤハ證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十二條 爲替手形ノ引受ヲ手形金額ノ一部ニ制限シ得ルヤ否ヤ及所持人ニ一部支拂ヲ受諾スル義務アリヤ否ヤハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ規定ハ約束手形ノ支拂ニ之ヲ準用ス
第九十三條 拒絶證書ノ方式及作成期間其ノ他爲替手形上及約束手形上ノ權利ノ行使又ハ保存ニ必要ナル行爲ノ方式ハ拒絶證書ヲ作ルベキ地又ハ其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十四條 爲替手形又ハ約束手形ノ喪失又ハ盜難ノ場合ニ爲スベキ手續ハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

小切手法

(昭和八年七月廿九日) 法律第五十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル小切手法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小切手法

第一章 小切手ノ振出及方式

第一條 小切手ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル小切手ナルコトヲ示ス文字
- 二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル委託
- 三 支拂ヲ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱
- 四 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示
- 五 小切手ヲ振出ス日及地ノ表示
- 六 小切手ヲ振出ス者(振出人)ノ署名

第二條 前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ小切手タル效力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支拂地ト看做ス支拂人ノ名稱ニ數箇ノ地ノ附記アルトキハ小切手ハ初頭ニ記載シアル地ニ於テ之

ヲ支拂フベキモノトス
前項ノ記載其ノ他何等ノ表示ナキ小切手ハ振出地ニ於テ之ヲ支拂フベキモノトス

振出地ノ記載ナキ小切手ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第三條 小切手ハ其ノ呈示ノ時ニ於テ振出人ノ處分シ得ル資金アル銀行ニ宛テ且振出人ヲシテ資金ヲ小切手ニ依リ處分スルコトヲ得シムル明示又ハ默示ノ契約ニ從ヒ之ヲ振出スベキモノトス但シ此ノ規定ニ從ハザルトキト雖モ證券ノ小切手タル效力ヲ妨ゲズ

第四條 小切手ハ引受ヲ爲スコトヲ得ズ小切手ニ爲シタル引受ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第五條 小切手ハ左ノ何レカトシテ之ヲ振出スコトヲ得
一 記名式又ハ指圖式
二 記名式ニシテ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載スルモノ
三 持參人拂式

記名ノ小切手ニシテ「又ハ持參人ニ」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言

ヲ記載シタルモノハ之ヲ持參人拂式小切手ト看做ス
受取人ノ記載ナキ小切手ハ之ヲ持參人拂式小切手ト看做ス

第六條 小切手ハ振出人ノ自己指圖ニテ之ヲ振出スコトヲ得
小切手ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得
小切手ハ振出人ノ自己宛ニテ之ヲ振出スコトヲ得

第七條 小切手ニ記載シタル利息ノ約定ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第八條 小切手ハ支拂人ノ住所地在在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトト問ハズ第三者ノ住所ニ於テ支拂フベキモノト爲スコトヲ得但シ其ノ第三者ハ銀行タルコトヲ要ス

第九條 小切手ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ小切手金額トス

第十條 小切手ニ小切手債務ヲ負擔スル

能力ナキ者ノ署名、偽造ノ署名、假設人ノ署名又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ小切手ノ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ダラサルコトナシ

第十一條 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ小切手ニ署名シタルトキハ自ラ其ノ小切手ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支拂ヲ爲シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同シ

第十二條 振出人ハ支拂ヲ擔保ス振出人ガ之ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第十三條 未完成ニテ振出シタル小切手ニ豫メ爲シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ小切手ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 記名式又ハ指圖式ノ小切手ハ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得記名式小切手ニシテ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記

載シタルモノハ指名債權ノ讓渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テノミ之ヲ讓渡スコトヲ得裏書ハ振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ小切手ヲ裏書スルコトヲ得

第十五條 裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス支拂人ノ裏書モ亦之ヲ無効トス持參人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力ヲ有ス

第十六條 裏書ハ小切手又ハ之ト結合シタル紙片(補箋)ニ之ヲ記載シ裏書人署名スルコトヲ要ス裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(白地式裏書)此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ小切手ノ裏面又ハ

對抗スルコトヲ得ル抗辯ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ベカリシモノニ限ル代理ノ爲ノ裏書ニ依リ委任ハ委任者ノ死亡又ハ其ノ者ガ無能力ト爲リタルコトニ因リ終了セズ

第二十條 持參人拂式小切手ニ裏書ヲ爲シタルトキハ裏書人ハ過失ニ關スル規定ニ從ヒ責任ヲ負フ但シ之ガ爲證券ハ指圖式小切手ニ變ズルコトナシ

第二十一條 事由ノ何タルヲ問ヘズ小切手ノ占有ヲ失ヒタル者アル場合ニ於テ其ノ小切手ヲ取得シタル所持人ハ小切手ガ持參人拂式ノモノナルトキ又ハ裏書シ得ベキモノニシテ其ノ所持人ガ第十九條ノ規定ニ依リ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ返還スル義務ヲ負フコトナシ但シ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ之ヲ取得シタルトキハ此限ニ在ラズ

第二十二條 小切手ニ依リ請求ヲ受ケタル者ハ振出人其ノ所持人ノ前者ニ對スル人ノ關係ニ基ク抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ害スルコトヲ知りテ小切手ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 裏書ニ「回收ノ爲」取立ノ爲「代理ノ爲」其ノ他單ナル委任ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ小切手ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代理ノ爲ノ裏書ノミヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ債務者ガ所持人ニ

補箋ニ之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ第十七條 裏書ハ小切手ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ移轉ス裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ一 自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充スルコトヲ得

二 白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ小切手ヲ裏書スルコトヲ得三 白地ヲ補充セズ且裏書ヲ爲サズシテ小切手ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得

第十八條 裏書人ハ反對ノ文言ナキ限り支拂ヲ擔保ス裏書人ハ新ナル裏書ヲ禁ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ裏書人ハ小切手ノ爾後ノ被裏書人ニ對シ擔保ノ責ヲ負フコトナシ

第十九條 裏書シ得ベキ小切手ノ占有者ガ裏書ノ連續ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ適法ノ所持人ト看做ス最後ノ裏書ガ白地式ナル場合ト雖モ亦同ジ抹消シタル裏書ハ此ノ關係ニ於テハ之ヲ記載セザルモノト看做ス白地式裏書ニ次テ他ノ裏書アルトキハ其ノ裏書ヲ爲シタル者ハ白地式裏書ニ因リテ小切手ヲ取得シタルモノト看做ス

第二十四條 拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成後ノ裏書又ハ呈示期間經過後ノ裏書ハ指名債權ノ讓渡ノ效力ノミヲ有ス

日附ノ記載ナキ裏書ハ拒絕證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成前又ハ呈示期間經過前ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第二十五條 小切手ノ支拂ハ其ノ金額ノ全部又ハ一部ニ付保證ニ依リ之ヲ擔保スルコトヲ得支拂人ヲ除ク外第三者ハ前項ノ保證ヲ爲スコトヲ得小切手ニ署名シタル者ト雖モ亦同シ

第二十六條 保證ハ小切手又ハ補箋ニ之ヲ爲スベシ保證ハ「保證」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ以テ表示シ保證人署名スベシ

小切手ノ表面ニ爲シタル單ナル署名ハ

之ヲ保證ト看做ス但シ振出人ノ署名ハ此ノ限ニ在ラズ保證ニハ何人ノ爲ニ之ヲ爲スカラ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十七條 保證人ハ保證セラレタル者ト同一ノ責任ヲ負フ保證ハ其ノ擔保シタル債務ガ方式ノ瑕疵ヲ除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ無効ナルトキト雖モ之ヲ有効トス

保證人ガ小切手ノ支拂ヲ爲シタルトキハ保證セラレタル者及其ノ者ノ小切手ノ債務者ニ對シ小切手ヨリ生ズル權利ヲ取得ス

第二十八條 小切手ハ一覽拂ノモノトス之ニ反スル一切ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス振出ノ日附トシテ記載シタル日ヨリ前ニ支拂ノ爲呈示シタル小切手ハ呈示ノ日ニ於テ之ヲ支拂フベキモノトス

第二十九條 國內ニ於テ振出シ且支拂フベキ小切手ハ十日内ニ支拂ノ爲之ヲ呈示スルコトヲ要ス支拂ヲ爲スベキ國ト異ナル國ニ於テ振出シタル小切手ハ振出地及支拂地ガ同

一洲ニ存スルトキハ二十日以内又異ル洲ニ存スルトキハ七十日以内ニ之ヲ呈示スルコトヲ要ス

前項ニ關シテハ歐羅巴洲ノ一國ニ於テ振出シ地中海沿岸ノ一國ニ於テ支拂フベキ小切手又ハ地中海沿岸ノ一國ニ於テ振出シ歐羅巴洲ノ一國ニ於テ支拂フベキ小切手ハ同一洲内ニ於テ振出シ且支拂フベキモノト看做ス

第三十條 小切手が曆ヲ異ニスル二地ノ間ニ振出シタルモノナルトキハ振出ノ日ヲ支拂地ノ曆ノ應當日ニ換フ

第三十二條 小切手ノ支拂委託ノ取消ハ呈示期間經過後ニ於テノミ其ノ效力ヲ生ズ

スニ當リ所持人ニ對シ小切手ニ受取ヲ證スル記載ヲ爲シテ之ヲ交付スベキコトヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 裏書シ得ベキ小切手ノ支拂ヲ爲ス支拂人ハ裏書ノ連續ノ整否ヲ調査スル義務アルモ裏書人ノ署名ヲ調査スル義務ナシ

文句)ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五章 線引小切手

第三十七條 小切手ノ振出人又ハ所持人ハ小切手ニ線引ヲ爲スコトヲ得線引ハ次條ニ定ムル效力ヲ有ス

特定線引小切手ハ支拂人ニ於テ被指定銀行ニ對シテノミ又被指定銀行ガ支拂人ナルトキハ自己ノ取引先ニ對シテノミ之ヲ支拂フコトヲ得但シ被指定銀行ハ他ノ銀行ヲシテ小切手ノ取立ヲ爲サシムルコトヲ得

シ且日附ヲ附シタル支拂人ノ宣言

第四十條 拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ハ之ニ次グ第一ノ取引日ニ之ヲ作ラシムルコトヲ得

第四十一條 所持人ハ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日以内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ對シ支拂拒絕アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各裏書人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ二取引日以内ニ前ノ通知者全員ノ名稱及宛所ヲ示シテ自己ノ受ケタル通知ヲ自己ノ裏書人ニ通知シ順次振出人ニ及ブモノトス此ノ期間ハ各其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ニ從ヒ小切手ノ署名者ニ通知ヲ爲ストキハ同一期間内ニ其ノ保證人ニ同一ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

裏書人ガ其ノ宛所ヲ記載セズ又ハ其ノ記載ガ讀ミ難キ場合ニ於テハ其ノ裏書人ノ直接ノ前者ニ通知スルヲ以テ足ル通知ヲ爲スベキ者ハ如何ナル方法ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得單ニ小切手ヲ返付スルニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 振出人、裏書人又ハ保證人ハ證券ニ記載シ且署名シタル「無費用償還」、「拒絕證書不要」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文句ニ依リ所持人ニ對シ其ノ請求權ヲ行フ爲メ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ヲ免除スルコトヲ得

第三十九條 適法ノ時期ニ呈示シタル小切手ノ支拂ナキ場合ニ於テ左ノ何レカニ依リ支拂拒絕ヲ證明スルトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ請求權ヲ行フコトヲ得

一 公正證書(拒絕證書)

前項ノ文句ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於ケル小切手ノ呈示及通知ノ義務ヲ

免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シ之ヲ援用スル者ニ於テ其ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス

振出人ガ第一項ノ文言ヲ記載シタルトキハ一切ノ署名者ニ對シ其ノ效力ヲ生ズ裏書人又ハ保證人ガ之ヲ記載シタルトキハ其ノ裏書人又ハ保證人ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルニ拘ラズ所持人ガ拒絶證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲアリタルトキハ一切ノ署名者ヲシテ其ノ費用ヲ償還セシムルコトヲ得

第四十三條 小切手上ノ各債務者ハ所持人ニ對シ合同シテ其ノ責ニ任ズ所持人ハ前項ノ債務者ニ對シ其ノ債務ヲ負ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ爲スコトヲ得

第八章 變造

第五十條 小切手ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テハ其ノ變造後ノ署名者ハ變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ變造前ノ署名者ハ原文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第五十一條 所持人ノ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對スル請求權ハ呈示期間經過後六月ヲ以テ時効ニ罹ル

第五十二條 時効ノ中断ハ其ノ中断ノ事由ガ生ジタル者ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ

第五十三條 支拂人ハ小切手ニ支拂保證ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 支拂保證ハ單純ナルコトヲ要ス

第五十五條 支拂保證ヲ爲シタル支拂人ハ呈示期間ノ經過前ニ小切手ノ呈示アリタル場合ニ於テノミ其ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フ

第五十六條 支拂保證ニ因リ振出人其ノ他ノ小切手上ノ債務者ハ其ノ責ヲ免ルルコトナシ

第五十七條 第四十七條ノ規定ハ支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對スル權利ノ行使ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對スル小切手上ノ請求權ハ呈示期間經過後一年ヲ以テ時効ニ罹ル

第五十九條 本法ニ於テ「銀行」ナル文字ハ法令ニ依リテ銀行ト同視セラルル人又ハ施設ヲ含ム

第六十條 小切手ノ呈示及拒絶證書ノ作成ハ取引日ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 小切手ニ關スル行爲ヲ爲ス爲時ニ呈示又ハ拒絶證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ノ爲法令ニ規定シタル期間ノ末日ガ法定ノ休日ニ當ル場合ニ於テハ期間ハ其ノ滿了ニ次グ第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間中ノ休日ハ之ヲ

第四十四條 所持人ハ請求ヲ受ケタル者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 支拂アラザリシ小切手ノ金額

二 年六分ノ率ニ依ル呈示ノ日以後ノ利息

三 拒絶證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ費用、通知ノ費用及其ノ他ノ費用

第四十五條 小切手ヲ受戻シタル者ハ其ノ前者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 其ノ支拂ヒタル總金額

二 前號ノ金額ニ對シ年六分ノ率ニ依リ計算シタル支拂ノ日以後ノ利息

三 其ノ支出シタル費用

第四十六條 請求ヲ受ケタル又ハ受ケベキ債務者ハ支拂ト引換ニ拒絶證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言、受取ヲ證スル記載ヲ爲シタル計算書及小切手ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第七章 複本

第四十八條 一國ニ於テ振出し他ノ國ニ

ノ不可抗力ニ因リテ妨ゲラレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス

所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シ遲滞ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且小切手又ハ補箋ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ準用ス

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遲滞ナク支拂ノ爲小切手ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ作ラシムルコトヲ要ス

不可抗力ガ所持人ニ於テ其ノ裏書人ニ不可抗力ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十五日ヲ超エテ繼續スルトキハ呈示期間經過前ニ其ノ通知ヲ爲シタル場合ト雖モ呈示又ハ拒絶證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ要セズシテ請求權ヲ行フコトヲ得

所持人又ハ所持人ガ小切手ノ呈示又ハ拒絶證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ヲ委任シタル者ニ付テノ單純ナル人的事由ハ不可抗力ヲ構成スルモノト認メズ

ルコトハ第三十九條ノ規定ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第四十四條及第四十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 支拂保證ニ因リ振出人其ノ他ノ小切手上ノ債務者ハ其ノ責ヲ免ルルコトナシ

第五十七條 第四十七條ノ規定ハ支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對スル權利ノ行使ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對スル小切手上ノ請求權ハ呈示期間經過後一年ヲ以テ時効ニ罹ル

第五十九條 本法ニ於テ「銀行」ナル文字ハ法令ニ依リテ銀行ト同視セラルル人又ハ施設ヲ含ム

第六十條 小切手ノ呈示及拒絶證書ノ作成ハ取引日ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 小切手ニ關スル行爲ヲ爲ス爲時ニ呈示又ハ拒絶證書若ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ノ爲法令ニ規定シタル期間ノ末日ガ法定ノ休日ニ當ル場合ニ於テハ期間ハ其ノ滿了ニ次グ第一ノ取引日迄之ヲ伸長ス期間中ノ休日ハ之ヲ

期間ニ算入ス

第六十一條 本法ニ規定スル期間ニハ其ノ初日ヲ算入セズ

第六十二條 恩恵日ハ法律上ノモノタルト裁判上ノモノタルトヲ問ハズ之ヲ認メズ

附 則

第六十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年勅令第三百十五號ヲ以テ昭和九年一月一日ヨリ施行)

第六十四條 商法第四編第四章ハ之ヲ創除ス

第六十五條 本法施行前ニ振出シタル小切手ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六十六條 本法施行後六月内ニ日本ニ於テ振出ス小切手ハ振出地ノ記載ヲ缺クトキト雖モ小切手タル效力ヲ有ス

第六十七條 本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

第六十八條 朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島又ハ政令ヲ以テ指定スル亞細亞洲ノ地域ニ於テ振出シ日本内地ニ於テ支拂フベキ小切手ノ呈示期間ハ政令ヲ以テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第六十九條 第三十一條ノ手形交換所ハ法務總裁之ヲ指定ス

第七十條 拒絕證書ノ作成ニ關スル事項ハ政令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條 小切手ノ振出人ガ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ五千圓以下ノ科料ニ處ス

第七十二條 小切手ヨリ生ジタル權利ガ手續ノ欠缺又ハ時効ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人、裏書人又ハ支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對シ其ノ受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル小切手上ノ請求權ノ消滅時効ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前者ニ對シ訴訟告知ヲ爲スニ因リテ中斷ス

前項ノ規定ニ因リテ中斷シタル時効ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム

第七十四條 振出人又ハ所持人ガ證券ノ表面ニ「計算ノ爲」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シテ現金ノ支拂ヲ禁ジタル小切手ニシテ外國ニ於テ振出シ日本ニ於テ支拂フベキモノハ一般線引小切手タル效力ヲ有ス

第七十五條 本法ニ於テ休日トハ祭日、

祝日、日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ヲ謂フ

第七十六條 小切手ニ依リ義務ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法ニ依リ之ヲ定ム其ノ國ノ法律ガ他國ノ法律ニ依ルコトヲ定ムルトキハ其ノ他國ノ法律ヲ適用ス

前項ニ掲グル法律ニ依リ能力ヲ有セザル者ト雖モ他ノ國ノ領域ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ國ノ法律ニ依レバ能力ヲ有スベキトキハ其實ヲ負フ

第七十七條 小切手ノ支拂人タルコトヲ得ル者ハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ支拂人タルコトヲ得ザル者ヲ支拂人トシタル爲小切手ガ無効ナルトキト雖モ之ト同一ノ規定ナキ他ノ國ニ於テ其ノ小切手ニ爲シタル署名ヨリ生ズル債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ

第七十八條 小切手上ノ行爲ノ方式ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ支拂地ノ屬スル國ノ法律ノ規定スル方式ニ依ルヲ以テ足ル

小切手上ノ行爲ガ前項ノ規定ニ依リ有テラザル場合ト雖モ後ノ行爲ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依レバ適式

ナルトキハ後ノ行爲ハ前ノ行爲ガ不適式ナルコトニ因リ其ノ效力ヲ妨ゲラルルコトナシ

日本人ガ外國ニ於テ爲シタル小切手上ノ行爲ハ其ノ行爲ガ日本ノ法律ニ規定スル方式ニ適合スル限り他ノ日本人ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第七十九條 小切手ヨリ生ズル義務ノ效力ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ選求權ヲ行使スル期間ハ一切ノ署名者ニ付證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第八十條 左ノ事項ハ小切手ノ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

一 小切手ハ一覽拂タルコトヲ要スルヤ否ヤ、一覽後定期拂トシテ振出シ得ルヤ否ヤ及先日附小切手ノ效力

二 呈示期間

三 小切手ニ引受、支拂保證、確認又ハ査證ヲ爲シ得ルヤ否ヤ及此等ノ記載ノ效力

小切手法

四 所持人ハ一部支拂ヲ請求シ得ルヤ否ヤ及一部支拂ヲ受諾スル義務アリヤ否ヤ

五 小切手ニ線引ヲ爲シ得ルヤ否ヤ、小切手ニ「計算ノ爲」ノ文字又ハ之ト

同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シ得ルヤ否ヤ及線引又ハ「計算ノ爲」ノ文字若ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ノ記載ノ效力

六 所持人ハ資金ニ對シ特別ノ權利ヲ有スルヤ否ヤ及此ノ權利ノ性質

七 振出人ハ小切手ノ支拂ノ委託ヲ取消シ又ハ支拂差止ノ手續ヲ爲シ得ルヤ否ヤ

八 小切手ノ喪失又ハ盜難ノ場合ニ爲スベキ手續

九 裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對スル選求權保全ノ爲拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ必要トスルヤ否ヤ

第八十一條 拒絕證書ノ方式及作成期間其ノ他小切手上ノ權利ノ行使又ハ保存ニ必要ナル行爲ノ方式ハ拒絕證書ヲ作ルベキ地又ハ其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム



324
KBS

(改正商法)

昭和二十三年八月二十五日 印刷
昭和二十三年八月三十日 發行
定價金四拾圓

編者 高文社編輯部
發行者 京都市上京區北山四丁目十一
 增 永 勇 二
 京都市下京區烏丸五條下ル大坂町
印刷者 國際文化協會
 京都市上京區北山四丁目十一

發行所 高文社
 電話上三五八七番
 出協會員番號A二一三三七

